

察ノ主タル作用ハ犯則者ヲ搜索逮捕シ又犯則非行ヲ豫防禁制スルニ在リ。
 犯罪ノ所爲ヲ處罰スルハ司法裁判所ノ職司ニシテ之ヲ訴追スルハ檢事ノ職權
 ニ存ス。故ニ警察官カ犯罪ノ踪跡ヲ搜索シ其ノ者ヲ逮捕スルハ檢事ノ職司ヲ補
 助スル者ニシテ警察官ハ檢事ノ命令ニ依リ動作スヘキ者タリ。茲チ以テ犯罪人
 ヲ搜索逮捕シ非行ヲ既發ニ禁壓スルヲ目的トスル警察ヲ或ハ司法警察ト稱ス
 ルナリ。然レトモ所謂禁壓警察ハ内政警察ノ一部ニシテ此ノ場合ニハ警察官ハ
 上級行政廳ノ監督ノ下ニ在ルト同時ニ亦檢事ノ命令ニ服從シテ其ノ職掌ヲ行
 フヘキナリ。

犯罪ノ所爲ヲ未發ニ豫防スルハ所謂豫防警察ナリ。反則非行ヲ間接ニ防止スル
 行政行爲ハ今茲ニ列舉解説スルコトヲ得ス。特定ノ人ニ對シ直接ニ其ノ者ノ犯
 罪所爲ヲ豫防スルノ名義ニ於テ其ノ者ノ身體ノ自由ヲ檢束スルハ特ニ法律ノ
 規定ニ因ル者ニシテ人身ノ自由榮譽ニ關スル最大ナリトス。

個人ノ生活ノ状態ニ於テ特ニ犯罪非行ヲ爲スノ危害アリト認メタルニ因リ又
 ハ既ニ刑罰ニ處セラレシ者ニシテ仍犯罪ヲ重スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ
 其ノ者ヲ特ニ警察權ノ監督ノ下ニ置キ身體ノ自由ヲ檢束シテ危害ヲ豫防スル
 場合アリ。

現行刑法ニ規定セル監視ノ制ハ其ノ一ナリ。監視トハ主刑ノ終リタル後仍將來
 ヲ檢束スル爲ニ警察官ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者ナリ。警察ノ監視ニ
 附セラレタル者ハ住居及移轉ノ自由ヲ制限セラル。監視ハ司法裁判所ノ宣告ニ
 因ル者ニシテ其ノ規則ハ刑法附則ニ定ムル所ナリ。

犯人ニ對スル監視ノ外又特ニ生活ノ状態ニ於テ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト
 認ムル者ヲ豫戒シ又其ノ住居移轉ノ自由ヲ制限スルコトアリ。徘徊浮浪一定ノ
 生業ヲ有セス又ハ平素粗暴ノ言論行爲ヲ事トスル者ニ對シテハ將來ニ向テ左
 ノ各項ノ全部若ハ一部ノ所爲ヲ爲シ又ハ其ノ所爲ヲ煽動スヘカラサルコトヲ
 命令シ又ハ其ノ居所ヲ制限スルコトヲ得。

一、何等ノ辭柄ヲ以テスルニ拘ハラス財物ヲ強請スル所爲。

二、他人ノ公私ノ業務ニ干渉シ言行計略ヲ以テ強迫若ハ侮辱シ又ハ其ノ自由ヲ妨害スルノ所爲。

三、他人ノ開設セル集會ニ立入り妨害スルノ所爲。

此ノ命令ハ一定ノ期間ヲ定メテ之ヲ爲ス但シ改悛ノ情狀顯著ナル者ニ對シテハ何時ニテモ此ノ命令ヲ解除スルコトヲ得ヘシ又此ノ命令ニ違背スル者ハ特ニ處罰ス。

以上ノ法規ハ法律若ハ勅令ニ由リ一般ニ通スルノ制度タリ。反則非行ヲ未發ニ警戒スルノ目的ヲ以テ自由ノ制限ヲ爲ス警察行爲ハ實質上之ニ止ルヘキ者ニ非ス。然レトモ我カ國現行ノ制或ハ法律ノ未タ不備ナル所アリ又從來ノ慣行ニ因リ重大ナル警察權ヲ地方官廳ノ職權ニ委任スルカ故ニ極テ重要ナル警察ノ法規カ地方警察令ノ形式ニテ發布セラル。茲ヲ以テ警察ノ法則及自由ノ制限カ此ノ單一ナル標準ノ範圍ニノミ限ル者ト誤解スヘカラス而シテ地方警察規則ハ性質上其ノ一地方ニノミ効力ヲ有シ一般ノ規程トシテ茲ニ掲クルコトヲ得

ス。又各地方各便宜ニ從ヒ其ノ制ヲ異ニスルカ故ニ概括シテ論スルコトヲ得サルハ言ヲ待タサルナリ。

(法令刑法附則 明治十四年豫戒令 明治二十五年省令、廳令、府縣令及警察令ニ罰則ヲ附ス 明治二十三年九月勅令)

第四款 公安警察

警察ノ目的ハ凡テ公ノ安寧秩序ニ在ルカ故ニ特ニ公安ヲ安寧警察ノ一種ト爲スハ嚴正ナル論理ノ分拆ニ基クニ非サルコトハ既ニ説明セルカ如シ。唯警察法規ヲ分類スルノ便宜ニ由リ特ニ其ノ法規ノ主タル効用カ國家及社會全體ノ秩序ノ維持ニ在ル場合ヲ治安若ハ公安警察ト稱スルニ過キサルナリ。公安警察ノ本領ハ概シテ其ノ目的ト危害ノ性質トニ由リテ解スヘシ。其ノ主眼トシテ保持セント欲スル所ハ國家社會ノ公ノ秩序ナリ。國權ノ安固、民衆公同ノ安寧ナリ、其ノ防止セント欲スル秩序ノ危害ハ専ラ多數合同ノ勢力ニ由リ又ハ

多○數○ノ○人○ノ○上○ニ○及○ホ○ス○影○響○勢○力○ニ○由○リ○テ○發○生○ス○ル○所○タ○リ○。此ノ種ノ危害カ單ニ個人ノ私安ニ關スルニ止マルコトモアルヘク、又個人單獨ノ所爲ニテ多數ニ影響スルニ原因セス直接ニ國家社會ヲ紛擾スルコトモアルヘシ。然レトモ概シテ云ヘハ多數合同ノ勢力、及多數ニ影響スル勢力ヨリ發生スル危害ハ多ク國權ノ安固若ハ社會ノ公同ノ安寧ヲ危フスルカ故ニ實際ニ於テ公ノ治安ヲ目的トスル高等警察ハ主トシテ此ノ種ノ危害ヲ豫防シ禁壓スルコトヲ其ノ本領トスルナリ。

多○數○合○同○ノ○勢○力○ハ○集○會○結○社○ニ○由○リ○テ○成○リ○直○接○ニ○多○數○ノ○上○ニ○影○響○ヲ○及○ホ○ス○勢○力○ハ○言○論○著○作○印○行○ノ○類○最○大○ナ○リ○ト○ス○。祭○祠○宗○教○學○術○技○藝○商○業○遊○戲○等○普○通○民○俗○ノ○慣○行○ニ○於○ケ○ル○多○數○ノ○會○合○及○演○技○等○ニ○由○リ○テ○生○ス○ル○危○害○ハ○多○ク○人○身○風○俗○衛○生○等○ノ○尋○常○ノ○警○察○取○締○ニ○屬○シ○概○シ○テ○地○方○警○察○規○則○ニ○由○リ○テ○規○律○ス○ル○所○ナ○リ○。其ノ目的ノ專ラ政治ニ關シ又ハ社會ノ公ノ制度ノ上ニ影響スルニ在ル場合ニ於テハ特ニ全國一般ニ法令ノ規定ヲ要スルナリ。

言論、著作、印行、及集會、結社ノ自由ハ憲法ノ保證スル所ニシテ法律ニ依ルノ外之ヲ制限スルコトヲ得ス。故ニ若特別ノ法律ナキトキハ刑法ニ依リ犯罪ノ所爲ヲ構成セサル以上ハ言論集會結社ハ如何ナル目的及方法ニ於テスルモ自由ナルヘシ。若此ノ強大ナル社會ノ勢力ヲ此ノ刑法典ノ狹隘ナル消極的制限ニ止メ其ノ範圍外ニ於テ自由ニ馳奔スルニ任スルトキハ其ノ危害ノ恐ルヘキ明カナリ。若又此ノ貴重ナル自由ノ制限ヲ法律ヲ以テ一ニ行政官ノ職權ニ委任シ警察官カ其ノ認定ヲ以テ公安公益ニ危害アリト爲ストキハ便宜ニ依リ制限スルコトヲ許セハ職權濫用ノ弊生シ易ク又憲法ノ此ノ自由ヲ保證スルノ精神ニ合ハサルナリ。茲ヲ以テ言論、集會、結社ニ對シテハ特ニ其ノ法律ヲ設ケ此ノ貴重ナル自由ノ保護ト制限トノ程度ヲ定メ一方ニ於テハ行政官ノ踰越スヘカラサル警察權限ヲ示シ、一方ニ於テハ侵ス可ラサル個人ノ自由ノ範圍ヲ明畫シ以テ公ノ秩序ト私ノ自由トヲ調和スル者ナリ。

此ノ法理ノ結果トシテ公ノ治安警察ニ對シテハ一ノ制度上ノ特色アリ。他ノ尋

常警察ノ事項ニ付キテハ行政官ニ與ヘラレタル概括ノ委任ニ因リ安寧秩序ヲ保持スル爲ニ法律勅令ニ抵觸セサル限ハ警察規則ヲ發布スルコトヲ得ヘシト雖此ノ治安警察ノ範圍ニ於テハ安寧秩序ノ爲メニスル口實アルモ警察規則ノ形式ヲ以テ更ニ法律ヲ補充スルコトヲ得ス。此ノ警察範圍ニ付キテハ行政官ハ之ヲ執行スルニ止リ法律ヲ補充スル警察規則ヲ發スルノ餘地ナキナリ。若其ノ必要アラハ法律ノ特別ノ委任ニ因ルコトヲ要ス。官制ニ於ケル概括ノ警察權限ノ委任ニ籍口シテ法定ノ自由ノ限界ヲ更ニ伸縮スルコトヲ許ササルナリ。

第五款 集會及結社

集會及結社ノ自由ハ憲法ノ保證スル所ニシテ法律ノ範圍内ニ於テ各人ノ享有スル者ナリ。故ニ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ制限セラルルコトナシ。集會及結社ハ自由ニシテ官府ノ特許ヲ要セス。或ハ届出若ハ登録ヲ要シ、又ハ解散ヲ命セララルル場合アリト雖、集會ニ結社スル行爲ヲ豫メ禁止スルニ非サルナリ。

リ。
集會ハ或ル共同ノ行爲ヲ爲スノ目的ニテ多數ノ會合スル者ナリ。偶然ニ起ル群集ト區別スルコトヲ要ス

何人ト雖戎器ヲ携帯セス平穩ニ集會スルハ自由ナリ。但シ其ノ目的カ秩序ヲ害シ、若ハ國法ノ禁止スル所ナルトキ、又ハ其ノ方法カ安寧秩序ヲ害スルノ狀況アルトキハ警察權ヲ以テ之ヲ解散スルコトヲ得。

屋外ノ集會ハ各人ノ法律上ノ權利トシテ享有スル自由ニ非ス。民俗ノ慣行ニ由ル會合ハ之ヲ問ハス、其ノ他ノ者ハ警察官ノ特許二十四時間前届出認可アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス。右執レノ場合ニ於テモ警察ノ目的ノ爲ニ之ヲ解散セシムルコトヲ得ヘシ。又帝國議會ノ開期中其ノ三里以内ノ地ニ於テハ民俗ノ慣行ニ由ルノ外ハ屋外ノ集會ヲ禁ス。
政治集會ハ國ノ政治上ニ影響ヲ及ホスコトヲ目的トスル者ナリ。其ノ意志ハ言論ニテモ又舉動ニテモ之ヲ表示スルコトヲ得ヘシ。我カ行政法律ハ特ニ言論ヲ

以テ其ノ意志ヲ表示スル集會ニ對シ特別ノ制限ヲ規定ス。

集會及政社法ニ於テ政談集會ト稱スルハ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲
公衆ヲ會同スルモノヲ謂フ。其條蓋此ノ法律ノ精神ハ其ノ文字ノ如ク汎カテス、
其ノ談論スル所カ政治ニ關スル事項ナリヤ否ト云フハ直接ノ標準ニ非ス寧ロ
其ノ談論ノ目的カ國ノ政治ニ影響ヲ及ホス希望ニ存スルヤ否ニ由リテ決スヘ
キニ似タリ。現行ノ制度ヲ研究スル目的ニテ談論スル者ハ政談ト認ムヘカラス、
政治ニ關係ナキ事項ノ講談ニ假托スルモ其ノ目的カ政治上ニ影響ヲ及ホスニ
在ルトキハ之ヲ政談集會ト認ムルコト或ハ却テ此ノ法律ノ精神ナラン。
政談集會ハ一般ニ集會ニ對スル法律ノ制限ニ從フノ外仍左ノ制限アリ。
政談集會ハ特許ヲ要セサレトモ届出ヲ要ス。其ノ開會二十四時以前ニ集會ノ場
所集會ノ時日、發起人ノ氏名、住所講談論議者ノ氏名ヲ届出ルコトヲ要スルナリ。
公權剝奪及停止中ノ者及外國人ハ其ノ發起人ト爲ルコトヲ得ス。且ツ外國人ハ
政談集會ニ於テ講談論議スルコトヲ得ス。

左ニ掲クル者ハ政談集會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス。但シ法律ニ
依リテ組織スル議會ノ選舉準備ノ集會ハ例外トス。

一、現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人。

二、警察官、

三、官立、公立、私立、學校ノ教員、學生、生徒、

四、女子、

五、未成年者、

警察官府ハ制服ヲ着シタル警察官ヲ派遣シテ政談集會ニ臨監セシムルコトヲ
得ヘシ。政談集會ニアラサルモ其ノ狀況安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムル
トキハ警察官ハ臨監ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ。

結社ハ臣民ノ法律上ノ自由ニシテ法律ニ依ルニ非サレハ警察權ヲ以テ之ヲ禁
スルコトヲ得ス。而シテ法律カ此ノ自由ヲ制限スルハ公益及安寧秩序ノ維持ノ
爲ニスルニ外ナラサルナリ。

集會ト結社トノ區別ハ主トシテ事實ノ認定ニ依ル。多數ノ人カ一時一定ノ場所ニ會合スルハ集會トシ、組織體ヲ爲シ常ニ聯合ノ事實アル者ハ結社トス。社員カ集會ヲ爲ストキハ集會ヲ以テ論スヘキコト勿論ナリ。

結社ハ其ノ形式及目的ニ因リテ法律ノ制限ヲ異ニス。目的ノ何タルヲ問ハス。秘密ノ結社ハ之ヲ禁ス。結社ノ目的カ専ラ商事ニ在ルトキハ商法ノ規程ニ依ル。其ノ他公益私益ヲ目的トシテ結社スルハ公ノ秩序ニ反セサル限リハ民法ノ規程ニ依リ一般ニ自由ナリ。又特ニ法令ヲ以テ組織セシムル社團ハ各其ノ特別法令ニ依ルヘキハ明カナリ。但シ政社ニ對シテハ特ニ保安ノ目的ヲ以テ法律ノ制限ヲ爲ス此レ茲ニ解說ヲ要スル所ナリ。

政社ハ國ノ政治上ニ影響ヲ及ホスコトヲ目的トシテ結社スル者ナリ。現行政社法第一ニ政社ヲ定義シテ政治ニ關スル事項ヲ目的トスル者ナリト謂ヘリ。然レトモ其ノ法律ノ精神ハ其ノ結社ノ目的タル事項カ政治ニ關スル事物ナリヤ否ヲ問フニアラスシテ寧ロ其ノ目的カ政治ノ實際ノ上ニ勢力ヲ及ホサント欲ス

ルニアルヤ否ヲ問フナルヘシ。

政社ハ社員名簿ヲ備ヘ役員ヲ置キ、其ノ組成後三日以内ニ社名、社則、事務所、及役員ノ氏名ヲ届出ルコトヲ要ス。

外國人、及政談集會ニ會合スルコトヲ禁セラレタル者ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス。政社ハ標章及旗幟ヲ用ユルヲ得ス。又他ノ政社ト連結スルコトヲ得ス。結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ内務大臣之ヲ禁止スルコトヲ得。

(法令)集會及政社法 明治二十六年四月法律

第六款 出版

言論著作ハ印刷發行ニ由リテ其ノ勢力ヲ世上ニ及ホスコト最大ナリトス。文書、圖書、印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ發布スルヲ出版ト云フ。言論著作及印行ノ自由ハ憲法ノ特ニ保證スル所ニシテ法律ノ範圍内ニ於テ各人ノ享有シテ奪ハレサ

ル者タリ。而シテ法律ハ文化ノ啓發ノ爲ニ之ヲ保護シ、又安寧秩序ノ爲ニ之ヲ制限ス。出版ノ自由ハ社會ニ洪大ナル利益ヲ與フルト全時ニ亦其ノ濫用ハ秩序ヲ危フシ風俗ヲ害スル極テ大ナリトス。故ニ治安警察ノ範圍ニ於ケル出版法ハ此ノ危害ニ對シ其ノ自由ヲ制限スルノ法規タルナリ。

文書圖書ヲ著作シ、印刷シ、又ハ發行スルハ、一般ニ自由ナリ。豫メ官廳ノ檢閲許可ヲ受クルコトヲ要セス。但シ出版物カ法律ニ依リ治安警察ノ目的ノ爲ニ其ノ頒布若ハ發賣ヲ禁セラレルコトアルヘキナリ。

出版物ノ形式ニ關シテ法律ハ一定ノ要件ヲ示ス。凡出版物ニハ其ノ發行者及印刷者ノ氏名ヲ記スルコトヲ要シ。又出版ハ檢閲若ハ許可ヲ要セサレトモ其ノ出版物ニ部ヲ添ヘ之ヲ届出ツルコトヲ要ス。

出版ノ實質ニ關シテハ法律ハ特ニ左ノ事項ヲ出版スルコトヲ禁ス。

- 一、罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ若ハ賞恤スルノ文書。

二、未タ公判ニ付セサル重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項。

三、官廳ノ機密ニ關シ公ニセサル官ノ文書及官廳ノ議事、但シ其ノ官廳ノ認可シタル者ハ此ノ限ニ在ラス。

四、軍事ノ機密ニ關スル文書圖書。但シ特ニ官廳ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス。

安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞乱スルモノト認ムル文書圖書ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得。故ニ出版ハ自由ニシテ僅カニ輕易ナル手續及實質ノ制限アルニ止マレトモ其ノ出版ハ内務大臣ノ認定處分ヲ以テ警察ノ目的ノ爲ニ何時ニテモ之ヲ禁壓スルコトヲ得ヘク又其ノ處分ニ對シテ訴願ヲ許ササルナリ。

新聞紙及時々ニ發行スル雜誌(政治雜誌)ニ關シテハ一般ニ印刷出版ノ制限ニ從フノ外、仍其ノ手續ニ於テハ届出及保證金ニ關シ特別ノ制限アリ。新聞紙及雜誌ヲ發行セントスル者ハ其ノ發行ノ日ヨリ二週間以前ニ左ノ事項

ヲ記載シ之ヲ届出ルコトヲ要ス。

一、題號、

二、記載ノ種類、

三、發行ノ時期、

四、發行所及印刷所、

五、發行人、編輯人、及印刷人（公權ヲ有スル臣民ノ男子ニ限ル）。

發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届出ト共ニ官廳ニ納ム可シ。

東京ニ於テハ千圓、

京都大坂横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓、

其ノ他ノ地方ニ於テハ三百五十圓、

一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額、

保證金ハ新聞紙若ハ雜誌ノ發行ヲ廢止シ又ハ其ノ發行ヲ禁止セラレタルトキ

ハ之ヲ還付ス。蓋保證金ハ其ノ發行人ニ對スル罰金裁判費用等ヲ徵収スヘキト

キ之ニ充ツルモノナリ。

新聞紙及雜誌ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其ノ事項ニ關スル當人又ハ關係人ヨリ正誤又ハ正誤書辨駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其ノ次回又ハ第三回ノ

發行ニ於テ無償ニテ其ノ請求ニ應スヘシ。正誤書辨駁書ノ字數カ原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其ノ超過ノ字數ニ付キ普通廣告料ヲ請求スルコトヲ得。官報又

ハ他ノ新聞紙雜誌ヨリ抄録シタル事項ニシテ其ノ原出版物ニ正誤辨駁アリタルトキハ其ノ請求ヲ受ケサルモ之ヲ知リタルトキハ亦正誤スヘキ義務アリ。

新聞紙又ハ雜誌ニ記載シタル事項ニ付キ裁判ヲ受ケタルトキハ其ノ次回ノ發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ。

陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シ軍隊軍艦ノ進退又ハ軍機軍略ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得。

内務大臣ハ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞乱スルモノト認ムル新聞紙若ハ雜誌ノ發行ヲ禁止シ。若ハ停止スルコトヲ得。此ノ場合ニハ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ出

出版物ヲ差押フルコトヲ得又外國發行ノ出版物ニ對シテハ內國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ之ヲ差押フルコトヲ得。

(法令)出版法明治二十六年四月法律二十六新聞紙條例明治二十年十二月勅令

第七款 非常警察

人身ノ自由ハ憲法ノ之ヲ貴重シテ保護スル所タルト同時ニ安寧秩序ヲ保持スルハ亦政府ノ貴重ナル職司タリ。故ニ警察法ノ要旨ハ行政官府ニ對シテハ警察ノ目的ノ爲ニ人身ノ自由ヲ制限シ得ヘキ限界ヲ畫シ個人ニ對シテハ政府ノ權勢ヲ以テ侵犯セラレサル自由享有ノ範圍ヲ示スニ在リ警察ノ權限ト個人ノ自由享有ノ範圍ヲ示スニ在リ警察ノ權限ト個人ノ自由トノ限界ノ法規タルナリ。然レトモ此レ平時尋常ノ場合ヲ看テ立法シタル者ニシテ國家社會ノ事變ノ場合ニ於テハ安寧秩序ノ保持ノ爲ニハ普通ノ警察法ヲ停止シ其ノ尋常警察權限ト個人ノ自由トノ限界ノ拘束ヲ解キ警察權ヲシテ臨機急ニ應スルノ自由アラ

シム之ヲ非常警察ト稱スルナリ。

法律ニ於テ定メタル非常警察ノ場合ハ非常保安及戒嚴ナリ。

非常保安ハ戒嚴ノ施行ニ因ラスシテ人身ノ自由ノ最貴重ナル居住移轉ノ自由及集會結社出版ノ自由ノ法律上ノ保障ノ一部ヲ停止シ警察權ノ臨機ノ處分ニ任スル者ナリ。非常保安ノ施行ハ其ノ施行ノ地域期限及尋常警察權ノ停止ノ範圍ヲ明示シテ之ヲ行フコトヲ要ス。

○安寧秩序ヲ保持スル爲必要ナル場合ニ於テハ內務大臣ハ勅裁ヲ經テ地域期限並ニ施行ノ方法ヲ定メ左ノ各項ノ全部又ハ一部ヲ施行スル命令ヲ發スルコトヲ得。

一、公衆ノ集會ハ屋ノ内外ヲ問ハス警察官ノ許可ヲ經サルモノハ總テ之ヲ禁止スルコト、

二、新聞紙及其ノ他ノ印刷物ハ豫メ警察官ノ檢閲ヲ經スシテ發行スルヲ禁スルコト。

三、旅人ノ出入ヲ検査シ旅券ノ制ヲ設クルコト。

戒嚴ハ戰時若ハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若ハ一地方ヲ警戒スル者ニシテ居住及ヒ移轉逮捕審判家宅搜索信書ノ秘密集會結社出版等ニ關スル平時ニ於ケル法律上ノ自由ヲ停止シ警察權及司法權ノ全部若ハ一部ヲ軍隊司令權ニ移ス者ナリ。

戒嚴ヲ宣告スルハ天皇ノ大權ニ屬シ兵馬統帥權ノ行使ニシテ行政ノ權限ヲ以テ之ヲ施行スルコトヲ得ス。行政權ハ地方長官非常急變ノ場合ニ於テ軍隊ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得レトモ戒嚴ヲ宣告シ及兵力ヲ用弁ルコトハ一大權及大權ノ委任ニ因ル軍隊指揮ノ權ニ由ル者ニシテ行政ノ職權ニ屬セサルナリ。但シ戒嚴ノ宣告ハ平時ニ於ケル法律ノ適用及行政司法ノ職權ヲ停止スルノ効果ヲ生スルナリ。

戒嚴ハ之ヲ施行スル地域ヲ明示シテ宣告ス。又戒嚴ハ臨戰地境ニ於ケルト合圍地境ニ於ケルトニ由リテ其ノ効果ヲ異ニス。戒嚴地境ヲ臨戰ト合圍トニ區畫ス

ルハ軍隊統帥大權ノ認定ヲ以テ宣告スル者ニシテ名稱ニ拘ハリ事實ニ推シテ之ヲ定義スルコトヲ得ス。概シテ云ヘハ戰時若ハ事變ニ際シ警戒ヲ要スル地ハ臨戰地境トシ敵ノ合圍若ハ攻撃ニ際シ警戒ヲ要スル地ヲ合圍地境ト爲スナリ。臨戰地境ト宣告セラレタルトキハ其ノ地境ニ於ケル行政警察及司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ハ其ノ地ノ軍隊ノ司令官ノ管掌ニ屬シ地方行政官及司法官ハ其ノ司令官ノ指揮ヲ請ヒ其ノ要求スル所ヲ執行スヘキモノトス。

合圍地境ト宣告セラレタルトキハ其ノ地境ニ於ケル行政司法ノ權ハ其ノ地ノ軍隊司令官ノ權ニ屬ス。故ニ地方行政官ハ其ノ指揮ヲ受ケ軍隊司令權ノ補助トシテ動作スヘキ者タルナリ。

臨戰地境ニ於テハ軍隊司令權ト行政司法權トハ猶併立シテ行動ス。但シ軍事ニ關スル行政司法事件ハ専ラ軍隊司令權ノ指揮ニ屬スルナリ。合圍地境ニ於テハ行政司法ノ權ハ共ニ軍隊司令權ニ移リ行政官司法官ハ其ノ補助トシテ其ノ指揮命令ヲ執行スルナリ。是レ二者其ノ効果ヲ異ニスル所ナリ。

第四節 衛生

第一款 衛生

衛生行政ハ國民ノ身體ノ健康ヲ保全スルヲ目的トス。各人ノ健康ハ各人ノ自衛ニ任スヘシト雖國民ノ健全ハ國家社會ノ元氣ノ消長ニ關スルコト大ナリ。又其ノ健全ヲ危フスル災害ハ個人ノ力ヲ以テ之ヲ防止スル能ハサル場合アリ、且ツ其ノ危害ハ個人ニ出テ個人ニ止マラス延テ公衆ノ健全ヲ危フスルコトアリ、是レ國家ハ人身自衛ノ自由ニ干涉シ以テ公共ノ健全ヲ保持スルコトヲ其ノ職司ノ一ト爲ス所由ナリ。

衛生ハ危害ノ豫防ト既ニ發シタル疾病ノ療醫トヲ目的トスルカ故ニ行政行為ハ自ラ此ノ二部ニ分カル。傳染病ノ豫防及醫藥ノ制度ノ如キナリ。然レトモ豫防療醫共ニ一ニ健康ノ保全ニ在リ實際ニ於テ其ノ分掌ヲ明畫スルノ必要ナシ論

理ニ拘ハラズ衛生ニ關スル法制ノ大要ヲ解説スルニ止ムルナリ。
衛生行政ノ目的ハ其ノ性質上地方警察規則ニ由リテ其ノ目的ヲ達セラルル場合多キカ故ニ法律勅令ハ其ノ重要ナル事項ヲ規定スルニ止マレリ。且ツ衛生法規ハ行政權ヲ以テ各人ノ自由ニ干涉スル限界ヲ示スニ止リテ行政ノ目的タル衛生其ノ物ハ性質上其ノ法規ノ範圍内ニ於ケル事實行為ノ如何ニ存シ法令ノ執行ヲ以テ直ニ其ノ効ヲ生スルニ非ス。茲ニ略說スル衛生法規ノ説明ヲ以テ衛生行政ノ實質ノ解説ト看做スコト勿レ。

第二款 傳染病豫防

傳染病ノ豫防ハ普通地方警察ニ由リ施行スルノ外一般ニ法律ヲ以テ行政警察ノ權限ヲ規定セリ。今茲ニ略說スル所ハ豫防事務ニ在ラス豫防ノ爲ニ各人ノ自由ヲ制限スルノ要点ヲ示スニ止ルナリ。

何チ傳染病ト爲カハ事實ノ問題ニ屬シ行政官ノ認定ニ存ス。法律ハ虎列刺腸室

扶私、赤痢、實布、埤利亞、發疹、瘰癧、扶私、及痘瘡、ノ六病ヲ掲ケ、各其ノ病性ニ從ヒ豫防ノ方法ヲ示スト、雖此レ其ノ顯著ナル者ヲ例示スルモノニシテ法規ノ適用ヲ限定スルニ非サルナリ。

傳染病アルトキハ之ヲ届出ルコトヲ要ス。醫師傳染病ヲ診斷シタルトキハ二十四時間内ニ之ヲ届出ツルコトヲ要ス、其ノ届出ヲ爲ササルトキハ之ヲ罰ス。

傳染病ノ發シタルトキハ其ノ傳播ヲ防止スル目的ノ爲ニ必要ナル場合ニ於テハ居住、通行、及運搬ノ自由ヲ制限スルコトヲ得。傳染病アル家ニハ病名ヲ書シ、門戸ニ貼付シ、交通ヲ遮斷シ、又ハ其ノ患者ヲ特ニ設ケタル避病院ニ移スコトヲ得ヘシ。又貨物ノ運搬、旅客ノ通行、及船舶ノ交通ヲ制限シ、檢疫シ、消毒スルノ規則ヲ設クルコトヲ得ヘシ。

病毒ヲ撲滅シ、傳播ヲ防止スルニ必要ナル場合ニ於テハ其ノ危害アル物品ヲ消毒シ、燒棄シ、若ハ埋却スルコトヲ得ヘシ。又傳染病者ノ死屍ハ一定ノ場所及方法ヲ指定シ、火葬若ハ埋葬セシムルコトヲ得。又病毒發生若ハ傳播ノ危害アル地ニハ掃除清潔法ヲ強制施行スルコトヲ得ヘシ。

痘瘡病ハ種痘ノ方術ニ由リ其ノ危害ヲ豫防スルコトヲ得ヘキカ故ニ種痘ハ一般ニ強行シテ之ヲ行ハシム。種痘ハ幼者ヲ看護スル責任アル者ノ義務ニシテ小兒出生後滿一年以内ニ之ヲ行フヲ本則トス。天然痘流行ノ兆アルトキハ特ニ種痘スヘキコトヲ一般ニ命スルコトヲ得。種痘ヲ受ケタル者ハ醫師ノ種痘證ヲ受領シ必要アルトキハ之ヲ證明スルコトヲ要ス。

飲食物警察ハ特ニ傳染病豫防ノ爲ニスルノミニアラズ一般ニ衛生行政ノ目的ヲ達スルニ於テ最肝要ナリトス、之ニ關スル重要ナル制限ハ犯罪目ノ形式ヲ以テ刑法ニ規定セリ、其ノ他各地方ノ警察規則ヲ以テ之ヲ施行シ、未タ一般ニ警察權限ヲ定メタル法令ヲ發布セサルナリ。衛生ノ目的ノ爲ニスル建築警察ノ類亦此ニ同シ。

(法令)傳染病豫防規則 明治十三年七月布告 檢疫停給規則 明治十二年七月布告

第三款 醫師藥劑師及病院

醫業ハ官ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス。免許ヲ受ケスシテ私ニ之ヲ行フ者ハ刑法ニ依リテ罰セラル。醫術ヲ開業セント欲スル者ハ一定ノ規則ニ由リ其ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス。其ノ開業免狀ハ履歴ニ由リ又ハ試験ニ由リ其ノ資格ヲ審査シテ之ヲ附與ス。醫師其ノ業ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アルトキハ其ノ業ヲ停止若ハ禁止スルコトヲ得。醫師ハ其ノ業ニ付キ裁判上傳染病豫防警察上又ハ人命救護等ニ關シ官府ノ命スル公務ヲ拒ムコトヲ得ス。又故ナク急病患者ノ依頼ヲ拒絕スルコトヲ得ス。

藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ藥劑師ト稱ス。年齢滿二十年以上ニシテ試験ニ由リ藥劑師ノ免狀ヲ受ケタル者ニアラサレハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス。官許ヲ得スシテ私ニ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者ハ之ヲ罰ス。但シ醫師ハ自ラ診療スル患者ノ處方ニ限リ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與ス

ルコトヲ得。藥劑師ハ其ノ藥局ニ日本藥局方第一表ノ藥品ハ必ス之ヲ備ヘ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日、及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス。處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘシ正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス。其ノ處方箋ハ之ヲ騰寫保存スヘシ毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ其ノ日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス。

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得。又藥品ヲ製造シ若ハ販賣スルノ事業ハ凡テ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クルコトヲ要ス。

内務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシメ總テ藥品營業並藥品取扱ニ關スル規則ノ遵行ヲ監視ス。犯則ノ所爲ハ各處罰ノ規程アリ。

病院、癲狂院、其ノ他ノ公ノ治療所ハ官設、公立、若ハ私立ニシテ公益ニ關スル設備トシテ官府ノ特別ノ監視ヲ要ス。然レトモ之ニ對スル一般ノ法制ナシ地方ノ便

宜ニ由リ其ノ規則ヲ定ムルコトヲ得ヘシ。其ノ私ニ開設スル者ニ對シテハ性質上開設者ノ資格維持ノ方法及建築物等ニ關シ一定ノ要件ヲ審査シ特ニ許可スヘキ者ニシテ濫ニ自由設立ヲ許スヘカラス。但シ其ノ認可ハ地方警察權ニ在ルカ故ニ茲ニ其ノ要件ヲ概括シテ論スルコトヲ得サルナリ。

(法令)醫師免許規則 明治十六年十月布告 藥品營業並藥品取扱規則 明治二十二年三月法律

第五節 經濟

一、土地

第一款 公ノ營造物

官有地私有地ノ種別ハ土地所有權ノ所在ニ因ル。國ノ所有ニ屬スル土地ヲ官有地ト稱スルニ過キス。所有權其ノ物ノ本質ハ國ニ屬スルモ一私人ニ屬スルモ異ナルコトナシ唯其ノ物カ公用ニ供セラルルト否トニ因リテ公法上ノ關係ヲ異ニスル所アルナリ。

國有財產 自治體ノ財產カモ之ニ做フ 公共ノ用ニ供セララルトキハ公ノ營造物タリ。公ノ營造物ナルカ故ニ所有權ノ目的物タル資格ヲ失フト云フニ非ス。公ノ營造物ト稱スルハ其ノ物ノ用法ニ由ル種別ニシテ所有權ノ本質所在ニ拘ハラサルナリ。故ニ所有權ハ一私人ニ存スルモ其ノ物ハ公ノ營造物タル資格ヲ有スルコトヲ妨ケス。但シ公ノ營造物ノ所有權ハ國若ハ公ノ自治團體ニ在ルコトヲ通則ト爲スノミ。國有公有ノ土地物件カ公益行政ノ目的ノ爲ニ公用ニ供セラルルトキハ之ヲ公ノ營造物トシ特種ノ法律關係ヲ生ス。公用ニ供セラルルト云フハ其ノ物カ其ノ形體ニ於テ直接ニ公益行政ノ目的タル用ヲ爲ス者ニシテ間接ニ又ハ其ノ價格カ公用ヲ充スト云フノ意義ニ非ス。例セハ道路、河川、港灣、公園、學校、病院、ノ類ノ如シ。

國家モ一私人モ其ノ私權關係ニ於テハ平等ノ地位ニ立チ共ニ私法ノ規定ニ從フヲ本則トス。主義トシテ官有物ナルカ故ニ普通私法ノ範圍外ニ在リト云フコトナシ。唯國有公有ノ財產カ公ノ營造物タル資格ヲ有スルトキハ其ノ物ノ上ニ

於ケル權利ノ得喪ニ付、又其ノ物ノ保護ニ付、特別ノ地位ヲ有スルナリ。
 國ノ公産即チ公ノ營造物ハ普通私法ニ依リテ處分セラレス。私法上ノ權利行為
 ノ形式ヲ以テ其ノ物ノ上ニ於ケル權利ノ得喪ヲ爲スコトヲ得サルナリ。是レ國
 ノ公産ハ民法ノ適用ノ外ニ在リト謂フ所由ナリ。國ノ公産即チ公ノ營造物ハ私
 權ノ目的ト爲ルコトヲ得スト説ク者アルハ誤解ナリ。公ノ營造物カ其ノ公益ノ
 用ヲ爲スハ則チ一私人ヲシテ自由ニ其ノ物ノ上ニ私權ヲ享有セシムルニ由リ
 テ其ノ設備ノ目的ヲ達スルコト多シトス。唯其ノ物ノ上ニ於ケル權利ノ得喪ノ
 名義ト方法トカ特別ノ行政法規ニ由ル行為ニ基クモノニシテ私法ノ權利關係
 ナ適用スヘカラサルナリ。例セハ占有、時効、所有權、地役、等ノ私法上ノ名義ニ
 因リ公ノ營造物ニ對シ私權ヲ主張スル能ハサルカ如シ。
 公ノ營造物ハ又特別ノ保護ヲ受ク。官私ヲ問ハス所有權ノ侵害ハ私法ノ規程ニ
 由リ救済ノ方法アリ、又一般ニ通スル所有權保護ノ警察アルニ止ルナリ。然レト
 モ國ノ公産即チ公ノ營造物ノ侵害ハ所有權ノ侵害タルト同時ニ公益ノ侵害タ

リ。故ニ特ニ營造物規則ヲ以テ之ヲ防止シ之ヲ處罰ス。是レ一般ニ通スル公用物
 保護警察ヲ指スニ非ス各種ノ公ノ營造物ハ各其ノ特別ノ營造規則ニ依リテ保
 護セラレ云フナリ。

故ニ官有公有ノ土地物件カ公ノ營造物タル資格アルト否トハ法律關係ニ於テ
 大差ヲ生スルナリ。而シテ其ノ資格ノ存在ハ其ノ物ノ實質ト國家ノ意志トニ因
 リテ定マルナリ。公用ニ供セラルル其ノ物ノ實質ト之ヲ公用ニ供スル國家ノ意
 志トニ由リテ決スルナリ。故ニ其ノ物ノ形體ノ變更ニ因リ公用ヲ爲スノ實質ヲ
 失ヒ、若ハ其ノ公益ノ實用ヲ爲ト否トニ拘ハラス國家カ其ノ公ノ營造物タル資
 格ヲ奪フトキハ其ノ物ハ單ニ普通所有權ノ物體トシテ處分セララルモノナリ

第二款 土地公用制限

所有權ハ法律ノ範圍内ニ於テ自由ニ物ヲ使用收益處分スル權能ナルカ故ニ法
 律カ公益ノ爲ニ一般ニ所有權其ノ物ノ限界ヲ示スハ所有權ノ制限ト云フヘカ

ラス寧ろ其ノ範圍ノ確定ナリ。然レトモ法律ハ一般ニ所有權ノ存在ヲ認メ而シテ特ニ行政行為ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ許ス場合アリ。是レ所有權ノ制限ナリ。此ノ場合ニハ所有權ヲ消滅シ又ハ移轉スルニ非ス其ノ行政行為ニ因ル特別ノ制限ヲ解除スルトキハ完全ナル原狀ニ復スヘキ本質ヲ失ハサルナリ。故ニ之ヲ所有權ノ本質ノ限界及所有權ノ剝奪徵收ト區別スヘキナリ。

所有權ノ制限カ安寧秩序ノ保持ノ目的ニ因ルトキハ警察制限タリ。其ノ制限カ公ノ營造物ノ設立維持利用ノ爲ニ出テタルトキハ公用制限タリ。

公ノ營造物ノ存在ノ爲ニ其ノ隣接地ノ所有權ヲ特別ノ制限ヲ受クルハ外形ニ於テ國ノ公產ト私有地トノ間ニ於ケル地役ニ類スルノ看アレトモ、其ノ實質ニ於テ又其ノ形式ニ於テ土地公用制限ト隣接地ノ地役トハ全ク異ナレリ。之ヲ混視スヘカラス。其ノ制限ノ目的ハ公用ニ在リ其ノ制限ノ實質及形式ハ公ノ營造物ノ性質ニ因リ各種ノ體様アリテ私法上ノ地役ノ看念ヲ以テ之ヲ律スヘカラサルナリ。

公ノ營造物タル土地ト之ニ隣接スル私有地トノ境界ヲ定ムルハ形式上土地所有權ノ制限ニ非ス寧ろ土地ノ境界ヲ明畫スルニ過キサルナリ。然レトモ行政官府カ其ノ職權ニ因リ行政處分ヲ以テ之ヲ決定スルトキハ單ニ隣接私有地ノ間ニ於ケル私法上ノ權利ノ確定トシテ之ヲ爭フコトヲ得ス行政處分ニ對スル方法ニ於テ其ノ救済ヲ求ムルノ外ナキナリ。例セハ河川道路等ノ幅員境界ヲ行政處分ヲ以テ定ムルノ制限ハ間接ニ隣接私有地ニ對スル制限ノ實アルコト多シ。公ノ營造物ノ利益ノ爲ニ私有地ニ制限ヲ受クル場合ハ公ノ營造物ノ設立維持及利用ノ爲ニ隣接地ノ所有權ノ自由ヲ制限シ又ハ其ニ特別ノ負擔ヲ爲サシムル者ナリ。我カ現行法ニテ概括的ニ其ノ制限ヲ爲スノ權限ヲ一定セス各種ノ公ノ營造物ニ對スル特別ノ法令ニテ之ヲ定ム。故ニ其ノ場合ヲ總括シテ説明スルコトヲ得ス。其ノ顯著ナル者ヲ例示セハ道路鐵道ノ線路ニ沿フ地所ニ於ケル制限、河川其ノ他公ノ流水、城壘、火藥庫、軍港、等ノ保全利用ニ關シ、又ハ社寺、山陵、墓域、等ノ隣接地ニ於ケルカ如キ。公用物ノ存在ノ爲ニ其ノ周圍ノ私有地ノ自由使用

ヲ制限セラルル場合甚々多シトス。

土地公用制限ハ永久ニ繼續シテ行ハレスシテ公ノ營造物ノ設立維持若ハ利用ノ爲ニ一時特定ノ制限若ハ負擔ノ形式ニ於テ行ハルルコトアリ。是レ臨時ノ必要ニ應シテ處分セラルル者ナリ。例セハ公用工事ノ爲ニ隣接地所カ一時占有使用セラレ。又ハ其ノ工事ニ必要ナル物料カ採掘徵收セラレ。道路ノ使用ヲ妨ケ又ハ之ヲ危険ナラシムル工作物カ取毀タルル如キノ類單純ニ秩序維持ノ警察ノ目的ニ出テスシテ公用營造物ノ保護ノ爲ニ行ハルルトキハ亦土地公用制限ノ場合ト看做スヘキナリ。

特種ノ公用營造物ニ關スル特別ノ法令ニ依ラスシテ一般ニ公共ノ利益ノ爲ニスル工事ニ必要ナル場合ニ對シテハ法律ハ一定ノ制限ヲ規程ス。其ノ必要ハ特ニ内閣ノ認定許可ヲ經テ三年ヲ超ヘサル期間内ニ於テ所有者ニ損失ヲ補償シテ其ノ土地ヲ使用スルコトヲ得。其ノ使用カ一年以上ニ亘リ又ハ使用ノ爲土地ノ原形ヲ變更スルトキハ所有者ハ土地收用法ニ依リ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得。

第三款 土地公用徵收

國家ハ財政ノ爲、軍事ノ爲、警察ノ爲、又ハ刑罰トシテ個人ノ資産ヲ徵收シ又ハ剝奪スルコトアリ。然レトモ公益行政ノ目的ノ爲ニモ亦所有權ノ徵收ヲ必要ト爲ス場合アリ。是レ主トシテ土地收用法ノ制定アル所以ニシテ土地ノ公用制限ノミニシテ其ノ使用ヲ充タス能ハサル場合ニ於テハ土地ノ所有權ヲ強制徵收スルコトヲ得ルナリ。

土地公用徵收ハ土地ノ制限ニ非ス。其ノ所有權ノ強制徵收ナリ。其ノ目的ハ公共ノ利益ノ爲ニスルニ限ル。是レ即チ公ノ營造物ノ設立維持利用ノ爲ニスルニ外ナラサルナリ。公用徵收ハ國家カ公益ノ爲ニ權力ヲ以テ強制シテ徵用スルモノニシテ私權關係ニ由ル賣買讓渡ヲ以テ之ヲ論スルコトヲ得ス。之ニ對シ賠償ヲ與フルハ特定ノ事情ニ由リ特定ノ人カ公益ノ爲ニ特別ノ負擔ヲ爲スカ故ニ其

ノ負擔ナ一般ニ均一ナラシムル精神ニテ國民ノ租稅ヨリ成ル國庫金ヲ以テ之ヲ其ノ特別負擔者ニ賠償スル者ナリ賣買ニ由ル代價ト混視スヘカラス。公益工事カ政府ノ起業タルト一私人ノ起業タルトハ公共ノ利益タルニ於テ異ナルコトナシ。公益工事ヲ一私人ノ起業トシテ許スヘキヤ否ハ又別ノ問題ニ屬ス。政府カ公益行政ノ目的ニ合スルト認メタルトキハ土地ノ公用徵收ヲ行フナリ。一私人カ其ノ起業者タル場合ニ於テモ公用徵收ハ起業者ト所有者トノ間ニ於ケル私權關係ニ非ス。起業者ノ公私ヲ問ハス政府カ徵收者タルモノナリ。公益ノ爲ニ國權ヲ以テ之ヲ徵收シ又公益ノ爲ニ之ヲ起業者ニ附與スルナリ。實際ノ手續キニ於テ便宜ノ爲起業者カ直接ニ所有者ニ對スル如キ形式アレトモ之カ爲ニ其ノ法理ヲ誤解スヘカラス。

土地公用徵收ヲ行フコトヲ得ヘキ目的ハ公用營造物ニ關スル工事ナリ。法律ハ尙其ノ範圍ヲ示シテ其ノ濫用ヲ防カントス。土地收用法ハ特ニ左ノ種類ヲ列舉ス。

- 一、國防其ノ他兵事ニ要スル土地。
 - 二、國、府、縣、郡、市、町、村、及公共組合、ノ直接ノ公用ニ供スル土地。
 - 三、官立、公立、ノ學校、病院、其ノ他學藝及慈善ニ供スル土地。
 - 四、鐵道、電信、航路標識、及測候所、ノ建設用地。
 - 五、河川溝渠ノ堀鑿、道路、橋梁、埠頭、水道、及下水ノ築造用地。
 - 六、防火、及水害豫防、並ニ檢疫所、火葬、其ノ他公衆ノ衛生ニ要スル土地。
- 土地公用徵收ハ(一)公益ノ認定(二)地域ノ確定(三)損失補償ノ手續ヲ要ス。
- 土地收用ヲ請求スル特定ノ工事カ公共ノ利益ニ合フヤ又土地收用ヲ必要トスルヤ否ハ法則ヲ以テ豫定スルコト能ハス。故ニ其ノ必要ヲ認定スルハ内閣ノ職權ニ屬ス。但シ國防上ノ工事ニ關シテハ主務大臣之ヲ決定ス。
- 工事ノ認定ヲ得タルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ工事準備ノ爲其ノ土地ニ立入り測量又ハ檢査ヲ爲スコトヲ得。但シ損害ヲ賠償スルコトヲ要ス。工事ノ仕様及收用又ハ使用ス可キ土地ノ區域、確定シタルトキハ起業者ハ其ノ仕様書並ニ

圖面及損失補償金額見積書ヲ所有者及關係人ニ示シ協議ヲ遂クヘシ。但シ國防上ノ用地ニ關シテハ仕様書及圖面ヲ示ササルコトヲ得。

若協議調ハサルトキハ起業者ハ其ノ所用地區及補償金額ニ關スル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差出シテ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ要ス。地方長官此ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ公告シ、此ノ書類ヲ十四日間公衆ノ縦覽ニ供フ。土地所有者及關係人ハ此ノ公示期間内ニ意見ヲ述フルコトヲ得。

此ノ公示期間ヲ過キタルトキハ土地收用審査委員會ヲ開ク。其ノ委員ハ府縣會常置委員ヲ以テ之ニ充テ必要アルトキハ專門技術家ヲ委員中ニ加フヘシ。土地收用委員會ハ仕様其ノ他ノ手續ヲ審査シ、所有者及關係人ヨリ差出シタル意見書ノ當否、收用地ノ區域及時期、並ニ補償ノ金額ヲ裁決ス。補償ノ金額ヲ裁決スルニハ先ツ二名以上ノ鑑定人ヲ選ビ其ノ見積書ノ當否ヲ調査セシムルコトヲ要ス。

土地收用審査會ノ工事仕様ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ達ヲ受ケタル

日ヨリ七日以内ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得。訴願ノ提起アリタルトキハ起業者ハ工事ニ着手スルコトヲ得ス。内務大臣ノ裁決ニ對シテハ更ニ訴願シ又ハ訴訟スルコトヲ得ス。補償金額ニ關スル委員會ノ裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所へ出訴スルコトヲ得。此ノ場合ニハ工事ノ着手ヲ猶豫スルヲ要セス。

損失補償ハ收用若ハ使用スル土地、建物、及附屬スル物ノ價格ニ對スルノミナラス收用使用ニ由リテ生スル總テノ財産上ノ損害(分割ニ由ル殘地ノ減價ノ類)ヲ賠償ス。又收用若ハ使用ノ補償金額ノ決定ニ漏レタル損失ヲ發見シタルトキハ所有者及關係人ハ收用使用ノ日ヨリ三箇年以内ニ其ノ補償ヲ請求スルコトヲ得。

損失補償ハ賣渡ノ代價ニ非ス賣買ヲ以テ論スルコトヲ得ス。土地收用ハ其ノ地區ノ確定ニ由リテ成立シ、其ノ所有權ハ之ニ由リテ移ル。補償金ニ異議アルニ拘ハラサルナリ。若所有者補償金ヲ受取ルコトヲ拒ムトキハ起業者ハ之ヲ地方廳

ニ供託シ其ノ土地ヲ占有スルコトヲ得ルナリ。
土地公用徵收ハ公益ニ必要ナル特定ノ目的ノ爲ニ行フ強制ナルカ故ニ其ノ收
用地ノ使用カ其ノ公用營造物タル資格ヲ失ヒタルトキ(又其ノ工事ノ中止ハ舊
所有者ニ反還スヘキヲ本旨トス。故ニ法律ハ此ノ場合ニ舊所有者カ原價ヲ以テ
之ヲ買戻ス權アルコトヲ認ムルナリ。

(法令)土地收用法明治二十二年七月法律土地收用協議會規則明治二十三年七月法律

第四款 農業

農事行政ノ主旨ハ耕作地及農産物ニ對スル災害ヲ豫防シ又農業ノ保護發達ヲ
計ルニ在リ。而シテ一般ノ行政法令トシテ規程スル所ハ其ノ行政ノ實質ノ一部
分ニ止リ之ヲ以テ農業行政ノ實質上ノ範圍ヲ畫スルモノニ非サルハ明カナリ。
法律命令ノ範圍内ニ於テ又個人ノ法律上ノ自由ト權利トヲ侵ササル限度ニ於
テ行政官府ハ農業ノ保護及進歩ノ爲ニ有益ト認ムル施政ヲ爲スハ其ノ職司タ

リ、之ヲ説明スルハ農政ノ實質論ニ涉リ行政法理ノ解釋ニ直接ニ關セサルコト
ハ辨セシテ明カナリ。

農業ニ關スル危害ハ人爲ニ由ルアリ自然ニ由ルアリ、其ノ人爲ニ由ル者ハ一般
ノ安寧秩序及財産保護ノ普通警察ノ形式ニ據リ其ノ危害ヲ防止ス。或ハ之ヲ田
野警察ト稱ス。然レトモ其ノ名稱ハ警察行爲ノ田野ニ關スル者ヲ總稱スルニ過
キス別ニ特種ノ警察形式アルニ非ス、警察規則及處分カ農業田野ノ保護ヲ實質
トスル場合ヲ云フナリ。其ノ危害ノ自然力ニ因ル者ニ付キテハ專ラ害ヲ耕作地
及農産物ニ及ホスコト極メテ大ニシテ特種ノ豫防ヲ計畫スヘキ者アリ蟲害、水
害、獸疫ノ類ナリ。

田圃蟲害豫防規則ハ地方ノ狀況ニ據リ地方長官ノ命令權ヲ以テ之ヲ定ム。故ニ
一般ノ法規トシテ其ノ實質ヲ茲ニ掲グルヲ得ス。蓋蟲害ノ蔓延ハ公共ノ大害ナ
ルヲ以テ其ノ發生シタル田圃ノ耕作者ニシテ之ヲ驅除スル義務ヲ有セシムル
ノミナラス必要ノ場合ニハ害ノ及フヘキ虞アル地區ノ人民ヲシテ驅除ニ從事

セシメ且ツ其ノ豫防ノ費用ハ町村ノ公費ト爲スコトヲ得ヘシ。
 水害豫防ハ政府及自治團體ノ公ノ工事トシテ提防、浚渫、砂防等ノ經營ヲ爲スハ
 一般ニ公ノ營造物ノ設備維持ノ法ニ依ルモノタリ、且ツ出水危険ノ場合ニ於キ
 テハ其ノ地方ノ人民及物件ヲ徵用シテ臨機必要ナル災害ノ防止ヲ爲スコトヲ
 得ヘシ。又地方長官ハ水利組合條例ニ依リ水害ヲ受クル處アル地方ニ水害豫防
 組合ヲ設置セシメ水害ノ豫防ヲ利害關係アル土地所有者ノ公ノ義務トシ、又市
 町村ハ非常危害ニ備フル爲其ノ條例ヲ以テ水防組ヲ組織スルコトヲ得ヘシ。
 獸疫豫防法ハ行政權ヲ以テ牛、馬、羊、豚、犬等ノ農工用ノ家畜類ノ病毒ヲ撲滅シ其
 ノ蔓延ヲ防止スルノ目的ノ爲ニ財產及運搬ノ自由ヲ制限スル範圍ヲ明書ス。此
 レ等ノ法令ハ警察官ヲシテ施行セシムルコトアルカ故ニ警察處分ノ形式ヲ以
 テ行ハルルコトアレトモ其ノ實質ハ經濟行政ニ關スルナリ。
 獸疫ノ發生アリ又ハ發生ノ疑アルトキハ所有者管理人又ハ獸醫ハ直ニ之ヲ届
 出ルコトヲ要ス。行政官ハ獸疫ノ傳播ヲ防止スルカ爲ニ病獸ノ銷蝕若ハ隔離ヲ

命シ及必要ナル消毒方法ヲ施行スルコトヲ得。此ノ病毒撲滅ノ方法トシテハ病
 獸ヲ撲殺シ又病毒ニ汚染シタル物品ヲ燒棄、埋却若ハ消毒ヲ行フコトヲ得ヘシ。
 但シ此ノ場合ニハ法律ノ規程ニ依リ物品及發病前ノ獸類ノ價格ノ一部ヲ補償
 ス。又獸疫豫防上必要ナルトキハ獸類ノ出入、往來、並ニ病毒傳播ノ虞アル物品ノ
 運搬ヲ停止シ、若ハ檢疫ノ制ヲ施行シ、又ハ屠獸場及獸類化製場ノ營業及市場共
 進會ノ開設ヲ停止スルコトアルヘシ。
 農業ヲ保護シ其ノ進歩ヲ計ル行政上ノ設備ハ之ヲ列舉説明スルコトヲ得ス。法
 令ノ範圍内ニ於テ個人ノ自由權利ヲ制限スルコトナク百般ノ措置ヲ爲スハ行
 政ノ自由ニシテ又公益ノ爲ニ必要ナリトス。然レトモ是レ行政ノ事實ニ屬シ直
 接ニ法理ノ解説ニ入ラサルナリ。之ヲ要スルニ法制ヲ以テ直接ニ農事ヲ保護ス
 ルハ農事者ノ耕作地、農産物、及信用、ニ關シ特ニ定メタル制度ヲ其ノ主要ナル者
 トス。
 耕作地ニ對シテハ水利ノ保護ヲ以テ最重要ナリトス。私有地相互ノ間ニ於ケル

水利ハ民法ノ規定ニ依リ之ヲ律ス。一。地。區。公。同。ノ。水。利。ハ。又。町。村。若。ハ。水。利。組。合。ノ。公。共。ノ。事。項。ト。シ。テ。法。律。ニ。依。リ。之。ヲ。計。畫。ス。

水ハ家用及農工事ニ必須ナルカ故ニ土地ノ所有者ハ水ノ使用ニ關シ隣接地ノ利益ノ爲ニ法律上ノ制限ヲ受クルコトアリ。水流地ノ所有者ハ其ノ水路及幅員ヲ變シ流水ヲ使用スルコトヲ得レトモ其ノ下口ニ於テ自然ノ水路ニ復スルコトヲ要シ。土地所有者ハ隣地ヨリ水ノ自然ニ流レ來ルチ妨クルコトヲ得ス。又高地ノ所有者ハ排水ノ爲低地ニ水ヲ通過セシムルコトヲ得ルノ類ナリ。然レトモ耕作地ニ於ケル水利ハ公益ニ關シ土地所有權ノ私法上ノ制限ノミヲ以テ之ヲ保護スルコトヲ得ス。故ニ法律ハ又町村ノ公共事業トシ條例ヲ以テ、又ハ利害ノ關係アル地域ノ所有者ヨリ成ル水利組合ノ規約トシテ之ヲ保護スルコトヲ認許シ以テ農政ノ目的ヲ達スルナリ。

牧畜ハ農産物トシテ又農用、運搬用、及軍用上、甚重要ナルカ故ニ行政ハ勉テ之ヲ保護發達セシムルコトヲ計畫ス。然レトモ專ラ之ヲ誘導補助スルニ止リ法令ニ

依リ強制シテ改進セシムル制ヲ採ラス。但シ歐。亞。及。鐵。蹄。工。ノ。職。業。ニ。關。シ。テ。ハ。公。益。ノ。爲。ニ。其。ノ。營。業。者。ノ。資。格。ヲ。審。查。シ。堪。能。ナ。ル。者。ニ。非。サ。レ。ハ。之。ヲ。許。サ。ス。又。其。ノ。業。務。ヲ。監。督。ス。

農業者ノ信用ヲ保護シ低利ノ資本ヲ得テ土地ノ改良ヲ容易ナラシムルハ最農事ヲ進歩セシムルニ於テ効顯大ナリトス。現行ノ制度ニ於テ未タ其ノ設備ヲ爲サスト雖農事者ヲシテ信用組合ヲ組織セシメ、若ハ特ニ農業ノ爲ニ資本ヲ供給スル銀行ヲ設クルノ類ハ農政保護ノ目的ニ合フ所ナリ。例セハ日本勸業銀行及農工銀行ノ設立ノ如キナリ。日本勸業銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ目的トスル中央ノ銀行ニシテ農業工業ニ對スル信用制度ノ中心ヲ爲シ農工銀行ハ全國各府縣ニ設備シ其ノ地方ノ資本ヲ供給ス。皆年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲シ農工業者ヲシテ低利ノ資本ヲ得テ其ノ生産ノ發達改良ヲ全フスルヲ得セシムル者ナリ。各法律ノ特例ニ依リ國家ハ直接間接ニ之ヲ補助シ又嚴密ナル政府ノ監督アリ以テ其ノ確實ヲ保ス。

(法令)害蟲驅除豫防法明治二十九年三月法律 獸疫豫防法明治二十九年三月法律 水利組合條例明治二十三年六月法律
 獸醫免許規則明治二十三年八月法律 蹄鐵工免許規則明治二十三年四月法律 日本勸業銀行法明治二十九年四月法律
 農工銀行法明治二十九年四月法律

第五款 水利組合

水利ハ農事ニ於テ最モ重ンスル所ニシテ公益ニ關スル極メテ大ナリ。故ニ其ノ關係スル所大ナル者ハ之ヲ公ノ工事トシテ國費及公費ヲ以テ之ヲ經營ス。然レトモ其ノ利害關係ノ區域ハ地方行政團體ノ區畫ト符合セサル場合アリ。又其ノ經營ノ直接ノ利益ハ其ノ地方ノ私有地ノ保護ニ在ルヲ以テ法律ハ利害相通スルノ地域ニ於ケル土地所有者カ公ノ團體トシテ水利組合ヲ設クルコトヲ認メ共同ノ私益ヲ保護スルト共ニ公益ヲ全フセム。

水利組合ノ性質ハ所謂公ノ組合體ナリ。水利組合ハ行政機關ニ非ス。組合員ノ私益ノ爲ニ設立スルナリ。又私ノ社團ヲ成スハ私法ノ一般ノ準則ニ依リ各人ノ自

由ニ屬ス。公法上ノ組合ト謂フハ組合ノ存在目的カ法律ノ指定スル所ニシテ其ノ目的ヲ成就スルコトカ法律ニ對スル團體ノ義務タル場合ヲ稱スルナリ。私ノ組合體ニ於テハ其ノ目的ヲ達スルト否トハ法律ノ關スル所ニアラス。唯公益ト秩序トニ反セサルコトヲ要スルノミ。是レ組合體ニ公私ノ別アル所以ナリ。單ニ組合ノ目的カ公益ニ關スルト否トニ拘ハラズ。之ヲ公ノ組合ト爲スノ理由ハ公益ニ關スルヲ以テナリ。然レトモ公益團體ト公法上ノ組合トハ同一ナラス。公益ヲ目的トスル私ノ組合アルコトヲ知ルヘシ。

水利組合ハ普通水利組合及水害豫防組合ノ二種トス。普通水利組合ハ用惡水等專ラ土地保護ニ關スル事業ノ爲ニ設置シ。水害豫防組合ハ水害豫防ノ爲ニスル堤防、浚渫、砂防等ニ關スル事業ノ爲ニ設置ス。

水利組合ハ利害相通スルノ土地ヲ區域トシ其ノ區域ノ土地所有者ノ一部五名ノ請求ニ由リ、若ハ行政官廳ノ職權ヲ以テ之ヲ設置スルコトヲ得。其ノ區域内ノ土地所有者ハ當然ニ其ノ組合員タリ。組合員タルト否トハ各人ノ自由意志ニ拘ハ

ラサルナリ。組合ハ水利組合條例ニ依リテ設置セラレ協議ニテ定ムル其ノ規約ハ條例ニ違フコトヲ得ス。

組合ノ機關ハ組合會ナリ。組合會ハ規約ニテ定メタル選舉ノ法ニ依リ之ヲ組織シ、專ラ其ノ規約及財政ノ事ヲ議決ス。組合ハ其ノ目的タル事業ノ爲ニ費用ノ負擔ヲ其ノ組合區域ノ土地ニ賦課シ市町村税ノ賦課ニ準シ強制徴收スルコトヲ得。又其ノ事業ノ爲ニ夫役現品ヲ組合員ニ賦課スルコトヲ得。水害豫防組合ニ在テハ夫役ニ限リ其ノ區域内ニ住居スル一般ノ人民ニ賦課スルコトヲ得ヘシ。天災事變ノ爲止ヲ得サル支出若ハ組合永久ノ利益トナルヘキ事業ニ付必要ノ場合ニハ負債ヲ起スコトヲ許スナリ。

水利組合ハ行政官廳之ヲ監督ス。組合ハ行政官廳ノ許可アルニアラサレハ之ヲ廢止スルコトヲ得ス。水害豫防組合ハ行政官廳ニ於テ組合ノ意見ヲ聞キ之ヲ廢止スルコトヲ得ヘシ。規約ノ設定、組合區域、不動産ノ處分、及起債等ノ重要ナル組合會ノ議決ハ監督行政官廳ノ認可ヲ要ス。又出水ノ爲危険アルトキハ水利組合

ハ監督官廳ノ命令ニ從ヒ從事スヘキ義務アリ。

(法令)水利組合條例 明治二十三年六月法律

第六款 森林

森林ノ經營ハ其ノ所有者ノ利害ニ止マラス社會ノ經濟及公益ノ上ニ直接ノ關係アルカ故ニ法律ハ公益ノ爲ニ其ノ處分ノ自由ヲ制限シ又特別ノ保護ヲ爲ス。

森林行政法ハ森林所有權ノ自由ト官廳ノ監督制限トノ範圍ヲ示ス者ニシテ(一)森林ニ對スル所有權ノ制限、(二)森林特別保護及(三)林業組合ノ規定ヲ明カニス。森林經濟ハ直接ニ法理ノ解説ニ入ラス茲ニ説ク所ニ在ラサルナリ。

森林ノ所有者其ノ森林經濟ノ保護ヲ損スル虞アルトキハ行政官廳ハ營林ノ方法ヲ指定シ又伐木ヲ制限シ所有者ノ費用ニ於テ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得。若其ノ命セラレタル造林ヲ怠ルトキハ政府ニ於テ之ヲ爲シ其ノ費用ヲ徵收シ又ハ造林ニ係ル部分ヲ官私共有七民ノ森林(部分林)ト爲スコトヲ得。

森林ノ伐木跡地ニハ伐木後五箇年以内ニ造林スルコトヲ要スルヲ通則トス。若シ森林ヲ開墾シ又ハ其ノ地目ヲ變換セントスルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ。

公益上特ニ保存ヲ必要トスル森林ハ特別ノ保護制限ヲ爲ス。之ヲ保存林ト稱ス。保存林ト爲スコトヲ得ル者ハ概シテ左ノ類トス

- 一、土地保護ノ爲ニ必要ナル森林、
- 二、水利及水害豫防ノ爲ニ必要ナル森林、
- 三、沿岸ノ魚附ニ必要ナル森林、
- 四、社寺又ハ名所舊跡ノ風致ニ必要ナル森林、
- 五、廻船ノ目標ニ必要ナル森林、
- 六、國郡ノ境界標示ニ必要ナル森林、
- 七、衛生ニ必要ナル森林。

保存林ノ編入及解除ハ利害關係人ノ請求ニ由リ又ハ職權ノ認定ニ由リ行政官

廳之ヲ決定ス。保存林ニ對シテハ營林及保護ノ方法ヲ指定シ且特ニ其ノ保存ヲ要スル目的ニ由リ其ノ使用收益ノ方法ヲ制限スルコトヲ得ヘシ。若指定シタル營林及保護ノ方法ヲ實施セザルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收ス。森林ハ一般警察ニ依リテ保護セラルルノ外仍森林ニ特種ナル危害ノ爲ニ特別ノ警察規則アリ是レ森林警察ナリ。之ニ關スル豫防取締ノ要目ハ左ノ如シ。

- 一、官廳ノ許可又ハ所有者ノ承諾ヲ得シテ森林内ニテ牛馬棧ヲ牽入レ若ハ鋸斧鎌鉈其ノ他林産採取ノ器具ヲ携帯シテ立入ルコトヲ得ス。
- 二、伐木造材ヲ業トスル者ハ其ノ使用スル切判及袖印ヲ警察官ニ届出テ又森林内ニ於テ使用スル鋸斧鉈ニ警察官ノ檢印ヲ受クヘシ、森林内ニ於テハ官廳ノ許可又ハ所有者ノ承諾ヲ得シテ造材スルコトヲ得ス。
- 三、木材賣買ヲ業トスル者ハ其ノ使用スル記號印章ヲ警察官ニ届出且ツ其ノ賣買シタル木材ノ出所、品種、及代價ヲ帳簿ニ記入シ置クヘシ、記號又ハ印影ナキ木材ハ賣買若ハ運搬スルコトヲ得ス、但シ小割薪材ハ此限ニアラス。

四、森林内ニ火入ヲ爲シ、濫ニ焚火ヲ爲シ、炬火ヲ携帯スル等ノ火災ヲ招クノ虞アル行爲ヲ禁ス。

森林ノ主副産物ニシテ未タ人工ヲ加ヘサル者又ハ既ニ人工ヲ加フルモ未タ森林外ニ搬出セサル者ヲ竊取スルヲ森林竊盜ト爲シ特ニ罰則ヲ設ケテ之ヲ處分ス。
林業組合ハ森林共同ノ經濟及保護ノ爲ニ設クル公ノ組合ナリ。一定ノ地域ニ於ケル私有森林(社寺林民林)ノ所有者半數以上ノ請求ニ由リ又ハ行政廳ノ職權ニ由リ必要ト認メタル場合ニ之ヲ設立セシム。其ノ設立アリタルトキハ其ノ地域内ノ私有森林所有者ハ當然ニ組合員タルモノトス。組合ノ組織及設立ノ手續ハ之ニ關スル行政規則ニ準由シ其ノ範圍内ニ於テ規約ニ由リ共同ノ事業ヲ營ムモノナリ。

森林行政ニ關シテハ未タ之ヲ概括シテ規定スル法令ナク主務大臣ノ職權ニ委任ス。然レトモ其ノ行政ノ本旨ハ政府嘗テ森林法案トシテ議會ニ提出シタリ。今

此ノ法案ニ依リ森林行政ノ要旨ヲ明ニシタルナリ。

第七款 狩獵

無主物タル鳥獸ヲ先占シ其ノ所有權ヲ獲得スルハ私法ノ原則ニ依ル私權ノ行用ナリ。而シテ行政法ハ公益ノ爲又警察ノ爲其ノ自由ヲ制限スルコトアリ。是レ玆ニ説明スル所ナリ。

其ノ制限ハ獵者獵具獵場及鳥獸保護ニ關シ法律ヲ以テ狩獵ノ自由ヲ制限スルナリ。

狩獵ヲ爲サント欲スル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス。免許ハ手数料ヲ徵收シ免狀ヲ附與シ出獵ノ際之ヲ携帯シテ證明セシム。柵柵圍障アル所有地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ免許ヲ要セス。滿十六年ニ達セサル者ハ銃器ヲ用弁テ狩獵スルコトヲ得ス。

獵具獵法ニ關シテハ爆發物、据銃、若ハ危險ナル毘及陷筭ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スル

ヲ禁シ又日出前日没後又ハ市街人家稠密ノ場所衆人群集ノ場所ニ於テ若ハ銃丸ノ達スヘキ處アル建物船舶汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スヲ禁ス。獵場ニ關シテハ禁獵地ト共同狩獵地トノ制アリ。禁獵地ハ法律ニテ定メタル者及地方行政廳ニ於テ必要ニ由リ狩獵ヲ禁スル者アリ。御獵場公道公園社寺境内墓地及柵欄圍障又ハ作物植付アル他人ノ所有地及他人ノ共同狩獵地ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス。又地方行政廳ハ土地所有者ノ請求ニ由リ又ハ公益及警察ノ必要ニ由リ禁獵制札ヲ建テ其ノ地域ニ於ケル狩獵ヲ禁スルコトヲ得。共同狩獵地ハ從來地方ノ慣行ニ依リ一定ノ區域ヲ限リ農商務大臣ノ免許ヲ受ケテ之ヲ設定スルコトヲ得。共同狩獵者ハ其ノ地區ニ於テ他人ノ狩獵スルヲ禁止スルノ特權ヲ有スルナリ。鳥獸保護ニ關シテハ鳥獸繁殖ノ爲ニ一般ニ獵期ヲ制限シ又ハ特種ノ保護ヲ必要トスル鳥獸ヲ保護シ又ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス。銃器ヲ使用スル狩獵ニ對シテハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテヲ獵期トシ獵期外ニ狩獵スルヲ禁

ス又特ニ捕獲ヲ禁止シ又ハ停止スヘキ保護鳥獸ノ種類及期限ハ農商務大臣ノ省令ヲ以テ之ヲ定ム。

(法令)狩獵法 明治二十八年三月法律

第八款 漁業

魚介苔藻其ノ他水産動物ヲ採捕スルヲ總稱シテ漁業ト謂フ私有土地ニ於ケル人爲若ハ自然ノ水面ニシテ他ノ水面ト水族ノ通路ヲ缺キタル場所ニ於テ漁業ヲ爲スハ其ノ土地所有權ノ行用ニ屬シ行政法ヲ以テ干涉セサルヲ通則トス。又國ノ領海外ノ大洋ニ於ケル漁業ハ多ク國際條約ニ依リテ規程ヲ設クルヲ通則トス。唯公ノ水面及沿海ニ於ケル漁業ニ對シテハ公益及警察ノ爲ニ行政權ヲ以テ之ヲ規律スルコトヲ得ルナリ。

漁業ニ關シテハ未タ一般ノ法律ノ制定ナシ故ニ之ニ對スル行政規則ハ中央及地方ノ行政官廳ノ職權ニ屬シ今茲ニ一定ノ制限ヲ列序スルコト能ハス從來ノ

慣行ニ由リ制度ノ大要ヲ示スナリ。

公共ノ水面ニ於テ捕漁ヲ爲スハ一般ノ警察規則ノ範圍内ニ於テ各人ノ自由ニ任シ特ニ免許ヲ要セス。然レトモ漁場區域ヲ定メ營業トシテ漁業ヲ爲スハ地方官廳ノ認可ヲ要ス。漁場ノ制ハ専ラ從來ノ慣行ニ依リ區域ヲ限リ其ノ地區ニ於ケル漁業者ノ専用タルアリ又入會權ノ性質アルアリ。

行政官廳ハ水産動物ノ繁殖保護ノ爲ニ或ル種類ノ水産物ノ採捕ヲ禁シ又漁場漁具漁期及採捕ノ方法ニ付制限ヲ設クルコトヲ得ヘシ例セハ保護水産物ノ種類ヲ定メ其ノ採捕ヲ禁止若ハ停止シ水産物ノ繁殖又ハ漁業ヲ妨クルヘキ漁法漁具ヲ禁シ且ツ之ヲ妨害スヘキ農工業ノ排棄物ヲ注流スルヲ禁シ又禁漁場ヲ設ケ其ノ繁殖保護ヲ計ルノ類ナリ。

漁業及漁場ハ一般ノ警察規則ニ依リテ制限セラレ又保護セラレコトハ特ニ説明ヲ要セス。又一定ノ漁場區域ニ於ケル漁業者ヨリ成ル漁業組合ノ慣行アリ。規約ニ依リ共同ノ利益ヲ計リ相互ノ權利ヲ定ム。行政官廳ハ之ヲ監督シ秩序ヲ保

持ス。然レトモ慣行ニ由ル漁業組合ハ私ノ營業組合ニシテ現行制度ニ於テハ未

タ法律上ノ公ノ組合體タル權利ト義務トナ有セサルナリ。
日本朝鮮兩國海濱ニ往來捕魚スル者ニ對シテ特ニ兩國間ニ締結セル條約ニ依リ之ヲ規定ス。兩國議定地方ノ海濱三里以内ニ於テ漁業ヲ營マントスル兩國漁船ハ其ノ船舶船主及乗組員ヲ船主ヨリ對手國ノ官廳ニ届出一定ノ免許料ヲ納メ免許鑑札ヲ受クヘシ。免許鑑札ヲ携帯スル者ハ兩國議定ノ海濱ニ於テ漁業ヲ爲スコトヲ得。又兩國議定地方ニアラサル海濱三里以内ニ於テ漁業ヲ爲スコトヲ禁スルナリ。

第九款 鑛業

鑛物ヲ採掘スル權利ハ私權ニシテ現行鑛業條例ニ於テ特ニ規程スト雖其ノ權利ノ範圍設定移轉變更消滅及土地所有權ニ對スル關係等ハ性質上私法ノ範圍ニ屬シ行政法ノ一部ニ非ス。鑛業ノ特許其ノ保護監督及警察ニ關スル規定ハ行

政權ノ行用ニ屬シ茲ニ其ノ大要ヲ述フル所ナリ。
 鑛業トハ鑛物ノ試掘採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ。鑛物ノ未タ採掘セサルモ
 ノハ國ノ所有ニ屬シ鑛業ハ土地所有權ノ行使ニアラス。故ニ鑛業ハ自己ノ所有
 地ニ於ケルト否トヲ問ハス。政府ノ特許ヲ要シ又特許アルトキハ土地所有權ヲ
 主張シテ鑛業ヲ妨クルコトヲ得ス。土地所有權ト鑛業權トハ法律ノ規定ニ由リ
 並ヒ行ハルル所ニシテ所有權ノ法律上ノ限界ヲ爲スモノナリ。
 鑛物ノ試掘ハ行政官廳ノ認可ヲ要ス。試掘ハ一定ノ地區ヲ限リ一箇年ヲ限リ認
 許スルヲ通則トス。試掘ニ依リ採取シタル鑛物ハ官廳ノ認可ヲ得テ販賣スルコ
 トヲ得。

鑛物ノ採掘權ハ鑛區ヲ定メ鑛物ノ存在スルコトヲ證明シテ出願シ行政官廳ノ
 特許ヲ得テ成立ス。同一ノ地ニ付キ數人ノ試掘又ハ採掘ノ出願アルトキハ出願
 ノ先後ニ依リ其ノ許否ヲ定メ。同時ニ試掘ト採掘トノ出願アルトキハ先ツ採掘
 ノ出願ニ付キ其ノ許否ヲ決ス。特許ヲ得タル採掘權ハ私權トシテ處分スルコト

ヲ得レトモ賣買讓與ハ其ノ特許證ヲ書換ヘサルトキハ無効トス。行政官廳ハ公
 益ニ害アリト認ムルトキハ試掘採掘ノ許可ヲ與ヘス又其ノ許可ヲ取消スコト
 ヲ得ヘシ。其ノ取消處分ニ對シテハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得。

他人ノ試掘ノ年限中ハ其ノ試掘地内ニ於テ同一ノ鑛物ニ付キ採掘ノ出願ヲ爲
 スコトヲ得ス。又其ノ試掘若ハ採掘地内ニ於テ其ノ試掘人若ハ採掘人ノ未タ認
 可ヲ得サル鑛物ノ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スル者ハ試掘人若ハ採掘人ノ承
 諾ヲ經ヘシ。但シ試掘人若ハ採掘人ハ自ら其ノ業ヲ出願セント欲スルカ又ハ認
 可ヲ得タル鑛物ノ試掘若ハ採掘ニ妨害アルトキノ外其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス。
 左ノ場所ニ於テハ試掘又ハ採掘ヲ爲スコトヲ禁ス。

- 一、宮城、離宮、神宮、皇陵、陸海軍所轄城堡、軍港、要港、火藥製造所、火藥庫、及彈藥庫、ノ
 周圍三百間以内ノ場所。
- 二、鐵道、馬車鐵道、公道、河湖、堤防、沼池、社寺、墓地、公園、及建物、ヨリ地表地下トモ其
 ノ周圍三十間以内ノ場所。但シ特ニ官廳若ハ所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ

此限ニアラス。

鑛業人ハ官廳ノ認可ヲ受ケタル鑛業施業案ニ依ルニアラサレハ探掘ヲ爲スコトヲ得ス。又鑛業ヲ一箇年以上休業シ又ハ探掘ノ特許ヲ得タル日ヨリ一箇年以上ニ鑛業ニ着手セサルトキハ行政官廳ハ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得。

鑛物ノ探掘ヲ爲ス土地ノ區域ヲ鑛區ト謂フ。一鑛區ノ面積ハ石炭ハ一萬坪以上、其ノ他ノ鑛物ハ三千坪以上トシ共ニ六十萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス。

試掘又ハ探掘ヲ出願スル目的ニテ他人ノ土地ヲ測量スル爲又鑛業上必要ナル場合ニ於テ損害ヲ賠償シテ他人ノ土地ヲ使用スルコトハ法律ノ許ス所ナリ。而シテ之ニ由リテ生スル其ノ當事者間ノ關係ハ私權ノ問題ニ屬スルナリ。

特ニ鑛業ニ關スル危害ノ豫防ヲ鑛業警察ト稱ス。鑛業警察ハ專ラ(一)坑内及鑛業ニ關スル建築物ノ保安、(二)鑛夫ノ生命、及衛生上ノ保護、(三)地表ノ安全、及(四)公益ノ保護ヲ目的トス。農商務大臣ハ特ニ法律ノ委任ニ因リ鑛業警察規則ヲ定メ法律ノ規程ヲ補充スルノ權ヲ有ス。

砂鑛(砂金、砂錫、及砂鐵)ヲ採取スルノ業モ亦行政官廳ノ許可ヲ要ス。一定ノ採取區域ヲ限リ砂鑛ヲ採取スルノ特許ニシテ專有ノ權トシテ處分スルコトヲ得ルコト鑛物探掘權ノ如シ。其ノ採取區域ノ土地カ他人ノ所有ナルトキハ其ノ承諾ヲ要ス。所有者ハ自ら採取ヲ出願スルトキノ外其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス。但シ承諾ヲ與フルトキハ相當ノ砂鑛採取料ヲ要求スルコトヲ得。其ノ他出願ノ許否特許ノ取消及他人ノ土地使用等ニ關シ大體ニ於テ探掘業ニ關スル規程ト其ノ原則ヲ同フス。

(法令)鑛業條例 明治二十三年九月法律 鑛業條例施行細則 明治二十七年七月農商務省令 鑛業警察規則 明治二十五年三月農商務省令 砂鑛採取法 明治二十六年三月法律 砂鑛採取法施行細則 明治二十七年七月農商務省令

二、商工業

第十款 營業

營業ハ營業ヲ目的トシ獨立シテ之ヲ職業トシ公衆ニ對シテ行フ者ナリ。一定ノ

職業トセスシテ單獨ニ或營利ノ行爲ヲ爲シ又ハ營利ヲ目的ト爲サス又ハ他人ニ使用セラレ若ハ之ヲ補助スルニ止リ獨立ノ業務ト爲サス又家用ノ勞務ニ服スルノ類ニシテ汎ク公ノ交通ニ妨シテ其ノ業務ヲ行ハサル等ノ行爲ハ營業ニアラサルナリ而シテ通常法令ニ於テ營業ト稱スルハ天然物ノ産出ニ係ル業務(農礦業)及高等ナル學術技藝ヲ要スル職業ヲ除キ工業商業及通常ノ勞務ヲ指スニ似タリ今茲ニ此ノ法令ニ普通ナル意義ニ於テ之ヲ説明ス。

營業ノ自由ハ各人ノ自由トシテ又社會ノ經濟ノ公益トシテ之ヲ保護スルハ行政ノ要務ナリ又安寧秩序ノ爲ニ之ヲ制限スルハ警察ノ職司ナリ所謂營業法ハ法律ヲ以テ營業ノ自由ト警察權限トノ限界ヲ明畫シ法律ノ規定ニ因ルニ非サレハ警察權ヲ以テ營業ヲ制限スルコトヲ許サス茲ニ於テ始メテ營業ノ法律上ノ自由アリ。

我カ現行制度ハ特種ノ營業ニ付特別ノ法律勅令アリト雖未タ一般ニ營業ノ自由ニ對スル法律若ハ勅令ノ通則ナシ故ニ行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スルノ普通ノ警察權限ニ依リ法律ノ執行ニアラスヨテ獨立シテ營業規則ヲ定ムルノ餘地ヲ有スルナリ特別ニ法律又ハ勅令ヲ以テ營業法ヲ定メサル一般ノ職業ニ付キテハ行政官廳ノ職權ヲ以テ自由ニ制限ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ一般營業ニ對シテ未タ營業ノ法律上ノ自由アリト云フコトヲ得サルナリ。

適法ノ職業ヲ營ムハ各人ノ自由ニシテ特許ヲ要セサルヲ通則トス公益又ハ營保ノ爲ニ豫メ行政官廳ノ特許ヲ要スル者ハ特種ノ法律勅令ヲ以テ之ヲ定ムルヲ通則トシ行政官廳ノ職權ニ由ル營業規則ヲ以テ或ル營業ヲ一般ニ禁シ願ニ依リ特許スルノ制限ヲ爲スハ單ニ安寧秩序ノ保持ノ目的ニ出ツル例外ナリ。

營業者ノ資格營業ノ場所設備及方法ニ關シ制限ヲ爲スハ法律勅令ノ外行政官廳ノ警察職權ノ行使トシテ亦之ヲ爲スコトヲ得地方行政官廳ノ發スル營業取締規則ノ類是レナリ營業取締規則ニ依リ營業ヲ許否シ禁止シ停止スルモ亦之ニ準ス之ヲ要スルニ現今立法ノ不備ノ爲ニ營業行政ハ専ラ地方行政ノ職ニ委シ各地方其ノ制ヲ同フセサルカ故ニ之ヲ通説スルコト能ハス其ノ權限ヲ示ス

ノミ。
 免許營業トハ一般ニ禁止シ特ニ願ニ依リ免許スル者ナリ之ヲ許否スルノ理由ハ公益若ハ警察ノ目的ニ存スルナリ認可營業トハ行政官廳ニ於テ或營業カ安寧秩序ヲ害セス警察規則ニ準由スルコトヲ認可スル者ナリ其ノ營業ヲ爲スハ法令ノ範圍内ニ於テ一般ニ自由ニシテ特ニ免許ヲ要セス然レトモ其ノ營業ノ開始及方法ハ特ニ定メタル警察規則ニ適合スルニ非サレハ危害アル場合ニハ行政官廳ハ其ノ認可ヲ請フコトヲ要件ト爲スコトヲ得ヘシ届出營業ハ之ヲ開始スルハ自由ナレトモ行政官廳ニ届出ルコトヲ要ス届出ハ一般ノ取締及課税等ノ爲ニ必要ナル場合多シ自由營業ハ届出及認可ヲ要セス開始スルコトヲ得ヘシ。

行政權ノ干涉ハ營業其ノ物ニ對スルニ止ラス營業者ノ資格及營業ノ場所設備及作業方法ニ關シ一定ノ規則ヲ設ケ之ニ依リテ許否ス專ラ災害ノ豫防衛生審議風俗等ノ理由ニ因ルナリ又一定ノ營業場ヲ有スル者屋外ニ於ケル雜業渡世

及市場營業ニ關シ各其ノ取締ノ規則ヲ異ニスルナリ。
 特種ノ營業ニ對シ法律勅令ヲ以テ其ノ規則ヲ定メラレタル者ニ對シテハ行政官廳ハ其ノ法令ニ依リ其ノ執行ノ爲ニスルノ外獨立シテ之ヲ制限スルコトヲ得ス故ニ此ノ場合ニハ營業ノ自由ト行政權ノ干涉トノ範圍明カナリ此ノ類ノ特種ノ營業ハ更ニ各之ヲ解説スヘキカ如シト雖現行ノ行政法律及勅令ニテ此ノ規程ヲ設ケタルモノハ收税ノ爲若ハ治安警察ノ爲ニ或ル種類ノ營業ニ對シ共ニ規定ヲ爲スニ止リ營業其ノ物ノ規則ニ非ス寧ロ税則及警察規則ナリ營業其ノ物ノ規則ハ專ラ地方規則ニ委任スル精神ナルカ故ニ今茲ニ其ノ特別法律及勅令ノ説明ヲ省略ス。

第十一款 營業組合

營業組合ノ舊慣ハ主トシテ同業者ノ數ヲ制限シ以テ自由競争ヲ防キ其ノ利益ヲ專ラニスルニ在リ蓋舊時ハ營業ノ自由ヲ認メス特ニ官許ヲ要シ官府ハ多額

ノ免許料ヲ營業組合ヨリ徴收シ以テ財源ノ一トシ其ノ組合ハ多額ノ納金ヲ爲シテ其ノ營業ノ專權ヲ得ルモノニシテ濫ニ免許ナクシテ營業スルヲ禁スルノ政令ハ組合ノ私益ノ爲ニスルト同一ノ結果ヲ呈シタリ。是レ舊時我カ大市府ニ行ハレタル習慣ナリ。

維新以來營業ノ自由ヲ認メタルニ由リ營業組合ノ性質ハ一變セリ。警察取締ノ爲又ハ同業者共同ノ利益ノ爲ニ組合ヲ設ケ同一地區ニ於ケル同業者ハ必ス組合ニ入ラシムル制ヲ定ムルコトアレトモ組合ハ新ニ營業ヲ開始スル者ノ入會ヲ拒ムコトヲ得ス。組合員ニ非サレハ營業ヲ爲スコトヲ得スト云フノ外形ハ舊慣ト相似タレトモ其ノ主旨ノ全ク異ナルコト知ルヘキナリ。營業組合ハ一定ノ地域ニ於ケル同業者カ共同ノ利益ヲ圖リ又營業上ノ取締ヲ爲スヲ目的トスル者ナリ。而シテ其ノ目的カ則チ行政ノ主旨トスル營業ノ福利ヲ増進シ其ノ弊害ヲ矯正スルノ目的ニ合スルヲ以テ其ノ設立及監督ノ準則ヲ定メ公ノ義務トシテ其ノ目的ヲ達スルコトヲ勉メシム。故ニ營業組合ハ所謂公

ノ組合體タル性質ヲ有スルナリ。組合ノ設立ハ其ノ地區ヲ定メ其ノ地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り管轄廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス。組合ノ設ケアル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スルコトヲ要ス。組合員タル資格ハ法則ノ結果ニシテ各人ノ任意ニ由ラス又組合ハ之ヲ拒絶スルコトヲ得サルナリ。行政廳カ組合設立ヲ認可スルハ其ノ設立ノ目的、規約、及維持ノ方法カ農商務大臣ノ命令タル同業組合準則ニ依リ行政ノ目的ニ反セサルコトヲ審査スルナリ。蓋同一地區ニ同一ノ營業ニ付キ二箇以上ノ組合ヲ設クルハ法則ノ主旨ニ非ス。又規約カ法則ニ掲ケタル要件ヲ欠キタルトキ及組合ヲ維持シテ公ノ義務ヲ遂行スルコト能ハサル事情アリト認めタル場合ニ於テハ認可セサルナリ。組合ノ目的ハ法則ニテ定マレルカ故ニ其ノ目的以外ノ事ヲ爲スコトヲ得ス。營業組合ハ營利組合ニアラス公ノ組合タリ。故ニ營利ノ事業ヲ爲スコトヲ得ス。組合ノ組織ハ規約ヲ以テ定ム。規約ハ行政廳ノ認可ヲ要ス。又組合ノ業務ノ成績

及會計ハ行政廳ニ報告セシメテ之ヲ監視ス。組合員ノ相互ノ關係ハ私權ノ問題ニ屬シ規約及一般ノ組合ノ私法ニ由リテ定マルナリ。

現行法令ニ於テ營業組合ノコトヲ規程スル未タ備ハラズ。故ニ其ノ行政上ニ於ケル効用ヲ法則トシテ玆ニ解説スル能ハサルナリ。蓋此ノ制度ヲ利用シテ農工商業ノ發達ヲ圖リ。又營業警察ヲ執行スル補助ノ機關トシ、極メテ行政上重要ナル者タルハ諸國ノ經歷ニ於テ明カナリ。將來各種ノ農工商業行政ノ改良ハ必ス此ノ制度ヲ種種ノ目的ニ利用スルニ由ル者多カラシ。

(法令)同業組合準則明治十七年十一月農商務省達

第十二款 工業

生産物ニ加工シテ人生ノ需用ニ供スルヲ工業トス。工業ヲ保護獎勵シテ其ノ發達ヲ圖リ又之ニ關スル危害ヲ防キ秩序ヲ保持スルハ經濟行政ノ一大要旨ナリ。行政ハ一般ニ工業ヲ保護シ、特種ノ工業ニ付特種ノ保護ヲ爲ス。所謂營業法ハ其

ノ實質多ク工業全般ノ保護ニ關ス。之ニ加フルニ行政ハ工業ニ關スル組合ヲ設ケシメ、工業ノ學校、工作物ノ陳列場、及博覽會ノ類ヲ開キ工業ノ進歩ヲ計畫スルハ甚必要ニシテ亦之ヲ設備スルコトヲ怠ラス。但シ此等ノ設備ハ法令ノ範圍ニ於テ個人ノ自由ノ制限ニ直接ノ干涉ナク施行スル者ナルカ故ニ特ニ行政法理ノ解説ヲ要セサルナリ。

外國ノ工業ノ競争ニ對シ特ニ内國ノ工業ヲ保護スルノ政策トシテ輸出入ニ付直接間接ニ此ノ目的ヲ達スヘキ制限ヲ爲シ、又ハ補助ヲ與フルコトアリ。又産物ノ品質ヲ公ニ檢定シテ其ノ正確ヲ保スル制アリ。而シテ工業ニ關スル發明者ノ權利及商標ヲ保護スルノ制ハ公益ノ爲ニスルモノニシテ私人ノ專有ノ利益ヲ保障スルト同時ニ工業ノ進歩ヲ促スノ方法タリ。此ノ制ハ特ニ工業行政上必要ナルノミナラス亦一般ノ工業ノ自由ニ關スルカ故ニ特ニ法令ヲ以テ之ヲ規定スルナリ。

第十三款 特許意匠及商標

工業ニ關スル發明ヲ專ラ利用スル特權ヲ附與スルヲ特許ト稱ス。特許ニ由リテ得タル專有權ノ性質ヲ規定スルハ私法ノ範圍ニ屬シ茲ニ説明セス。特權ヲ認許スルハ行政ノ處分ニ屬スルカ故ニ其ノ概要ヲ示スヘシ。

特許ハ發明者ノ私利ノ爲ニ其ノ專權ヲ認ムルヲ主旨トスルノミナラス其ノ專權ヲ保護スルニ因リテ有益ナル發明ヲ誘啓シ由リテ以テ工業ノ進歩ヲ計畫セントスルノ公益上ノ理由ニ出ルナリ。單ニ私權ノ保護ノミニ止ラス故ニ之ヲ公益行政ノ一部ト爲スナリ。

特許ハ新規有益ナル工術、機械、製造品、及合成物、ノ發明ニ對シ出願ニ依リ之ヲ與フ。特許ヲ受クルニハ左ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス。

(一)發明タルコト。發明トハ未タ知ラレサル物ヲ創造スルカ、又ハ新ナル設備ニ由リ物ニ未タ知ラレサル用法ヲ附與スルカ、又ハ物ヲ未タ知ラレサル方法ニテ製

作スルカノ場合ヲ謂フナリ。但シ飲食物、嗜好物、醫藥、並ニ其ノ合成物ニ付テハ特許ヲ與ヘス。

(二)發明ノ新規ナルコト。特許出願以前公ニ用弁ラレタル者ハ特許ヲ與ヘス但シ試験ノ爲公ニ知ラレタルコト二年以内ノ者ハ此限ニアラス。

(三)發明ノ有益ナルコト。有益ナラス又營利ノ業トシテ行使スルコト能ハサル性質ノモノナルトキハ特許ヲ與ヘス。

公益ノ爲普及ヲ要スルモノ、又ハ軍事上必要ナルモノ若ハ秘密ヲ要スルモノト認メタル發明ハ行政廳ハ其ノ特許ヲ制限シ若ハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限シ若ハ之ヲ取消スコトヲ得。但シ此ノ場合ニハ行政官廳ニ於テ相當ト認ムル報酬ヲ發明者又ハ特許證主ニ與フ。

特許ハ五年、十年、十五年、ノ三種ニ分チ豫メ其ノ期限ヲ定メ之ヲ與フ。又特許ハ左ノ場合ニ於テ其ノ効ヲ失フ。

一、特許證主相當ノ事故ナク特許ヲ得タル日ヨリ三年以内ニ其ノ發明ヲ實施

公行セス又ハ三年間其ノ實施公行ヲ中止シタルトキ。

二、特許證主其ノ特許品ヲ外國ヨリ輸入販賣シ又ハ自己ノ特權ヲ侵スヘキ物品ヲ外國ヨリ輸入販賣スルヲ知リテ默許シタルトキ。

工業上ノ物品ニ應用スヘキ形状、模様、若クハ色彩ニ係ル新規ノ意匠ヲ按出シタル者ハ行政官廳ニ申請シ其ノ意匠ノ登録ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得、但シ風俗ヲ害ス可キモノ及既ニ公ニ知ラレ又ハ公ニ用非ラレタルモノハ登録ヲ許サス。意匠ノ専用ノ年限ハ三年、五年、七年、及十年ノ四種トス。

自己ノ商品ヲ表彰スル爲商標ヲ使用セントスル者ハ行政官廳ニ申請シ其ノ商標ノ登録ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得、但シ左ニ掲クル商標ハ登録ヲ受クルコトヲ得ス。

- 一、風俗ヲ害スヘキモノ。
- 二、商品普通ノ名稱若ハ内外國ノ國旗章ノミヲ以テ要部トナスモノ。
- 三、他人ノ登録商標又ハ登録出願以前ヨリ他人ノ使用スル商標ト同一若ハ類

似ニシ同一商品ニ使用セントスルモノ。

商標専用ノ年限ハ二十年トス。登録ヲ受ケタル商標ト雖左ノ場合ニ於テハ登録ノ効ヲ失フ。

- 一、相當ノ事故ナクシテ商標登録ノ日附ヨリ六箇月以内ニ其ノ商標ヲ使用セズ又ハ其ノ使用ヲ一箇年間中止シタルトキ。
- 二、其ノ商標ヲ使用スル營業ヲ廢止シタルトキ。
- 三、其ノ商標ヲ使用スル商品ノ數量、產地、品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ。

四、磨滅若ハ關損シタル商標ヲ使用シタルトキ。

(法令) 特許條例 明治二十一年 特許條例施行細則 明治二十五年
 月勅意匠條例施行細則 明治二十五年
 一月農商務省令 商標條例施行細則 明治二十一年
 一月農商務省令

第十四款 版權

文書圖書ヲ出版シテ其ノ利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云フ。版權ノ實質ハ私權ニ屬シ之ヲ規定スルハ私法ノ範圍ニ在リ。然レトモ版權ハ當然ニ成立セス特ニ行政官廳ニ於テ之ヲ認許スルニ由リテ生ス。又版權ヲ認ムルハ私權ノ保護ノミヲ其ノ目的トセス私權ノ特別ノ保護ニ由リテ文化ノ發達ヲ誘導シ又之ヲ制限シテ著作ノ利益ヲ普及セントスルノ公益上ノ目的ヲ有スルナリ。故ニ版權ヲ認許スル行政行為ノ概要ヲ示ス、其ノ私權ノ性質及行用ハ茲ニ辨スル所ニアラサルナリ。

出版法ニ依リ文書圖書ヲ出版スル者及出版法又新聞紙法ニ依リ雜誌ヲ發行スル者ハ行政官廳ニ申請シテ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得。新聞紙ハ版權ヲ認許セス但シ新聞紙ニ於テ二號以上ニ涉リ記載シタル論說記事又ハ小説及二號以上ニ涉ラサルモ特ニ一欄ヲ設ケ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記シタルモノハ二年內其ノ編輯者ノ承諾ナクシテ之ヲ出版スルコトヲ得ス。

版權保護ノ年限ハ著作ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス。若版權登錄ノ月ヨリ死亡ノ月マテヲ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍三十五年ニ足ラサルトキハ版權登錄ノ月ヨリ三十五年トス。數人ノ合著ニ係ル者ノ版權年限ハ最終ニ死亡シタル者ニ據リテ計算ス。又官廳若ハ團體ノ名義ヲ以テ出版スル者並ニ著作ノ死亡ノ後ニ出版スル者ハ版權登錄ノ月ヨリ計算シ三十五年トス。右ニ定メタル版權年限ヲ經過スルモ版權所有者ノ願出ニ依リ行政官廳ニ於テ必要ト見做ストキハ仍十年間其ノ版權保護ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ。

版權登錄ノ文書圖書ニハ其ノ保護年限中版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ。其ノ記載セサルモノハ登錄ノ効ヲ失フ。僞版ハ私權ノ侵害トシテ損害賠償ノ責任ヲ生スルノミナラス版權法ノ違反トシテ處罰セラル。是レ版權ノ保護ハ行政ノ目的タル公益ニ關スルカ故ナリ。

演劇脚本及樂譜ハ出版法及版權法ニ依リ之ヲ出版シ、其ノ版權及興行權ヲ併セ

有スルコトヲ得。但シ興行權ヲ有セントスルトキハ其ノ脚本又ハ樂譜ニ興行權
所有ノ旨ヲ記載スヘシ。

光線ト藥品トノ作用ニ由リ物象ノ眞形ヲ寫スヲ寫眞ト云ヒ寫眞ヲ發行シテ其
ノ利益ヲ專有スルハ版權ニ準シ之ヲ保護ス。寫眞版權ノ保護ノ年限ハ登錄ノ日
ヨリ十年トス。

(法令)版權法 明治二十六年四月法律 脚本樂譜條例 明治二十年十二月勅令 寫眞版權條例 明治二十年十二月勅令

第十五款 商業

商業ハ主トシテ有價物ノ運轉ニ由リ社會ノ需用ヲ充タスコトヲ目的トスル營
業ナリ。商事ハ私權ノ行用ニシテ特ニ商法典ニ於テ之ニ關スル法則ヲ規定ス。行
政ハ商業ヲ保護獎勵シ之ニ關スル秩序ヲ保持スルカ爲ニ必要ナル設備ヲ爲
又取締ノ規程ヲ爲スコトアリ。而シテ此ノ類ノ行政行爲ハ直接ニ私人ノ自由ヲ
制限セスシテ公益ノ目的ヲ達シ得ヘキ場合多ク又其ノ取締ハ一般ノ秩序警察

ノ方式ニテ行ハルルコト多キカ故ニ其ノ行政目的ノ重要ナルニ拘ハラステニ
法理ノ詳説ヲ要スル者少シ。

商法典ハ其ノ立法ノ主旨ハ商事ニ關スル私權關係ノ規定タルニ在レトモ商事
ニ關スル公益ノ規定モ亦多ク其ノ法典ニ編纂セラレタリ。法ヲ公私ニ分界スル
ノ學理ニ拘ハルトキハ此ノ法典ノ一部ハ商事行政法トシテ茲ニ説明スヘキナ
本旨トス。然レトモ實際ノ便宜ト慣行トニ由リ之ヲ併セテ商法トシ別ニ研究ス
ルカ故ニ茲ニ省略スルナリ。商事行政法ハ特ニ商法典ノ研修ニ由リテ其ノ全般
ヲ瞭知スルコトヲ要ス。

商事ハ國際通商ト國內商事トニ大別スルコトヲ得。國際通商ハ國法ニ依リ行政
權ヲ以テ之ヲ規律スト雖其ノ基礎ハ多ク國際通商條約ニ由リテ定マル。故ニ國
際通商ニ關シテハ特ニ國際條約ニ據リ之ヲ審明スルコトヲ要ス。行政權ハ主ト
シテ條約ノ規程ノ執行ヲ完フシ其ノ範圍内ニテ本國ノ利益ヲ進取スルコトヲ
勉ムルナリ。今茲ニ締盟各國ニ對スル通商條約ノ規程ヲ掲ケテ之ヲ詳説スルコ

トチ得ス。是亦特ニ國際法ノ研修ヲ待ツ所ナリ。
商事行政ニ關スル法規ハ商法典及通商條約ニ揭クルノ外ハ商事ノ補助ノ爲ニ
交通及信用ニ關スル設備ヲ爲シ又ハ其ノ保護獎勵ノ爲ニ商事ニ特種ナル機關
ヲ設立スルノ類ニシテ其ノ經濟上ノ効用ノ大ナルニ拘ハラズ法規トシテ行政
權ト個人ノ自由トノ關係ノ準則タルニ於テ其ノ特ニ解説ヲ必要トスル事項多
カラサルナリ。

第十六款 貨幣及度量衡

貨幣ハ物價ノ標準タリ互易ノ媒介タル効用ヲ爲ス者ナリ。此ノ經濟上ノ實用ハ
必シモ法定通貨ニ非サルモ其ノ目的ヲ達シ得ヘシ故ニ經濟上廣ク通貨ト稱ス
ルトキハ所謂法定通貨ノ外仍之ト同シキ實用ヲ爲ス者ヲ併セテ謂フコトアル
ヘシ。法定ノ通貨トハ金錢ヲ目的トスル債務ノ辨濟トシテ提供セラレタルトキ
ハ之ヲ拒ムコトヲ得サルノ強制通用ノ性質ヲ有スル者ナリ。貨幣ハ法定ノ通貨

ニテ強制通用ノ効力アル者ナリ。
貨幣制度ヲ定メ貨幣ヲ鑄造スルハ國家ノ專權ニ屬シ之ヲ一私人ニ許サズ。銀行
カ法律ニ因リ紙幣ヲ發行スルカ如キハ經濟上通貨ヲ發行スルニ似タレトモ所
謂紙幣ハ貨幣ニ非ズ。法定通貨ニ非サルナリ。所謂不換強行紙幣ハ貨幣ナリト雖
現行制ニハ之ヲ發行セス。又一私人ノ申請ニ依リ地金ヲ鑄造シテ貨幣トスル制
アレトモ一私人自カラ之ヲ鑄造スルコトヲ禁スルハ勿論ナリ。
本位貨幣ハ(一圓以上ノ各)強制通用ニ制限ナシ補助貨幣(一圓以下ノ各種)ハ強制通
用ニ制限アリ。補助銀貨ハ拾圓マテ補助銅貨ハ一圓マテ強制通用ノ効力ヲ有ス。
凡ソ貨幣ヲ鑄解シ又ハ其ノ體面ヲ毀傷スル等其ノ他總テ流通ノ用ヲ闕クノ所
爲ハ之ヲ禁ス。貨幣ヲ偽造スルノ罪ハ刑法ニ於テ罰則アリ。
度量衡ハ交通上必要ノ標準ニシテ公益ノ爲之ヲ一定スルノ要ハ仍貨幣ニ於ケ
ルカ如シ。國家ハ度量衡ノ制ヲ一定シ其ノ原器ヲ備ヘ總テ度量衡器ヲ檢定スル
ノ標準トス。

度量衡器ハ行政官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ製作シ修覆シ若ハ販賣スルコトヲ得ス之ヲ製作シ修覆シ若ハ輸入シテ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用スル者ハ豫メ其ノ檢定ヲ受クヘシ行政廳ハ何時ニテモ私人ノ製作修覆販賣若ハ使用スル度量衡器ヲ臨檢スルコトヲ得ヘシ

度量衡法ニ於テ其ノ定義ヲ示スハ法定ノ度量衡ヲ指定スル者ニシテ他ノ度量衡ノ標準ヲ用ユルヲ禁スルニ非ス法律行為ノ當事者カ同一ノ名稱ノ下ニ他ノ慣行ノ意義ヲ有セシメタル意志ノ明カナルトキハ其ノ意志ニ依ルヘキモノタルナリ

(法令)貨幣條例 明治八年六月布告 度量衡法 明治二十四年三月法律 度量衡法施行規則 明治二十四年八月

第十七款 市場及取引所

營業上ノ取引ハ各自其ノ店舗ニ於テスルモ又店舗ヲ定メス戸戸ニ就キテ之ヲ爲ス旅商ノ類モアルヘシ其ノ他多數ノ營業者カ一定ノ場所ニ定期集合シ相互

ノ間及公衆ニ對シ取引ヲ爲スコトモ亦慣行スル所ナリ之ヲ市場及取引所トス

市場ハ多數ノ營業者カ一定ノ場所ニ會合シ貨物ヲ供提シテ之ヲ公衆ニ賣買シ及營業者相互ノ間ニ賣買ヲ爲ス者ナリ取引所ト稱スルハ現品ヲ現場ニ供ヘテ賣買スルニ非スシテ專ラ相場價格ニ付キテ取引シ又一般公衆ニ對シテ公開スルニ非ス其ノ營業者相互ノ間ニ取引スル者ヲ謂フナリ況ク市場ト云フハ此ノ二種ヲ總稱スヘクシテ其ノ性質ヲ同フス而レトモ慣行ニ於テ又法令ノ規定ニ於テ特ニ市場ト取引所トヲ區別スルナリ

市場ニ對シテ法律及勅令ヲ以テ一般ニ行政ノ準則ヲ示サス慣行ニ因リ之ヲ開クコトハ自由ナリ而シテ安寧秩序ノ警察ノ目的ニ於テハ行政廳ノ警察權限ニテ其ノ取締規則ヲ設クルコトヲ得ヘシ現今ノ制ハ專ラ之ヲ地方警察ノ職權ニ委スルカ故ニ其ノ制一ナラス概括シテ之ヲ説クコトヲ得サルナリ

取引所ハ一定ノ法律アリ之ニ依ルニ非サレハ開設スルコトヲ得ス而シテ其ノ組織及規約細則ハ取引所ニ關スル法令ノ範圍内ニ於テ定欸ヲ設ケ行政官廳ノ

認可ヲ得テ之ヲ定ムルナリ。法律ハ取引所ノ組織、會員、取引、及監督ニ付一般ノ規定ヲ明カニス。

取引所ノ設立ハ免許ヲ要ス。取引所ハ賣買取引ノ繁成ナル地ニ於テ一定ノ地區ヲ限リ許スモノニシテ同一地區ニ同種ノ物件ニ關スル數箇ノ取引所ヲ設立スルコトヲ許サス。免許ノ年限ハ十年トス。

取引所ノ組織ハ土地商業ノ情況及賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得。會員組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人及會員ニ限リ。取引ヲ爲スコトヲ得。株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人ニ限リ。取引ヲ爲スコトヲ得ルナリ。

取引所ノ會員、株主、及仲買人タルニハ法律上一定ノ制限アリ。會員タルニハ一箇年以上其ノ取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人タルコトヲ要シ定款ノ規程ニ依リテ之ヲ許ス。仲買人タルハ二箇年以上其ノ取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル年齢二十五歳以上ノ商人ニシテ

行政官廳ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス。一種ノ商業ニ付其ノ資格アル者ハ土地商業ノ情況ニ依リ二種以上ノ物件ヲ取引スル取引所ノ仲買人タル免許ヲ受クルコトヲ得ヘシ。

帝國臣民ニ非サレハ取引所ノ會員、株主、又ハ仲買人トナルコトヲ得ス。其ノ他婦女、未成年者、公權剝奪及停止中ノ者、破産者、及一定ノ刑罰ニ處セラレタル者等所法第十一條ニ關シ會員タリ又ハ仲買人タルコトヲ許ササルノ法律ノ規定アリ。

取引所ノ會員ハ自己ノ計算ヲ以テスルノ外、取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス。仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ問ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フ。其ノ他取引所ノ賣買取引ニ關スル規定ハ實質上商法ノ範圍ニ屬シ茲ニ説明セス。取引所ハ農商務大臣之ヲ監督シ、取引所ノ行爲法令ニ違反シ、公益ヲ害シ、秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得。

一、取引所ノ解散、又ハ停止、

二、取引所一部ノ停止若ハ禁止、

三、役員ノ解職又ハ會員又ハ仲買人ノ營業停止若ハ除名、

又必要ト認ムルトキハ取引所及會員仲買人ノ業務帳簿等ヲ臨時検査シ、取引所ノ定款ノ改正ヲ命シ、決議及處分ヲ取消シ、又取引所ノ任意ノ解散ヲ許否ス。

(法令)取引所法

明治二十六年三月法律

取引所法施行規則

明治二十六年七月農商務省令

取引所ノ資本金

營業保證金賣買取引ノ方法等ニ關スル規程

明治二十六年七月勅令

明治二十六年七月勅令

第十八款 銀行

銀行ハ信用ヲ媒介シ資本ノ流通ヲ計ルヲ目的トスル業務ニシテ商法ノ一般ノ規程ニ依リテ營業トシテ爲シ得ヘキ所ナリ。然レトモ金融ノ制度ハ公益ニ關スル甚大ニシテ又其ノ濫用ハ安寧秩序ヲ妨クルノ虞亦多シ。故ニ普通商法ノ外ニ特別ノ法令ヲ以テ之ヲ規定スル所アリ。今其ノ行政ノ目的ニ關スルノ點ノ概要ヲ摘示ス。

國家ハ法律ヲ以テ銀行ヲ設立スル場合アリ。又一般ノ準則ヲ示シ私ニ銀行ヲ設クルヲ認可スル場合アリ。其ノ法律ヲ以テ設立スル者ハ一般ノ金融制度上ニ於ケル公益ト政府ノ便宜トノ理由ニ出ルナリ。現行ノ制ニ於テハ日本銀行、橫濱正金銀行、國立銀行及日本勸業銀行、農工銀行ハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ設ケ其ノ特別ノ規程ニ依ル者ナリ。

日本銀行ハ株式商會社ナリ。商會社トシテノ日本銀行條例ニ於ケル特別ハ商法ノ特別法ニシテ茲ニ説明スルコトヲ要セス。唯其ノ特權及制限ニ付公益ニ關スル重大ナル要點ヲ示スノミ。

日本銀行ノ株主トナラントスル者ハ大藏大臣ノ許可ヲ要ス。其ノ株券ハ日本臣民ノ外之ヲ讓渡スコトヲ許サス。其ノ重ナル役員ハ政府之ヲ任命シ、又其ノ業務ハ大藏大臣ノ直接ノ監理ヲ受ク。日本銀行ハ政府ノ更ニ定ムル制限ニ依リ兌換銀行券ヲ發行スルノ特權ヲ有ス。兌換券ハ何時ニテモ之ヲ提供スル者ニ其ノ券面ノ貨幣ヲ仕拂フモノニシテ期限ナク又利息ナキ有價證券ニテ經濟上通貨ノ

發行ト同シキ効用アリ。故ニ此ノ特權ハ公益ニ關スル大ニシテ一般ニ禁止スル所ナリ。又日本銀行ハ國庫金ノ取扱ヲ命セラレタルトキハ之ヲ爲スヘキ法律上ノ義務ヲ有ス。

銀行トハ公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ、又ハ爲替事業ヲ爲シ、又ハ諸預リ及貸附ヲ併セ爲ス者ヲ謂フ。銀行營業ハ一般ニ商法ノ規程ニ從フノ外特ニ銀行條例ニ依ルコトヲ要ス。其ノ行政ニ關スル規程ハ其ノ設立ハ大藏大臣ノ認可ヲ要シ、又其ノ監督ノ下ニ在ルコトニ係ル。

複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス。特ニ公益ニ關スルカ故ニ別ニ其ノ條例ヲ設ケテ之ヲ制限ス。貯蓄銀行ハ資本金三萬圓以上ニシテ且ツ株式會社タルコトヲ要ス。其ノ設立及定款ハ大藏大臣ノ認可ヲ要シ、又其ノ監督ヲ受ク。貯蓄銀行ハ貯蓄預金拂戻ノ擔保トシテ預金總高ノ四分ノ一以上ノ金額ヲ供託所ニ預ケ入ルルコトヲ要シ、又其ノ取締役ノ民事上及刑事上ノ責任ヲ特ニ重カラシムル等皆公益保護ノ爲ニスルノ特別規程ナリ。

(法令)日本銀行條例明治十五年六月布告 兌換銀行券條例明治十七年五月布告 銀行條例明治二十三年八月法律 銀行條例施行細則明治二十六年五月大藏省令 貯蓄銀行條例明治二十三年八月法律 貯蓄銀行條例施行細則明治二十八年三月大藏省令

第十九款 商業會議所

商業會議所ハ商業者ノ合議團體ニシテ其ノ地方ノ商工業ノ一般ノ利益ヲ圖リ、又商工業ニ關シ官廳ニ對シ其ノ意見ヲ報告シ經濟行政ヲ補助スルノ機關タリ。商業會議所ノ設立ハ市、町、村ノ區域ニ依リ其ノ地方ノ商業者ニシテ法律ニ依リ會員タルコトヲ得ヘキ資格アル者ノ發起申請ニ由リ農商務大臣ノ認可アルヲ要ス。其ノ設立アリタルトキハ其ノ地方ニ於ル商業者ハ法律ノ規程ニ依リ會員ヲ公選ス。會員ノ數ハ十五名以上五十名以下ニシテ、任期四箇年トシ、無給ニテ法律上ノ負擔トシテ就職スルモノニシテ、疾病、老衰、若ハ營業上其ノ地ニ常住スル能ハサル場合ノ外ハ會議所ノ議決ヲ經スシテ就職ヲ辭シ、又ハ辭職スルコトヲ

得ス。此ノ規定ニ反スル者ハ會議所ハ議決ヲ以テ二百圓以下ノ過怠金ヲ課スルコトヲ得ヘシ。

商業會議所ハ法人トシテ財産ヲ有スルコトヲ得。又其ノ經費ノ豫算ハ農商務大臣ノ認可ヲ要ス。其ノ經費ハ會員ノ撰舉權ヲ有スル者ニ賦課徵収ス。其方法亦農商務大臣ノ認可ヲ要ス。經費ヲ納メサル者ハ會員ノ選舉權及被選舉權ヲ四箇年以上八箇年以下停止シ、尙二百圓以下ノ過料ニ處ス。

商業會議所ノ權限ハ法律ヲ以テ列記セリ。故ニ其ノ以外ノ權限ナシ。又營利ノ業務ヲ爲ス能ハサルハ勿論ナリ。商業會議所條例ハ左ノ事項ヲ掲ク。

- 一、商業ノ發達ヲ圖リ若ハ其ノ衰退ヲ防クニ必要ノ方案ヲ議定スルコト。
- 二、商業ニ關スル法律命令其ノ他諸條規ノ制定、改正、廢止、及施行方法ニ付意見ヲ行政廳ニ開申シ、且ツ商業上ノ利害ニ關スル意見ヲ行政廳其ノ他ニ表示スルコト。
- 三、商業ノ實況及其ノ統計ヲ行政廳其ノ他ニ報告スルコト。

四、商業ニ關スル事項ニ付行政廳ノ諮問ニ應答スルコト。

五、法律命令其ノ他諸條規若ハ行政廳ノ委任ニ依リ其ノ地ノ公設營業所、仲立

人組合及商業ニ關スル諸營造物ヲ管理スルコト。

六、仲立人ノ資格、員數、及手数料ヲ審査スルコト。

七、關係人ノ請求ニ依リ其ノ地ノ商業ニ關スル紛議ヲ仲裁スルコト。

商業會議所ハ其ノ議決ヲ以テ其ノ權限ヲ行フカ爲ニ事務規程ヲ定メ、農商務大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ施行ス。農商務大臣ハ直接ニ商業會議所ヲ監督ス。會議所其ノ權限ヲ犯シ又ハ商業上有害ノ行爲アリト認ムルトキハ會議ヲ停止シ、役員若ハ會員ノ改選ヲ命スルコトヲ得。

(法令)商業會議所條例明治二十三年九月法律商業會議所條例施行規則明治二十三年九月農商務省令

議所條例中改正明治二十八年三月法律

三、交通

第二十款 道路

行政法大意 第三編行政各部

道路ヲ公道ト私道トニ分ツハ公共ノ用ニ供スルト私用ニ供スルトノ設備ノ目的ニ由ル者ニシテ其ノ土地所有權ノ國家又ハ地方團體ニ在ルト一私人ニ在ルトニ因ルニ非サルナリ。私道ヲ設クルハ土地所有權ノ行使ニ屬シ一般ノ警察ノ規則ニ違ハサル限ハ行政ノ干涉ヲ容レサルナリ。

公道ハ公用營造物ニシテ之ニ伴フ法則ニ從フ者ナリ。公道ノ敷地タル土地ノ所有權ノ何人ニ在ルヲ問ハス其ノ使用ハ公用營造物トシテ行政ノ規則ニ從ヒ一般ニ自由ナリ。各人ハ私權トシテ其ノ土地ニ對シ通行權ヲ有スルニ非ス。唯其ノ土地カ公道トシテ法律上通行ノ自由アルノ謂ナリ。又公道ノ敷地カ私有地ナルトキハ其ノ所有者ハ公道タル性質ニ反スル使用處分ヲ爲スコトヲ得ス。是レ私有地カ公用營造物ノ爲ニ制限セラルル場合ノ一ナリ。公道ハ其ノ土地カ官有、公有、又ハ私有タルヲ問ハス之ヲ賣買讓與スヘカラスト云フノ絶對的ノ原則ナシ。但シ公用營造物タル資格ヲ有スル間ハ其ノ公用ニ妨害ヲ爲ス處分ヲ爲スコトヲ得サルナリ。

公道ノ設備及維持ノ爲ニ所有權ヲ徵収又ハ制限スルハ一般ニ公用營造物ニ關スル方法規程ニ依ル。公道ノ開設又ハ改良ノ爲ニ私有地ヲ徵用シ又其ノ維持ノ爲ニ隣地ヨリ材料ヲ採取スルノ類ナリ。

道路ニ關シ現行ノ法制甚不備ナリ。地方ノ慣行ニ依ルノ外之ヲ概括シテ説明スルコトヲ得ス。蓋公道ハ國道、縣道、市町村道等ノ分類ヲ爲シ此ノ區別ニ由リテ亦其ノ維持費用ノ負擔ノ歸スル所ヲ異ニスルナリ。公道維持ノ費用ノ負擔ヲ定ムルハ行政上極テ重要ノコトニ屬シ法律ヲ以テ之ヲ明カニスルハ最急務タリ。

公道ノ保護及其ノ使用ニ關シ道路警察アリ。通行ノ安全ト便宜トヲ保持シ又道路ヲ毀損スルコトヲ防クカ爲ニ警察規則ヲ設クルハ行政權ニ在ルコト既ニ述ヘタルカ如シ。現行ノ制刑法典ニ條項ヲ掲ケタルノ外ハ之ヲ地方行政廳ニ委任シ未ダ公道ノ對スル一般ノ法律トシテ之ヲ規定スル者ナシ。

第二十一款 鐵道

鐵道ヲ官設及私設ニ分ツハ鐵道ヲ有シ之ヲ運轉スル主體ノ區別ニシテ其ノ公共ノ交通ノ設備タル資格ニ於テハ皆異ナルコトナシ鐵道ハ國家諸般ノ目的ニ對シ極テ重要ナル設備ナルカ故ニ政府カ之ヲ敷設シ運轉スルヲ本則トス私ニ之ヲ設クルヲ許サス而シテ其ノ必要ナル場合ニハ特ニ免許スルコトヲ得ルナリ。

政府カ鐵道ヲ敷設スルトキハ公用營造物ノ設備ニ關スル一般ノ方法ニ由ル私ニ之ヲ敷設スルトキハ免許ヲ受ケ私設鐵道ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行スルコトヲ要ス。

政府ハ鐵道敷設法ヲ發布シ必要ナル鐵道線路ヲ豫定シ漸次之ヲ敷設セントス。此ノ豫定線路ニ於テハ私ニ鐵道ヲ設クルヲ許ササルヲ本則トシ若必要アルトキハ出願ニ由リ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ許可ス。

私設鐵道ハ公ノ交通機關トシテ人及物件ノ運送ヲ營業トスル目的ニテ敷設セントスルトキハ政府ノ免許ヲ要ス私設鐵道ハ株式會社組織ニ依ルニ非サレハ

之ヲ許サス故ニ私設鐵道條例ハ鐵道會社ノ設立ト鐵道ノ敷設トヲ併セテ規定セリ然レトモ鐵道ヲ交通機關トシテノ規定ノミヲ茲ニ説明スルナリ。

鐵道ハ公共ノ用ニ供スル營造物タル性質アルカ故ニ免許ヲ受ケタル設立者ハ土地公用徵收ノ方法ニ依リ其ノ敷設ヲ爲スコトヲ得其ノ免許ハ先ツ假免狀ヲ下付シ總テ工事ノ方法及會社ノ定款ヲ定メテ更ニ本免狀ノ下付ヲ請ハシム假免狀ヲ受ケタルトキハ他人ノ土地ニ立入リ之ヲ測量スルコトヲ得又本免狀ヲ得タルトキハ必要ナル場合ニハ土地ノ公用徵收ヲ施行スルコトヲ得ヘシ本免狀下付ノ日ヨリ三箇月以内ニ鐵道布設工事ニ着手セス若ハ豫定ノ期間ニ竣功セサルトキハ政府ハ免許ヲ取消シ又ハ既設鐵道ヲ公賣ニ付シ買受人ヲシテ之ヲ竣功セシムルコトヲ得又政府ハ免許下付ノ日ヨリ滿二十五年ノ後ハ(特ニ營業期限ヲ定メタル者ハ其ノ滿期後)其ノ鐵道ヲ買上クルノ權ヲ有ス其ノ場合ニハ前五年間ノ其ノ會社ノ株券價格ヲ平均シテ其ノ買上價格ヲ定ム。

鐵道ノ營業ノ施行ニ付キテハ其ノ運轉ノ安全ノ爲及交通ノ公益ノ爲ニ特別ノ

制限アリ。鐵道規則及鐵道警察。是レナリ。特ニ私設鐵道ニ對シテ必要ナル監督及制限ヲ爲ス。私設鐵道ノ敷設工事ハ行政官廳之ヲ監督シ危險ノ虞アルモノハ其ノ改築修繕ヲ命ス。工事竣功シタルトキハ行政官廳ノ監査ヲ經テ開業免狀ヲ受クルニ非サレハ旅客及貨物ノ運輸營業ヲ開始スルコトヲ得ス。旅客及貨物ノ運賃額及運輸規程及瀛車發着時間度數ハ行政官廳ノ認可ヲ要ス。運送契約ハ私權行爲ニシテ鐵道會社ト依頼人トノ自由ノ合意ニ由ルヘシト雖鐵道ハ公益ニ關スル交通機關ニシテ又專有業ノ實アルカ故ニ各人各別ノ條件ヲ合意スルコトヲ許サス。公平ニ公衆ニ對スル契約ノ條款ヲ一定シ行政官廳ハ之ヲ審査認可シ公示シテ施行セシムルコトヲ要スルナリ。交通ノ安全ヲ保持スル鐵道警察ノ規程ハ官設鐵道ニ付キテ定ムルモノハ亦之ヲ私設鐵道ニ適用ス。鐵道略則鐵道犯罪罰則ハ鐵道交通ノ安寧秩序ニ關スル特別法律ナリ。其ノ他一般ニ行政上警察ノ目的ノ爲ニ一般交通ヲ制限スル權限ハ鐵道ニ及フコト論ヲ待タス。鐵道ハ私設ヲ許スト雖其ノ性質ハ公用營造物タリ。故ニ其ノ効用ヲ全フセシム

ル爲ニハ私設鐵道ノ維持運轉ヲ監督シ又公用ノ爲ニ一定ノ法律上ノ負擔ヲ命ス。郵便物ノ遞送及軍事上ノ使用ハ其ノ主要ナル場合ナリ。鐵道會社ハ戰時若ハ事變ニ際シ一般ノ徵發ニ應メヘキノ外平時ニ於テモ軍隊ヲ運送スルノ義務ヲ有シ又公用ニテ軍人軍馬及軍用品ヲ運送スルトキハ普通運賃ノ半額ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス。若軍用ノ爲政府ノ費用ニテ車輛ノ改修新裝置ヲ命シ又ハ載

御用器具ノ製造ヲ命スルトキハ會社之ヲ拒ムコトヲ得ス。鐵道會社ニ對シテハ其ノ業務ノ施行營業ノ情況定款及役員等ニ付キ行政官廳ハ私設鐵道條例ノ特別規程ニ依リ之ヲ監督ス。本免狀ヲ受ケスシテ社名ヲ以テ株券ヲ募集シ及鐵道工事ニ着手シタルトキハ其ノ假免狀ヲ無効トス。開業免狀ヲ受ケスシテ營業ヲ開始シ又ハ監督官廳ノ命スル改築修理ヲ爲サスシテ營業スルトキハ其ノ營業中ノ收入金ヲ沒収ス。鐵道運輸開業後會社ニ於テ鐵道條例及會社定款ニ違背シ又ハ鐵道ノ正當ナル使用ヲ妨害シタルトキハ役員ノ改選ヲ命シ又ハ會社ノ計算ニ於テ政府自ラ運輸ノ業ヲ爲スコトヲ得。

以上述フル所ハ蒸氣力ヲ用井テ車輛ヲ運轉スル鐵道ニ關スル規定ナリ。蒸氣力ヲ用井スシテ運轉スル軌道ニ付キテハ公共交通機關トシテ之ヲ敷設セントスル者ハ内務大臣ノ特許ヲ要ス。特許者ハ軌道ヲ公共道路ニ敷設スルコトヲ得、又其ノ目的ノ爲ニ道路ノ幅員ヲ擴ケ若ハ更正シ、又ハ新ニ軌道敷ヲ設クル必要アルトキハ土地收用法ニ依ルコトヲ得ヘシ。

(法令)鐵道敷設法

明治廿五年六月法律

私設鐵道條例

明治二十年五月勅令

鐵道畧則

明治五年五月布告

鐵道犯罪罰則

明治六年三月布告

軌道條例

明治二十三年八月法律

第二十二款 郵便電信及電話

公共ノ通信ヲ目的トスル業務ハ其ノ實質上必シモ國權ノ行使ニ非ス私ノ營業トシテ爲シ得ヘキ者タリ。然レトモ政府カ公益上ノ目的ノ爲ニ之ヲ政府ノ專業トシ私ニ之ヲ營ムヲ禁スルトキハ其ノ設備カ公ノ營造物タル用ヲ爲シ、其ノ行政ト個人ノ自由トノ關係カ行政法ノ解說ヲ要スルナリ。

政府カ郵便電信電話等ヲ專業トシテ營ム目的カ單ニ財政上ノ收入ヲ目的トスルニ在ルトキハ其ノ事業ハ政府ノ私權上ノ營業ニテ營業者カ一人ニ非ス國庫ナリト云フノ外別ニ公法上ノ關係ヲ生セス。之ヲ政府ノ專業トスルモ尙一人ノ特許專業ト法理ヲ異ニセス。若政府ノ目的カ營利ニ非ス國家及公衆ノ交通ニ於ケル公益ヲ保全スルニ在ルトキハ其ノ設備カ公用營造物タル性質ヲ有スルナリ。

政府カ公共通信ノ爲ニ設備スル營造物ヲ公衆ノ用ニ供スル形式ニ於テハ國家ト私人トノ私法上ノ關係ト公法上ノ關係トヲ區別スルコトヲ要ス。公衆ニ對シ通信ノ業ヲ爲スハ依頼人ノ申込ニ由リ契約ヲ爲スナリ。契約ハ私權行爲ニシテ國家ノ命令權ヲ以テ通信ヲ許否スル權力行爲ニ非ス。然レトモ一般ニ公平ニ之ヲ使用セシムルヲ目的トシ、又實際上特定ノ申込ニ對シ特別ニ條項ヲ約スル煩ヲ爲ス能ハサルカ故ニ一般ニ其ノ條件ヲ規定シ郵便電信若ハ電話規則トシテ公布シ、其ノ規程ニ依ルノ外依頼ニ應セス。又其ノ規程ニ依ル者ハ必ス其ノ依頼

ニ應スヘキコトヲ一定スルナリ。所謂郵便規則等ノ實質ハ約款ノ準則ニシテ公
 法上ノ法規ニ非ス私法ノ特別規定ニシテ茲ニ之ヲ詳説スルヲ要セス。唯其ノ公
 法上ノ關係ニ於ケル原則ヲ示スニ止ルナリ。
 郵便電信及電話ヲ營業トシテ私ニ之ヲ行フヲ禁スルハ一般ニ通信ノ營業ヲ禁
 スルニアラス政府ノ專業トシテ特別法令ニ定メタル郵便電信電話ノ範圍及方
 法ニテ之ヲ行フコトヲ許ササルナリ。
 郵便電信電話ハ何人モ其ノ條例ニ依ルトキハ自由ニ使用スルコトヲ得ヘク、行
 政廳ハ一般ニ公平ナル條件ニテ之ニ應スルノ義務アリ。而シテ其ノ行政廳ト依
 賴人トノ關係ハ其ノ特別ノ條例ニテ規定セル條件ニ由ルモノニシテ私權ノ問
 題ニ屬ス。

郵便電信電話ノ設備ハ公用營造物トシテ一般ニ其ノ性質ニ伴フ法規ニ由リ其
 ノ保護ヲ受クルノ外、又特ニ此レ等ノ營造物ニ關スル警察規則アリ。郵便物其ノ
 他通信ノ安全秘密及其ノ交通機關ノ設備ヲ防害毀損スル等ノコトニ關シテハ

警察規則ヲ以テ之ヲ保護スルナリ。

(法令)郵便條例明治十五年十二月布告 小包郵便法明治二十五年六月法律 小包郵便施行細則明治二十五年九月遞信省令

電信條例明治十八年五月布告 電信取扱規則明治十八年五月布達 電話交換規則明治二十三年四月遞信省令 電信線

電話線建設條例明治二十三年八月法律

第二十三款 水路

水路ハ内水ト外海トノ別アリ。内水ハ國境ノ一部ニシテ河川湖沼水ハ自然ノ水面
 タリ渠溝ノ類ハ人工ニ由リテ開鑿セル水面ナリ。舟筏ノ通行シ得ヘキ者ハ公水
 路ト看做スヲ通則トス。沿岸ノ土地ヲ所有スル者ハ之ヲ使用スルノ權アレトモ
 公水路タル性質ニ反シ之ヲ妨害スルノ使用ヲ爲スコトヲ得ス。又沿岸地ハ公水
 面ノ使用ノ爲ニ制限ヲ受クルコトアルヘシ。内水面ヲ公ノ通路トシテノ關係ニ
 付キテハ未タ一般ノ法律制定セラレス。河川ニ付テハ別ニ河川法ノ制定アリ其
 ノ管理、使用及費用ノコトヲ規定ス。其ノ他ハ公ノ營造物ノ一般ノ法理ニ基キ地

方警察ノ規則ヲ以テ其ノ正常ナル公ノ使用ヲ保全スル者ナリ。渠溝運河等公ノ交通ニ供フル爲ニ之ヲ開鑿スルハ行政廳ノ許可ヲ要シ且ツ公益ノ爲ニ土地ノ收用ヲ爲シ得ヘキナリ。

外海ハ國境ニ入ラサルカ故ニ一國ノ行政法ヲ以テ其ノ通路タル使用ニ制限ヲ爲スコトヲ得ス。然レトモ内海及沿海ハ我カ國權ノ及フ所ニシテ其ノ通行ノ自由ハ我カ國法ノ規程ニ依ルヘキナリ。沿海及内海ノ通行ハ自由ナリ然レトモ外國ノ船舶ハ條約ニ定メタル一定ノ港灣ノ外ハ自由ニ出入スルコトヲ許サス。又軍港ハ軍用ノ爲ニ特ニ其ノ水面ノ使用ヲ制限セラル。其ノ規則ハ海軍大臣ノ定ムル所ナリ。商港ハ港灣警察規則ノ範圍内ニ於テ自由ニ使用スルコトヲ得ヘシ。航海ノ安全ヲ保護シ又航海ノ事業ヲ獎勵スルハ行政ノ要務タリ。法令ヲ以テ之ヲ定ムルコト詳ナリ然レトモ其ノ設備ノ性質ハ多ク直接ニ行政權ト公衆ノ自由トノ範圍ヲ定ムルノ法規ニ非ス航海ノ安全ヲ計ル爲ニ必要ナル營造物ノ設置及海員ニ對スル訓示若ハ事實的ノ補助行爲ニ屬ス。例セハ航路標識ヲ設置シ、

海上衝突豫防法ヲ制定シ、航海ノ技術ニ關スルカ故ニ茲ニ其ノ規定ヲ掲ケス。船舶及造船業ヲ保護獎勵スルカ如キナリ。

外國通航ニ關シテハ特ニ制限アリ。稅關法ノ定ムル所ナリ。蓋其ノ制限ハ專ラ關稅ノ取締ヲ目的トスルモノニシテ外國通航ヲ獎勵スルノ法律ノ精神ト抵觸セサルナリ。外國通航船ハ法令ニテ特ニ許シタル場合ノ外(輸出入港)外國貿易ニ公開シタル商港(開港)ニアラサレハ出入スルヲ許サス。又船舶ハ其ノ所在港ヲ管スル稅關長ノ認可ヲ得サレハ外國ニ航行スルコトヲ得ス。稅關長ハ其ノ積荷ヲ檢査スルノ權アルノ類ノ制限ナリ。其ノ他凡テ船舶ノ出入ニ關シテハ其ノ地ノ港則ニ服從スヘキコト論ヲ待タサルナリ。

航路ヲ遠洋近海沿海平水ノ四種ニ分ツハ船舶ノ種類ニ依リ其ノ航行シ得ヘキ水路ヲ制限スルノ必要ニ因ルナリ。自由航路タルニ於テ性質ヲ異ニスル所ナシ。唯船舶ノ種類構造ニ依リ航海ノ安全ノ爲ニ其ノ使用シ得ヘキ場所ヲ制限スルナリ。其ノ制限ハ船舶檢査ニ由リ之ヲ定ム。通航ノ自由ノ制限ニ非ス寧ろ船舶ノ

構造ノ制限ナリ。

(法令)河川法明治二十九年四月法律 航路標識條例明治二十一年十月勅令 海上衝突豫防法明治二十五年六月法律
稅關法明治二十三年九月法律 航海獎勵法明治二十九年三月法律 造船獎勵法明治二十九年三月法律

第二十四款 河川

河川ハ公共ノ水路トシテ又水利ノ經營トシテ重大ナル關係ヲ有スルカ故ニ法律ハ其ノ管理使用及維持ノ方法ヲ規定ス。主務大臣ハ河川ノ公共ノ利害ニ重大ノ關係アル者ヲ認定シ、地方行政廳ハ亦其ノ河川ノ支川若ハ派川タル者ヲ認定シ、其ノ指定シタル者ハ河川法ニ依リ之ヲ經營ス。
河川ノ管理ハ其ノ地方行政廳ノ權限タリ其ノ維持ハ其ノ團體ノ負擔タルヲ通則トス。其ノ利害數府縣ニ涉リ又ハ其ノ工事ノ重大ナル者ハ主務大臣直接ニ之ヲ管理シ又ハ特ニ其ノ工事ノ利益ヲ受タル公共團體ノ行政廳ニ命シテ施行セシムルコトヲ得。又地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下級行政廳

ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ。

河川ニ於ケル舟筏ノ通行及流水ハ一般ニ自由ニシテ之ニ對スル警察ノ制限ハ行政廳ノ命令權ニ委任ス。總テ河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用シ、又ハ河川ノ保全及水利被害ニ直接ノ關係ヲ及ホスヘキ工作物ノ新築改築若ハ除却及其ノ他ノ設備ハ地方行政廳ノ許可ヲ要ス。地方行政廳ハ河川ノ公共ノ用ヲ全フスル爲メ、又ハ水利被害ノ經營ノ爲メハ其ノ許可ヲ取消シ、停止シ、若ハ變更スルコトヲ得。農工用若ハ家用ノ爲メ流水ヲ使用スルハ地方警察及其ノ營造物ノ性質ニ抵觸セサル限ニ於テ自由ナリ。但シ行政廳ハ河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ之ニ對シ使用料、占用料ヲ徵收スルコトヲ得。又私人若ハ公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲メ工事ヲ施行シタルトキハ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトアルヘシ。但シ其ノ年限ハ許可ノ時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ス。河川ニ關スル費用ハ其ノ府縣ノ負擔トスルヲ通則トス。地方行政廳ハ其ノ下級

公。共。團。體。ヲ。シ。テ。河。川。ニ。關。ス。ル。費。用。ノ。一。部。ヲ。負。擔。セ。シ。ム。ル。コ。ト。ヲ。得。公。共。團。體。ハ。亦。河。川。ニ。關。ス。ル。費。用。ニ。付。利。害。關。係。ノ。厚。薄。ヲ。標。準。ト。シ。其。ノ。區。域。內。ニ。於。テ。不。均。一。ノ。賦。課。ヲ。爲。ス。コ。ト。ヲ。得。ヘ。シ。

主。務。大。臣。ニ。於。テ。直。接。ニ。河。川。ノ。管。理。若。ハ。其。ノ。維。持。修。繕。ヲ。爲。ス。場。合。ニ。於。テ。ハ。國。庫。ニ。於。テ。其。ノ。費。用。ノ。全。部。若。ハ。一。部。ヲ。負。擔。ス。ル。コ。ト。ヲ。得。ヘ。シ。又。河。川。ノ。改。良。工。事。ニ。要。ス。ル。豫。算。費。用。ニ。シ。テ。其。ノ。府。縣。內。ノ。地。租。額。十。分。ノ。一。ヲ。超。過。ス。ル。ト。キ。ハ。其。ノ。超。過。ノ。三。分。ノ。二。以。內。ヲ。國。庫。ヨ。リ。補。助。ス。ル。コ。ト。ヲ。得。但。シ。地。租。額。ヲ。超。過。ス。ル。部。分。ニ。付。テ。ハ。其。ノ。超。過。ノ。四。分。ノ。三。以。內。ヲ。補。助。ス。ル。コ。ト。ヲ。得。ヘ。シ。

河。川。ニ。關。ス。ル。工。事。ニ。シ。テ。他。ノ。府。縣。若。ハ。他。府。縣。內。ノ。公。共。團。體。ニ。於。テ。著。シ。ク。其。ノ。利。益。ヲ。受。ケ。又。ハ。其。ノ。工。事。カ。他。府。縣。內。ノ。住。民。ノ。河。川。ノ。使。用。ニ。因。リ。其。ノ。必。要。ヲ。生。シ。タ。ル。モ。ノ。ナ。ル。ト。キ。ハ。其。ノ。府。縣。若。ハ。其。ノ。府。縣。內。ノ。公。共。團。體。ヲ。シ。テ。其。ノ。費。用。ノ。一。部。ヲ。負。擔。セ。シ。ム。ル。コ。ト。ヲ。得。又。河。川。ニ。工。作。物。ヲ。施。設。シ。及。流。水。ヲ。使。用。ス。ル。者。ニ。對。シ。特。ニ。其。ノ。設。備。若。ハ。使。用。ニ。關。ス。ル。費。用。ハ。之。ニ。負。擔。ヲ。命。ス。ル。コ。ト。ヲ。得。ヘ。シ。

河。川。ニ。關。ス。ル。行。政。ハ。主。務。大。臣。之。ヲ。監。督。ス。河。川。法。ニ。定。メ。タ。ル。法。律。上。ノ。義。務。負。擔。ヲ。爲。サ。サ。ル。者。ニ。對。シ。テ。ハ。一。定。ノ。期。限。ヲ。示。シ。不。履。行。ノ。場。合。ニ。於。テ。處。ス。ヘ。キ。過。料。
(千。圓。以。內。ヲ。定。メ。之。ヲ。豫。告。シ。テ。強。制。シ。又。ハ。行。政。廳。自。ラ。代。リ。テ。之。ヲ。執。行。シ。若。ハ。第。三。者。ヲ。シ。テ。之。ヲ。執。行。セ。シ。ム。ル。コ。ト。ヲ。得。河。川。法。ニ。依。リ。テ。爲。シ。タ。ル。行。政。處。分。ニ。對。シ。テ。ハ。私。人。若。ハ。公。共。團。體。ハ。訴。願。及。行。政。訴。訟。ヲ。爲。ス。コ。ト。ヲ。得。

(法令)河川法 明治二十九年 河川法施行規程 明治二十九年 六月勅令

第二十五款 船舶及船員海員

船。舶。ハ。船。籍。港。ヲ。定。メ。其。ノ。地。ノ。市。町。村。役。場。若。ハ。浦。役。場。ノ。船。籍。ニ。編。入。ス。總。テ。日。本。船。舶。ハ。日。本。國。旗。ヲ。掲。ク。ル。コ。ト。ヲ。要。シ。又。日。本。船。舶。ニ。非。サ。レ。ハ。之。ヲ。掲。ク。ル。コ。ト。ヲ。許。サ。ス。登。簿。噸。數。十。五。噸。若。ハ。百。五。十。石。以。上。ノ。船。舶。ハ。船。籍。證。書。ノ。交。付。ヲ。遞。信。省。ニ。願。出。ツ。ヘ。シ。船。籍。證。書。ハ。船。舶。ノ。番。號。信。號。符。字。船。名。船。主。及。船。舶。ノ。構。造。ニ。關。ス。ル。事。項。ヲ。詳。ニ。記。載。シ。タ。ル。公。ノ。證。明。書。ナ。リ。船。籍。證。書。ハ。常。ニ。船。內。ニ。備。置。キ。船。長。之。ヲ。監。

行政法大意 第三編行政各部

守シ何時ニテモ職權アル者ノ請求ニ應シ之ヲ檢閲ニ供スヘシ。船籍ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ訂正ヲ請ヒ船籍證書ノ書換ヲ爲スコトヲ要ス。

船舶ノ積量ヲ測度スルニハ特ニ定メタル其ノ規則ニ依ル。積量測度ハ總テ曲尺ヲ用ヒ西洋形船ノ積量ハ百立方尺ヲ一噸トシ日本形船ノ積量ハ十立方尺ヲ一石トス。西洋形船ニ於テハ總積量ヲ總噸數トシ。總噸數ヨリ乗組人常用室及機關室ノ噸數ヲ除キタル者ヲ登簿噸數トス。總テ船舶ハ公ノ積量測度ヲ受クルコトヲ要スルナリ。

日本船舶ハ船舶司檢所ノ検査ヲ受ケ検査證書ヲ有スコトヲ要ス。但シ海軍艦船艇及登簿噸數十五噸未滿若ハ積石數百五十石未滿ノ帆船等ハ検査ヲ要セス。検査ノ目的ハ航海ノ安全ノ爲ニ船舶ノ航海ニ適スルヤ否ヲ審檢シ又船舶ノ航行シ得ヘキ場所ヲ定限スルナリ。汽船ハ遠洋航船、近海航船、沿海航船、平水航船ノ四種トシ、帆船ハ遠洋航船、近海航船ノ二種トス。凡テ船舶ハ検査ニ由リ其ノ航行

期間ヲ定ム。汽船ニ在テハ三箇月以上一箇年以内、帆船ニ在テハ六箇月以上三箇年以内トス。航行期間滿了ノトキ及航行期間内ト雖特ニ必要アルトキハ更ニ検査ヲ行フ。船舶検査證書ニハ航路定限、旅客定員、汽壓制限、及航行期間ヲ定メテ之ヲ記載ス。検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨視シ特ニ検査ノ必要アルトキハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得。又船舶ノ検査ニ對シ不服アル者ハ逡信大臣ニ再検査ヲ申請スルコトヲ得ヘシ。

日本船舶ニハ法律船舶職員法ノ附録ノ表ノ規程ニ依リ一定ノ船舶職員ヲ乗組マシムルコトヲ要ス。船舶職員トハ船長、運轉士及機關士ヲ謂フ。試験ニ由リ又ハ履歷ニ由リ海技ニ堪能ナルコトヲ認メタル者ニ海技免狀ヲ交付ス。海技免狀ヲ有スルニアラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス。海員免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ。

- 一、正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄スルトキ、
- 二、過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ

之ヲ沈没セシメタルトキ、

三、過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ、

四、海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ、

五、海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ船

客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ、

六、職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ、

七、亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ、

懲戒ハ一)免狀行使ノ禁止、二)免狀行使ノ停止、三)譴責ノ三種トス。海員審判所ハ地方及高等ノ二種ニ分チ地方海員審判所ハ船舶司檢所ニ置キ、高等海員審判所ハ遞信省ニ置ク。其ノ組織及審判手續ハ海員懲戒法ニ於テ之ヲ規定ス。海員ノ雇傭ハ私法上ノ契約ニシテ私法ノ規程ニ依ルト雖西洋形船ニ關シテハ特ニ規程ヲ設ク。其ノ海員ノ雇傭ハ公益上行政廳ノ公認ヲ要シ其ノ雇傭及期限ニ關シ公益上ノ制限アリ。然レトモ其ノ規定ハ實質上公法ニ屬スルモ商法典ノ

規定ト對照シテ解説スルヲ便トスルカ故ニ詳説セス。解雇ハ期間ノ滿了ニ拘ハラス。雇入ノ地ニ於テスルコトヲ要シ、已ヲ得サル場合ニハ雇入地外ト契約期限トニ拘ハラス。解雇スルコトヲ得レトモ其ノ原因カ海員ノ過失ニ係ル場合ノ外ハ雇主ニ於テ雇入地ニ歸還スルノ費用ヲ負擔スルヲ要ス。船内ノ規律ヲ犯ス重大ナル過失アルトキ等ノ場合ニハ雇主ハ何時ニテモ解雇スルコトヲ得。又被雇者ハ苛虐ノ取扱ヲ受ケ若ハ飲食物及給料ノ正當ナル支給ヲ受ケサルトキハ何時ニテモ其ノ契約ヲ解キ且ツ雇入地ニ到ルマテノ費用ヲ請求スルコトヲ得ヘシ。此類ノ規程ハ當事者間ノ利益ヲ保護スルノミナラス亦公ノ秩序ト利益トニ關スル者ナリ。

- (法令)船籍規則 明治二十三年勅令 船籍規則施行細則 明治二十三年十月勅令
- 明治十七年 船舶検査法 明治二十九年四月法律
- 明治十七年 船舶職員法 明治二十九年四月勅令
- 明治十九年四月 海員懲戒法 明治二十九年四月法律
- 明治十九年四月 西洋形船水先免狀規則 明治十一年二月布告
- 員雇入雇止規則 明治十二年二月布告

第六節 教化

第一款 教育

教育ニ關シテハ國家ハ學校ヲ設備シ、普通小學教育ヲ強行シテ之ヲ受ケシメ、高等教育ハ之ヲ保護獎勵ス。教育行政法ハ學校ヲ公ノ營造物トシテ設立、維持、及使
用ノ方法ヲ定メ、又教育ノ本旨ヲ明カニシ、其ノ程度ヲ示ス。
教育ノ本旨ハ明治二十三年十月ノ詔勅ニ於テ明カナリ。教育行政ハ此ノ詔勅ノ
主趣ヲ奉シ之ヲ完ウスルコトヲ勉ムルナリ。教育ノ自由ハ一般ニ認ムル所ナリ
ト雖此ノ教育ノ大本タル聖旨ニ合ハサル者ハ之ヲ禁壓スヘキナリ。
道德教育、國民教育ノ基礎、及個人ノ生活ニ必須ナル普通ノ智識技能ヲ授ケ國民
ノ精神的發達ヲ圖ルハ國家社會ノ公益ニ關スル極メテ大ナリトス。故ニ國家ハ
強制教育ノ主義ヲ執ルナリ。強制教育ノ主義ヲ實行セント欲セハ全國ニ學校ノ

設備ヲ爲シ就學ノ便ヲ與フルコトヲ要ス。故ニ公ノ營造物トシテ學校ヲ維持ス
ルナリ。又強制教育ノ實行ハ公費ヲ以テ之ヲ授クルニアラサレハ其ノ目的ヲ達
セス。故ニ學校維持ノ費用ヲ公共團體ノ負擔ト爲スナリ。而シテ教育ノ方針ト程
度トヲ一ニスルカ爲ニ行政ハ教育ノ實質ニ付亦命令ヲ發シ之ヲ監督ス。

高等ナル教育ニ關シテハ強制シテ就學セシムルコトナシト雖公ノ營造物トシ
テ各種ノ學校ヲ設備シ以テ文化ノ發達ヲ促スコトヲ怠ラス。而シテ國庫若ハ公
共團體ノ負擔ニテ其ノ費用ヲ辨スルヲ通則トス。

私ニ學校ヲ設立シ、及ヒ學術技藝ヲ教授スルハ自由ナリ。國家カ公設ノ學校ニ於
テ強制シテ教育ヲ受ケシムルノ目的ハ教育ノ普及ニ在リテ之ヲ國家ノ專業ト
爲スニ在ラス。故ニ教育ノ本旨ニ背カス公ノ秩序ヲ害セサル範圍内ニ於テ教育
ヲ授ケ又之ヲ受クルノ自由ヲ認ムルナリ。

學術技藝ヲ保護獎勵シ社會文化ノ啓發ヲ圖ルノ方法ハ多クハ各人ノ自由ヲ強
制限定スルコトナクシテ施行セラルルカ故ニ直接ニ行政法理ノ問題ニ入ラス

又其ノ方法設備ハ豫メ之ヲ列舉スヘカラサルナリ。唯法令ヲ以テ設備スル普通及高等ノ學校ハ特ニ其ノ顯著ナル者ニシテ教育行政ノ主眼タル設備ナルカ故ニ其ノ大綱ヲ掲ケ其ノ効用ヲ明カニス。

(法令教育ニ關スル勅語 明治二十三年十月文部省訓令)

第二款 小學校

小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎立ニ其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス。道德教育ハ人倫ノ常道ヲ明カニシ、國民教育ハ國民タルノ責務ヲ示シ、智能教育ハ各人生活ノ資用ヲ授ケ、以テ忠良ナル臣民、孝悌ナル家族、有用ナル社會ノ公民ヲ養ハント欲スルナリ。

兒童滿六年ヨリ滿十四年ニ至ル八箇年ヲ學齡トス。學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其ノ學齡兒童ヲシテ尋常小學校ノ教科ヲ卒ラサル間ハ就學セシムル義務アリ。

貧窮疾病其ノ他已ヲ得サル事故ノ爲學齡兒童ヲ就學セシムルコト能ハサルトキハ市町村長ニ申出テ修學ノ猶豫又ハ免除ヲ請フコトヲ要ス。又家庭其ノ他公ニ認メタル小學校ノ外ニ於テ尋常小學ノ教科ヲ脩メシメントニルトキハ市町村長ノ許可ヲ要ス。

小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス。尋常小學校ノ教科目ハ修身、讀書、作文、習字、算術、體操ニシテ強制教育ノ科目タリ。其ノ修業年限ハ三年又ハ四年トス。高等小學校ノ教科目ハ修身、讀書、作文、算術、日本地理、日本歴史、外國地理、理科、圖書、唱歌、體操及裁縫トス。土地ノ情況ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ尋常及高等小學校ノ教科目ヲ加除シ、又ハ補習科ヲ置キ及高等小學校ニ農工商ノ科ヲ專修科トシテ置クコトヲ得。又徒弟學校及實業補習學校ハ小學校ノ種類トシテ設クルヲ得ヘシ。

小學教則ノ大綱ハ文部大臣之ヲ定メ、其ノ大綱ニ基ク教則ハ府縣知事之ヲ定メ、文部大臣ノ認可ヲ經テ施行ス。小學校ノ教科用圖書ハ文部大臣ノ檢定シタルモ

ノニ就キ各府縣ニ置カレタル小學圖書審查委員ニ於テ審查シ府縣知事ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ル。小學校教員ハ小學校教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ。其ノ教員免許狀ハ檢定ニ由リ合格者ニ附與ス。教員其ノ職務ヲ粗略ニシ若ハ職務上遵奉スヘキ指命ニ違背シ及體面ヲ汚辱スルノ行爲アルトキハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ免許狀ヲ褫奪セララルコトアルヘシ。

小學校ノ設立維持ハ市町村ノ義務タリ。各市町村ハ其ノ區域内ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ足ルヘキ尋常小學校ヲ設置シ、其ノ費用ヲ負擔スヘキモノトス。數町村共同シテ教育事務ヲ行フヲ必要ト爲ス場合ニハ町村學校組合ヲ設クルコトヲ得ヘシ。市町村及町村組合ハ小學校教育事務ノ爲之ヲ數區ニ分畫シ一區若ハ數區ヲシテ專ラ使用セシムル小學校ニ關シテハ其ノ區内ニ居住シ、若ハ滞在シ、又土地家屋ヲ所有シ、店舗ヲ定メテ營業ヲナス者ニ於テ設立維持ヲ負擔セシムヘシ。但シ其ノ區所有財產アルトキハ其ノ收入ヲ以テ先ツ其ノ費用ニ充ツヘシ。各級ノ地方團體及町村學校組合、若ハ市町村内及町村學校組合内ノ區ハ其ノ

收入、寄附金、及學校ニ對スル手数料等ヲ以テ學校基本財産ヲ設クルコトヲ得。其ノ財團ハ監督官廳ノ許可ヲ經ルニアラサレハ之ヲ廢置シ、處分シ、其ノ收入ヲ教育ニ關スル目的ノ外ニ使用スルコトヲ得ス。小學校ニ就學スル兒童ヲ保護スヘキ者ヨリ授業料ヲ徵收ス。但シ貧窮ナル者ニ對シテハ之ヲ免除ス。其ノ授業料ハ市町村ノ收入ニ屬シ學校基本財産ト爲スコトヲ得ヘシ。市町村内ニ私立尋常小學校アルトキハ公立小學校ノ設備ヲ猶豫シ其ノ私立小學校ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得ヘシ。

(法令)地方學事通則 明治二十三年十月法律 小學校令 明治二十三年十月勅令

第三款 高等教育

高等教育ハ普通小學教育ノ外仍有用ナル學識智能ノ發達ヲ目的トス。高等教育ハ強制シテ施行セス。行政ハ專ラ教育ニ關スル公ノ營造物ヲ設備シ、之ヲ利用セシムルノ便宜ヲ圖リ、又私ノ教育所ヲ保護スル等ノ獎勵ノ方法ニ依ル者ナリ。教

育。營。造。物。ト。シ。テ。ハ。學。校。圖。書。館。博。物。館。ノ。類。最。重。要。ト。ス。而。シ。テ。各。種。ノ。公。ノ。學。校。ニ。關。シ。テ。ハ。特。ニ。勅。令。ヲ。以。テ。其。ノ。目。的。及。設。立。ヲ。定。ム。今。其。ノ。大。要。ヲ。掲。ク。私。ニ。高。等。教。育。ニ。關。ス。ル。設。備。ヲ。爲。ス。ハ。秩。序。ヲ。害。セ。サル。限。ハ。自。由。ニ。シ。テ。之。ヲ。行。政。權。ニ。專。有。ス。ル。ノ。精。神。ニ。非。サル。ナリ。

中。學。校。ハ。小。學。教。育。ヲ。受。ケ。タル。者。ニ。尙。高。等。ナ。ル。普。通。教。育。ヲ。與。ヘ。實。業。ニ。就。キ。又。ハ。高。等。ノ。學。校。ニ。入。ル。ノ。準。備。ヲ。爲。ス。ヲ。目。的。ト。ス。尋。常。中。學。校。ハ。各。府。縣。ニ。於。テ。之。ヲ。設。置。シ。維。持。ス。其。ノ。學。科。及。教。育。ノ。程。度。ハ。文。部。大。臣。之。ヲ。定。ム。其。ノ。教。科。書。ハ。文。部。大。臣。ノ。檢。定。ヲ。要。シ。其。ノ。教。員。ハ。免。許。狀。ヲ。有。ス。ル。者。タル。ヘ。シ。高。等。學。校。ハ。專。門。學。科。ヲ。設。ケ。專。門。ノ。學。術。技。藝。ヲ。教。ヘ。若。ハ。帝。國。大。學。ニ。入。ル。ノ。豫。備。ヲ。爲。ス。全。國。ヲ。五。區。ニ。分。テ。各。區。一。校。ヲ。置。キ。國。庫。ノ。費。用。ヲ。以。テ。維。持。ス。ル。ヲ。通。則。ト。シ。其。ノ。區。內。ノ。府。縣。ニ。於。テ。其。ノ。費。用。ヲ。分。擔。ス。ル。コ。ト。アル。ヘ。シ。教。則。及。教。員。ニ。關。ス。ル。文。部。大。臣。ノ。職。權。ハ。他。ノ。中。學。校。ニ。同。シ。

師。範。學。校。ハ。教。員。ト。ナル。可。キ。者。ヲ。養。生。ス。ル。ヲ。目。的。ト。ス。之。ヲ。高。等。及。尋。常。ノ。二。種。ニ。分。テ。高。等。師。範。學。校。ハ。國。庫。ノ。費。用。ヲ。以。テ。東。京。ニ。置。キ。尋。常。師。範。學。校。ハ。各。府。縣。ニ。於。テ。其。ノ。費。用。ヲ。以。テ。設。備。ス。其。ノ。教。則。ハ。文。部。大。臣。之。ヲ。定。ム。高。等。師。範。學。校。ハ。尋。常。師。範。學。校。ノ。教。員。ヲ。養。生。シ。尋。常。師。範。學。校。ハ。小。學。校。教。員。ヲ。養。生。ス。ル。ヲ。目。的。ト。ス。ル。ナリ。帝。國。大。學。ハ。國。家。ノ。須。要。ニ。應。ス。ル。學。術。技。藝。ヲ。授。シ。及。其。ノ。蘊。奧。ヲ。攻。究。ス。ル。ヲ。以。テ。目。的。ト。ス。帝。國。大。學。ハ。大。學。院。及。分。科。大。學。ヲ。以。テ。構。成。ス。大。學。院。ハ。學。術。技。藝。ノ。蘊。奧。ヲ。攻。究。シ。分。科。大。學。ハ。法。理。文。醫。工。農。ノ。六。科。ニ。分。レ。學。術。技。藝。ノ。理。論。及。應。用。ヲ。授。ス。各。分。科。大。學。ニ。必。要。ナル。講。座。ヲ。置。キ。教。授。ヲ。シ。テ。擔。任。セ。シ。ム。講。座。ノ。種。類。ハ。勅。令。ヲ。以。テ。之。ヲ。定。ム。帝。國。大。學。ハ。最。高。等。ノ。學。校。ニ。シ。テ。國。庫。ノ。費。用。ヲ。以。テ。之。ヲ。維。持。ス。ル。ナリ。

特。種。ノ。專。門。學。術。技。藝。ノ。爲。ニ。特。種。ノ。學。校。ヲ。設。備。ス。ル。ハ。各。其。ノ。須。要。ニ。因。ル。者。ニ。シ。テ。今。之。ヲ。列。舉。セ。ス。例。セ。ハ。陸。海。軍。ニ。於。ケ。ル。諸。種。ノ。學。校。若。ハ。農。工。商。及。交。通。航。海。等。ノ。發。達。ノ。爲。ニ。各。種。ノ。教。育。所。ヲ。設。ク。ル。ノ。類。ナリ。要。ス。ル。ニ。教。育。營。造。物。ノ。設。備。ハ。性。質。上。各。人。ノ。自。由。ノ。範。圍。ヲ。制。限。セ。ス。シ。テ。其。ノ。目。的。ヲ。達。ス。ル。ヲ。通。則。ト。ス。ル。カ。故。ニ。

特ニ法律ノ規定ヲ要セス。其ノ公衆ニ對スル使用ノ方法ハ其ノ營造物規則ヲ以テ之ヲ定ムル所ナリ。

(法令)中學令明治十九年四月勅令 高等學校令明治二十七年六月勅令 師範學校令明治十九年四月勅令 帝國大學令明治十九年三月勅令

第四款 宗教

信○教○ノ○自○由○ハ○憲○法○之○ヲ○保○障○ス。日○本○臣○民○ハ○安○寧○秩○序○ヲ○妨○ケ○ス。及○臣○民○タ○ル○義○務○ニ○背○カ○サ○ル○限○ニ○於○テ○信○教○ノ○自○由○ヲ○有○ス。内○心○ノ○信○仰○歸○依○ハ○法○令○ヲ○以○テ○之○ヲ○問○ハ○サ○ル○ノ○ミ○ナ○ラ○ス。其○ノ○外○形○ニ○顯○ハ○ル○ル○禮○拜○亦○安○寧○秩○序○ヲ○妨○ケ○ス。臣○民○タ○ル○ノ○義○務○ニ○背○カ○サ○ル○限○ニ○於○テ○自○由○ナ○リ。而○シ○テ○憲○法○ノ○此○ノ○宣○言○ノ○精○神○ハ○又○信○教○ノ○自○由○ヲ○主○張○シ○テ○國○家○ノ○秩○序○及○臣○民○ノ○義○務○ニ○反○ス○ル○者○ヲ○禁○制○ス○ヘ○キ○主○旨○ニ○在○リ。

宗○教○ニ○關○シ○テ○ハ○法○令○未○タ○備○ハ○ラ○ス。宗○教○ノ○制○規○亦○一○ナ○ラ○ス。行○政○ノ○慣○行○ニ○於○テ○神○道○佛○教○ハ○特○ニ○之○ヲ○公○認○シ○監○督○ス○ト○雖○其○ノ○他○ノ○宗○教○ヲ○禁○制○セ○ス。唯○一○般○ノ○秩○序○警○察○ニ○依○リ○其○ノ○禮○拜○ヲ○保○護○シ○之○ニ○伴○フ○危○害○ヲ○妨○ク○ノ○ミ。社○寺○ハ○公○ノ○禮○拜○所○ト○シ○テ○之○ヲ○保○護○ス。之○ヲ○犯○シ○又○ハ○不○敬○ノ○所○爲○ア○ル○者○ハ○罰○ス。神○佛○各○派○ノ○教○規○宗○制○及○神○職○僧○侶○教○師○ノ○身○分○ニ○關○シ○テ○ハ○内○務○大○臣○監○督○ノ○權○ヲ○行○フ。信○教○上○ノ○組○合○ハ○慣○行○ニ○依○リ○之○ヲ○認○メ、一○般○ノ○結○社○ノ○自○由○ノ○範○圍○ニ○於○テ○之○ヲ○許○ス。ナリ。神佛各派ノ外ハ行政ノ規則ヲ以テ之ヲ規律セス。

第五章 司法

第一節 司法

司法權ハ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ。司法ノ職守ハ民事、刑事ノ審判ヲ其ノ主眼トス。然レトモ裁判所ノ權限ハ法律ノ規定ニ由リテ決スヘキモノニシテ司法ノ範圍ハ成法ニ依リテ説明スヘク一定ノ主義ヲ掲ケテ其ノ特質ヲ示スコト難シ。司法トハ通常裁判所ノ權限ニ屬スル事項ノ汎稱ナリ。司法ノ特質ハ私權ノ侵害ニ對シ之ヲ保護スルニ在リト云フノ説明ハ普通ニ行ハルレトモ蓋狹キニ失ス。刑事ノ裁判及通常裁判所ノ權限ニ屬スル公法上ノ事件ハ公ノ秩序ヲ目的トス。故ニ行政ハ公益ト秩序トヲ目的トシ司法ハ私權ヲ保護スト云フノ解義ハ正確ナラス。行政ト司法トヲ性質上異種ノ者ナリト解シタルハ舊說ノ謬見ナリ。司法ノ特性ハ其ノ目的ニ在ラス其ノ形式ニ存スルナリ。

司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ之ヲ行フ。裁判所ノ大權ニ對スル關係ハ行政官廳ノ大權ニ對スルト異ナル是レ其ノ特質ノ一ナリ。裁判官ハ獨立ノ法律ノ解釋ヲ以テ判決シ上級官府ノ訓示ヲ受ケス。是レ其ノ特質ノ二ナリ。裁判ハ法律ニテ定メタル訴訟手續ヲ履ムニ非サレハ之ヲ爲サス。是レ其ノ特質ノ三ナリ。而シテ其ノ普通ノ範圍ハ民事及刑事ノ爭訟ヲ裁斷スルニ在ルナリ。民事ハ私權ノ爭訟ノ審判ニシテ刑事ハ公ノ秩序ヲ毀損スルノ行為ヲ處罰ス。而シテ法律ハ又特ニ行政法上ノ爭議ノ審判ヲ通常裁判所ノ權限ニ屬セシムルコトアリ。之ニ加フルニ裁判所ハ非訟事件ト稱シ權利ノ爭訟ノ裁判ニ非スシテ私權ヲ保證スル行為ヲ其ノ職務ノ範圍トス。故ニ所謂司法ノ範圍ハ一定ノ主義ヲ以テ律スヘカラス一ニ法律ノ規定ニ依リテ之ヲ論スヘキナリ。裁判所ハ司法權ノ行使ノ外ニ司法行政事務ト稱シ司法權ノ行使ヲ補助スル各種ノ行政事務ヲ行フコトアリ。所謂司法行政事務ハ司法大臣ノ主管ニ屬シ司法裁判權ノ範圍ノ外ニ在リ一般ノ行政ノ通則ヲ以テ之ヲ論スルコトヲ得ヘシ。

第二節 裁判所

三百

裁判所ノ構成權限及裁判手續ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。通常司法裁判所ハ區裁判所。地方裁判所。控訴院。及大審院ノ四種トス。裁判所ノ設立廢止及管轄區域ハ亦法律ヲ以テ之ヲ定ムルナリ。

區裁判所ノ裁判權ハ單獨判事之ヲ行フ。區裁判所ノ權限ハ稍輕易ナル民事及刑事ノ裁判。及非訟事件ノ取扱ニシテ。裁判所構成法第十四條第十五條及第十六條ニ之ヲ列記セリ。民事訴訟ニ於テハ百圓ヲ超過セサル金額又ハ價額百圓ヲ超過セサル物ニ關ル請求。及其ノ他價格ニ拘ハラス稍輕易ニシテ迅速ヲ要スル事件ノ類。刑事ニ於テハ違警罪。及本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若ハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪ノ類。非訟事件ニ於テハ各種ノ登記。及後見人若ハ管財人ノ監督ノ類ノ如キナリ。其ノ權限ハ裁判所構成法ノ列記及其ノ他ノ法律ノ規程ニテ定マル所ニシテ悉ク之ヲ茲ニ掲載セス。

地方裁判所ハ第一審ノ合議裁判所ナリ。地方裁判所ニ民事部。及刑事部ヲ設ケ審判ヲ司ル。地方裁判所ノ裁判權ハ民事訴訟ニ於テハ第一審トシテ區裁判所ノ權限又ハ控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ其ノ他ノ請求。第二審トシテハ區裁判所ノ判決ニ對スル控訴。及區裁判所ノ判決ニ對スル控訴。及區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告ヲ管轄シ。刑事訴訟ニ於テハ第一審トシテ區裁判所ノ權限並ニ大審院ノ特別權限ニ屬ヒサル刑事訴訟。第二審トシテハ區裁判所ノ判決ニ對スル控訴。及區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告ヲ管轄ス。地方裁判所ハ破産事件ニ付一般ノ裁判權ヲ有シ。又非訟事件ニ關ル區裁判所ノ決定及命令ニ對シ法律ニ定メタル抗告ニ付裁判權ヲ有ス。

控訴院ハ第二審ノ合議裁判所ナリ。民事部。及刑事部ヲ設ケ審判ヲ司ル。其ノ裁判權ハ地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴。區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付爲シタル地方裁判所ノ判決ニ對スル上告。及地方裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告ヲ管轄ス。

大○審○院○ハ○最○高○裁○判○所○ニ○シ○テ○合○議○制○ニ○依○リ○裁○判○權○ヲ○行○フ○。民○事○部○及○刑○事○部○ヲ○設○ク○。
 大○審○院○ノ○裁○判○權○ハ○終○審○ト○シ○テ○ハ○控○訴○院○ノ○判○決○ニ○對○ス○ル○上○告○及○控○訴○院○ノ○決○定○及○
 命○令○ニ○對○ス○ル○法○律○ニ○定○メ○タ○ル○抗○告○第○一○審○ニ○シ○テ○終○審○ト○シ○テ○ハ○刑○法○第○二○編○第○一○
 章○及○第○二○章○ニ○掲○ケ○タ○ル○重○罪○竝○ニ○皇○族○ノ○犯○シ○タ○ル○罪○ニ○シ○テ○禁○錮○又○ハ○更○ニ○重○キ○刑○
 ニ○處○ス○ヘ○キ○モ○ノ○豫○審○及○裁○判○ヲ○管○轄○ス○。
 各○裁○判○所○ニ○檢○事○局○ヲ○附○置○ス○。檢○事○ハ○刑○事○ニ○付○公○訴○ヲ○起○シ○其○ノ○取○扱○上○必○要○ナ○ル○手○
 續○ヲ○爲○シ○法○律○ノ○正○當○ナ○ル○適○用○ヲ○請○求○シ○及○判○決○ノ○適○當○ニ○執○行○セ○ラ○ル○ル○ヤ○ヲ○監○視○
 シ○。又○民○事○ニ○於○テ○モ○必○要○ナ○リ○ト○認○ム○ル○ト○キ○ハ○通○知○ヲ○求○メ○其○ノ○意○見○ヲ○述○フ○ル○コ○ト○
 ヲ○得○。又○裁○判○所○ニ○屬○シ○若○ハ○之○ニ○關○ル○司○法○及○行○政○事○件○ニ○付○公○益○ノ○代○表○者○ト○シ○テ○法○
 律○上○其○ノ○職○權○ニ○屬○ス○ル○監○督○事○務○ヲ○行○フ○。
 檢○事○ハ○裁○判○所○ニ○對○シ○獨○立○シ○テ○其○ノ○事○務○ヲ○行○フ○者○ニ○シ○テ○判○事○ノ○裁○判○事○務○ニ○干○涉○
 ス○ル○コ○ト○ヲ○得○ス○。檢○事○ハ○其○ノ○事○務○ヲ○行○フ○ニ○付○キ○上○級○官○廳○ノ○命○令○ニ○從○フ○ヘ○キ○コ○ト○
 他○ノ○行○政○官○ニ○同○シ○。

各○裁○判○所○ニ○裁○判○所○書○記○及○執○達○吏○ヲ○置○ク○。書○記○ハ○上○官○ノ○命○令○ニ○從○ヒ○書○類○記○録○ノ○コ○
 ト○ヲ○司○ト○リ○裁○判○所○ノ○開○廷○ニ○於○テ○ハ○之○ニ○參○座○シ○裁○判○長○ノ○命○令○ニ○從○ヒ○法○律○ニ○定○メ○
 タ○ル○職○務○ヲ○行○フ○。執○達○吏○ハ○裁○判○所○ヨ○リ○發○ス○ル○文○書○ノ○送○達○ヲ○司○ル○ヲ○職○ト○ス○。

(法令)裁判所構成法 明治二十三年 二月法律

第三節 辯護士及公證人

辯○護○士○ハ○訴○訟○審○判○ニ○於○テ○當○事○者○ノ○利○益○ヲ○代○表○シ○之○ヲ○辯○護○ス○ル○ヲ○職○ト○ス○。當○事○者○
 ノ○委○任○ヲ○受○ケ○又○ハ○裁○判○所○ノ○命○令○ニ○從○ヒ○法○律○ニ○定○メ○タ○ル○職○務○ヲ○行○フ○ナ○リ○。辯○護○士○
 ノ○職○ハ○司○法○裁○判○制○度○ノ○一○部○ヲ○爲○ス○者○タ○リ○。然○レ○ト○モ○之○ヲ○國○家○ノ○官○府○ト○爲○サ○ス○私○
 ノ○業○務○ト○シ○テ○營○マ○シ○ム○。而○シ○テ○司○法○制○度○ノ○一○部○ヲ○爲○シ○公○益○ニ○關○ス○ル○甚○大○ナ○ル○カ○
 故○ニ○法○律○ヲ○以○テ○辯○護○士○ノ○資○格○職○務○及○監○督○ヲ○規○定○ス○ル○ナ○リ○。
 辯○護○士○タ○ル○ノ○資○格○ハ○日○本○臣○民○ニ○シ○テ○民○法○上○ノ○能○力○ヲ○有○ス○ル○成○年○ノ○男○子○ニ○シ○テ○
 司○法○大○臣○ノ○定○ム○ル○辯○護○士○試○驗○規○則○ニ○依○リ○試○驗○ニ○及○第○シ○タ○ル○者○タ○ル○コ○ト○ヲ○要○ス○。

但シ判事檢事タル資格ヲ有スル者及法律ノ學識アル者ニ關シテハ試験ヲ要セサルノ特例アリ。

各地方裁判所ニ辯護士名簿ヲ備ヘ之ニ登録ヲ受ケタル者ハ辯護士ノ職ヲ行フコトヲ得。辯護士ハ登録後三年ヲ經過スルニ非サレハ大審院ニ於テ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス。又正當ノ理由ヲ證明スルニ非サレハ裁判所ノ命シタル職務ヲ行フヲ辭スルコトヲ得ス。

辯護士ハ係争權利ヲ買受クルコトヲ得ス。又左ニ掲クル訴訟事件ニ付其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス。(一)相手ノ協議ヲ受ケテ之ヲ贊助シ又ハ委任ヲ受ケタル事件、(二)判事檢事奉職中取扱ヒタル事件、(三)仲裁手續ニ依リ仲裁人ト爲リテ取扱ヒタル事件。

辯護士ハ其ノ所屬地方裁判所毎ニ辯護士會ヲ設立シ所屬地方裁判所檢事正ノ監督ヲ受ク。辯護士ハ辯護士會ニ加入スルニ非サレハ職務ヲ行フコトヲ得ス。辯護士會ハ其ノ職業ノ規律ヲ正シ公同ノ利益ヲ全フスル爲ニ設クル者ニシテ會

則ヲ定メ司法大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ施行ス。辯護士會ノ會議ニシテ法律命令及辯護士會則ニ違フトキハ司法大臣ハ其ノ議決ヲ無効トシ又議事ヲ停止ス。辯護士ニシテ辯護士法又ハ辯護士會則ニ違背シタル所爲アルトキハ檢事正ハ會長ノ申告ニ依リ又ハ職權ヲ以テ懲戒。訴追ヲ檢事長ニ請求スヘシ。辯護士ニ對スル懲戒事件ニ付テハ管轄控訴院ニ於テ裁判ス。懲戒罰ハ第一、誹責、第二、百圓以下

ノ過料、第三、一年以下ノ停職、第四、除名トス。公證人ハ人民ノ囑託ニ應ジ民事ニ關スル公證書ヲ作ルヲ以テ職務トス。公證人ハ辯護士ト同シク司法制度ノ補助機關タル者ニシテ司法機關ノ監督ノ下ニ非訟事件ヲ取扱フナリ。

公證人ノ作リタル公正證書ハ完全ノ證據ニシテ其ノ正本ニ依リ裁判所ノ命令ヲ得テ執行スルカアルモノトス。公證人ハ理由ナクシテ人民ノ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス。若シ之ヲ拒ミタルトキハ囑託人ハ其ノ理由ヲ記シテ渡スコトヲ請求スルヲ得ヘシ。公證人ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ裁判所ニ抗告スルコトヲ

得公證人ハ原本其ノ他書類ノ本書ハ其ノ役場ニ保存シ他ノ官吏ノ公證ヲ受ク
ルメノ外裁判所ノ命令ニ依ルニ非サレハ役場外ニ出スコトヲ得ス。裁判所ノ
命令ニ依ルノ外關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ渡ス可ラス。又其ノ取扱ヒタル事件
ヲ漏洩スヘカラス。

公證人タル者ハ滿二十五年以上ニシテ定式ノ試験ヲ經テ身元保證金ヲ裁判所
ニ納メ且ツ成年二名以上ノ品行保證人アルコトヲ要ス。但シ判事檢事辯護士タ
リシ者及法律ノ學識アル者ハ試験ヲ要セサルノ特例アリ。公證人ハ區裁判所ノ
管轄地ヲ以テ受持區トシ其ノ區内ニ役場ヲ設ケ職務ヲ行フ。公證人ハ司法大臣
ニ隸屬シ管轄地方裁判所ニ於テ之ヲ監督シ公證人規則ニ依リ懲戒ノ處分ヲ行
フ。

(法令)辯護士法明治二十六年三月法律 公證人規則明治十九年八月法律

第四節 争訟事件及非訟事件

法律ニ依リ裁判所ノ獨立ノ職權ニテ行フ事件ヲ總稱シテ司法ト謂フ。通常裁判
所ノ司法事件ハ分テ争訟事件及非訟事件トス。争訟事件ハ民事及刑事ノ争訟ヲ
裁斷スルモノニシテ通常裁判權ノ主要タル者ナリ。
争訟ノ裁斷ハ法律ノ定ムル一定ノ形式ニ由ルヲ要ス。凡ソ官府ノ公務ヲ處理ス
ルハ一定ノ規程ニ依ルコト通則タリ。然レトモ裁判所カ其ノ權限ヲ行フニ於テ
ハ其ノ形式ハ法律ヲ以テ之ヲ定メ命令及上官ノ訓令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ
許サス。之ヲ訴訟法ト稱シ訴訟法ニ違反シタル裁判ハ効力ヲ有セス。又係争事件
ノ當事者カ權利トシテ其ノ裁判手續ノ上ニ參與スルコトヲ訴訟法ノ本旨ト爲
ス。是レ通常行政廳ノ事務規程ト性質ヲ異ニスル所ナリ。
争訟事件ハ法律ノ争議ナリ。然レトモ必シモ原告被告兩々相對シ反對ノ意見ヲ主
持スルノ事實アル場合ノミヲ指スニ非ス。其ノ事件ニ付法ノ解釋適用ニ於テ争
議ヲ爲シ得ヘキ性質ノ者ニシテ訴訟法ハ其ノ本旨ニ從ヒ定メタル方式ヲ履テ
之ヲ判決スヘキ者タルヲ云フナリ。

争訟事件ハ民事及刑事ノ二種ニ分ツ其ノ争訟事件タル形式ニ於テハ同シ其ノ争訟ノ實質ハ異ナルカ故ニ各其ノ性質ニ隨ヒテ裁判手續ヲ定ム民事訴訟法及刑事訴訟法是レナリ。

民事ハ私法上ノ争訟ナリ私法ノ性質ハ其ノ法則ニ依リ直ニ權利及義務ノ發生スルコトニ在リ私法ハ個人相互ノ關係ヲ規定スルニ於テ各人ノ私權ト義務トノ範圍ヲ確定ス故ニ民事裁判ハ私法ノ法則ニ付キ争ヲ斷スルト同事ニ權利義務ヲ裁斷ス法則ノ適用ト權利ノ判決トカ性質上一致スルコトヲ以テ民事裁判ノ性質トス。

私權ハ其ノ實體若ハ行使ヲ拋棄スルコトヲ得私權ハ之ヲ主張セサレハ裁判所ハ之ヲ保護セス又之ヲ主張スル限度ニ於テ之ヲ裁斷スルノ原則アル所以ナリ。是レ民事訴訟ノ本領ニシテ其ノ審判手續ハ多ク此ノ原則ノ主旨ニ從フノ規程ナリ。刑事ハ刑法上ノ争訟ナリ刑法ハ公法ニ屬シ公ノ秩序ヲ維持ス權利義務ノ準則

ニ非ス裁判所ハ刑罰法ノ規定ヲ解釋シ適用ス其ノ法則ノ適用ニ付キ當事者ヲシテ參與セシメ其ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス故ニ刑事訴訟ノ原則ハ民事訴訟ニ同シカラス裁判官ハ職權ニ依リ事實ヲ訊問シ獨立ノ意見ヲ以テ法則ノ適用ヲ決定スルナリ刑事裁判ハ單ニ法則ノ適用ヲ正スニ在リテ權利義務ノ裁定ニ非サルナリ。

民事及刑事ノ訴訟法ハ特別ノ法律トシテ制定セラレ訴訟審判ノ手續ヲ規程ス其ノ性質ハ行政法ニ屬スレトモ講習ノ便宜ノ爲ニ訴訟法ハ民法刑法ト共ニ特ニ專門ノ學科ヲ爲スノ慣例ニ從ヒ今茲ニ之ヲ述ヘス。

非訟事件ハ裁判所カ其ノ獨立ノ職權ニ於テ取扱フ事件ノ總稱ニシテ司法獨立ノ權限ニ屬スルト法ノ争訟ノ裁斷ニ非サルトノ標準ニ依リテ之ヲ普通ノ行政處分及民事刑事ノ争訟事件ト區別スヘキノ外其ノ事項ニ付概括シテ之ヲ一貫スル主義ヲ以テ其ノ範圍ヲ指定シ難シ非訟事件ノ主タル目的ハ裁判所カ權利關係ノ成立變更及消滅ニ干渉シ權利ヲ確認シ其ノ侵犯ヲ豫防スルニ在リ然レ

トモ行政處分トシテモ亦私權ヲ保確シ其ノ侵害ヲ豫防スルヲ目的トスル者多ク實質上其ノ事件カ非訟事件タルヘキヤ行政處分ニ屬スヘキヤハ一ニ便宜ニ由ル成法上ノ問題ニシテ之ヲ總括シテ説明スヘカラス。例セハ不動産及船舶ニ關スル權利關係ノ登記及後見人若ハ管財人ノ監督ニ關スル事項ノ如キノ類ハ司法獨立ノ權限ニ於テ裁判所之ヲ行フカ故ニ非訟事件タル者ニシテ其ノ實質ハ行政官廳カ戶籍身分ニ關スル事件ヲ登録シ保認スルノ類ト異ナルコトナシ。唯之ヲ行政處分トスルトキハ行政監督權ニ依リ之ニ關スル法律ノ解釋ヲ定メ又行政ノ手續ニ由リテ之ヲ決定スルノ差アルノミ。故ニ所謂非訟事件ハ之ヲ行政處分トシテ內政ノ一項ニ解説スルコト或ハ其ノ實質ノ要領ヲ得ルニ似タリ但シ形式上ノ理由ト普通ノ慣例トニ依リ之ヲ司法權行使ノ一項トシテ爭訟事件ト共ニ特別ノ講習ニ任スルナリ。

第五節 司法行政事務

司法行政事務トハ司法大臣ノ職司ニ屬スル行政事務ニシテ司法權行使ノ補助ヲ爲ス者ヲ汎稱ス。司法大臣ハ各裁判所及檢事局ヲ監督シ檢察事務ヲ指揮シ恩赦及復權ニ關スル事項其ノ他諸般ノ司法行政事務ヲ管理ス。司法大臣ハ其ノ司法行政ノ職務ヲ行フニ於テ法律ニ由リ各裁判所長及檢事ノ首坐ヲ其ノ行政機關トシテ之ヲ施行ス。此ノ場合ニ於テハ判事及檢事ハ行政ノ官府トシテ其ノ職務ノ行使ニ付キテハ司法大臣ノ監督訓令ノ下ニ在リ。又其ノ相互ノ間各級行政官廳ノ監督權ノ普通ノ原則ニ依リテ其ノ職務ヲ行フ者ニシテ獨立シテ司法權ヲ行フ場合ト其ノ地位ヲ異ニスルナリ。

司法行政事務ハ司法權行使ヲ補助スルノ事務タリ。是レ其ノ事務ノ性質ヲ明カニス。然レトモ總ヘテ司法權ノ行使ヲ補助スル事務ハ必シモ所謂司法行政事務ニ非ス。官制ニ依リ司法大臣ノ主管ニ屬スル事項ニ限ル。是レ其ノ範圍ヲ更ニ明カニスルナリ。此ノ二者ノ標準ニ依リテ法律カ司法機關ニ委任スル行政事務ノ本領ヲ解スヘシ。

司法行政事務ノ範圍ハ檢察カ刑事訴訟法上ニ於ケル檢察事務ノ外、身分及職務ノ監督、及刑ノ執行ノ類ヲ主要ナル者トス。司法大臣ハ裁判所ノ設備、及管轄、區域等ニ付キ法律ノ定ムル所ニ依リ、其ノ施行ヲ司リ、裁判所及之ニ附屬スル司法制度ヲ維持シ、監視シ、檢察ノ事務ニ付キテハ、檢察ヲ指揮シ、恩赦及復權ニ關スル事項ニ付キテハ、大權ノ行使ヲ補弼シ、執行ス。而シテ、其ノ行政上ノ地位及職權ノ性質ニ於テハ、一般ノ行政主務大臣ト異ナルコトナシ。總テ司法制度ニ關スル法律命令ノ施行ニ任シ、其ノ主管ノ事務ニ付官制及法律ニ依リ命令ヲ發スルノ權ヲ有ス。

行政法大意終

明治廿九年十一月廿五日印刷
明治廿九年十一月廿八日發行

並製正價金壹圓
上製正價壹圓貳拾錢

著者 穂積 八束

東京市麹町區下六番町四十八番地

印刷者 八尾新助

東京市神田區錦町三丁目八番地

發賣所 八尾商店

東京市京橋區銀座四丁目

發賣所 八尾書店

東京市神田區表神保町

發賣所 斐閣

東京市神田區一橋通町



大 賣 捌 所

| | | | |
|------------|--------------|---------------|--------|
| 東京神田區 全 | 有斐閣大分 | 甲斐治平 上野前橋市 | 煥平堂 |
| 全 日本橋區 | 明法堂 廣島 | 積善館支店 福島市本通 | 博向堂 |
| 全 大坂備後町 | 大倉書店 岡山西大寺町 | 武内彌三郎 岩代若松町 | 田中善平 |
| 全 全 本丁 | 丸善書店 徳島通町 | 阪井萬吉 仙臺大町 | 木文商店 |
| 全 全 北久太郎町 | 林平次郎 高知市 | 澤本駒吉 全 | 高藤書店 |
| 全 京都佛光寺 | 岡島支店 神戸元町 | 吉岡支店 全 國分町 | 佐勘書店 |
| 全 全 河原町 | 盛文館 相生橋詰 | 熊谷久榮堂 陸奥青森町 | 鎌田政通 |
| 全 全 東洞院 | 吉岡平助 和歌山市 | 平井文助 秋田中通町 | 鈴木鐵治 |
| 全 全 寺町 | 岡島眞七 全 | 三宅小次郎 福井佐佳枝中下 | 品川大右衛門 |
| 全 名古屋玉屋町 | 柳原喜兵衛 津地頭領町 | 川島九右衛門 全 | 日新館 |
| 全 全 本町 | 積善館 全 大門町 | 高須廣治 富山四十物町 | 岡崎左喜介 |
| 全 熊本新三丁目 | 東枝吉兵衛 三河豊橋町 | 谷島屋源三郎 高岡横田町 | 中田書店 |
| 全 鹿兒島仲町 | 大黒屋書店 遠江濱松町 | 廣瀬市藏 越後高山上段坂 | 高橋恒堂 |
| 佐賀 | 村上勘兵衛 静岡岡江川町 | 柳正堂 新潟古町六番丁 | 林富吉 |
| 全 福岡博多 | 田中治兵衛 甲府 | 丸善支店 越後水原丁 | 西村六平 |
| 全 松江天神町 | 片野東四郎 横濱辨天通 | 宇都宮源平 全 | 目黒十郎 |
| | 川瀬代助 常陸水戸 | 全 支 居 全 | 松田周平 |
| | 佐藤甚造 加賀小松 | 内田濱吉 函館末廣丁 | 魁文舎 |
| | 長崎次郎 全 金澤 | 淡海堂 全 | |
| | 吉田幸兵衛 野州宇都宮 | 島林専二郎 | |
| | 西村萬次郎 近江大津 | 西澤喜太郎 | |
| | 森岡 全 | 水琴堂 | |
| | 積善館支店 信濃長野町 | | |
| | 川岡清助 全 松本町 | | |

大 賣 捌 所

此書係由東京神田區有斐閣大分
 明法堂 廣島 大倉書店 岡山西大寺町
 丸善書店 徳島通町 林平次郎 高知市
 岡島支店 神戸元町 盛文館 相生橋詰
 吉岡平助 和歌山市 岡島眞七 全
 柳原喜兵衛 津地頭領町 積善館 全 大門町
 東枝吉兵衛 三河豊橋町 大黒屋書店 遠江濱松町
 村上勘兵衛 静岡岡江川町 田中治兵衛 甲府
 片野東四郎 横濱辨天通 川瀬代助 常陸水戸
 佐藤甚造 加賀小松 長崎次郎 全 金澤
 吉田幸兵衛 野州宇都宮 西村萬次郎 近江大津
 森岡 全 積善館支店 信濃長野町
 川岡清助 全 松本町

大 賣 捌 所

| | | | | |
|---------|--------|--------|---------|--------|
| 東京神田區 | 有斐閣大分 | 甲斐治平 | 上野橋橋市 | 煥乎堂 |
| 全 日本橋區 | 明法堂廣島 | 積善館支店 | 福島市本通 | 博向堂 |
| 全 大倉書店 | 岡山西大寺町 | 武内彌三郎 | 岩代若松町 | 田中善平 |
| 全 丸善書店 | 德島通町 | 阪井萬吉 | 仙臺大町 | 木文齋 |
| 全 林平次郎 | 高知市 | 澤本駒吉 | 全 國分町 | 高藤書店 |
| 全 岡島支店 | 神戸元町 | 吉岡支店 | 全 國分町 | 佐勘書店 |
| 全 盛文館 | 相生橋詰 | 熊谷久榮堂 | 陸奥青森町 | 鎌田政通 |
| 全 吉岡平助 | 和歌山市 | 平井文助 | 秋田中通町 | 鈴木鐵治 |
| 全 岡島眞七 | 全 | 三宅小次郎 | 福井佐佐枝中下 | 品川大右衛門 |
| 全 柳原喜兵衛 | 津地頭領町 | 川島九右衛門 | 全 | 日新館 |
| 全 積善館 | 大門町 | 高須廣治 | 富山四十物町 | 岡崎左善介 |
| 全 東枝吉兵衛 | 三河豐橋町 | 谷島屋源三郎 | 高岡橋田町 | 中田書店 |
| 全 大黒屋書店 | 遠江濱松町 | 廣瀨市藏 | 越後高山上裏服 | 學海堂 |
| 全 村上勘兵衛 | 靜岡江川町 | 柳正堂 | 新潟吉町六番丁 | 高橋恒 |
| 全 田中治兵衛 | 甲府 | 柳正支店 | 越後水原丁 | 林富吉 |
| 全 片野東四郎 | 横濱辨天通 | 柳正支店 | 長岡丁 | 西村六平 |
| 全 川瀬代助 | 常陸水戸 | 宇都宮源平 | 全 | 日黒十郎 |
| 全 佐藤長造 | 加賀小松 | 全 支 居 | 全 | 松田周平 |
| 全 長崎次郎 | 金澤 | 淡海堂 | 函館末廣丁 | 魁文舎 |
| 全 吉田幸兵衛 | 野州宇都宮 | 島林專二郎 | 其他各地書林 | |
| 全 西村萬次郎 | 近江大津 | 西澤喜太郎 | | |
| 全 森岡榮 | 全 | 水琴堂 | | |
| 全 積善館支店 | 信濃長野町 | | | |
| 全 川岡清助 | 全 松本町 | | | |

民法進化論

國家至重ノ法典タル民法ハ今ヤ兩院ノ協賛ヲ經テ公布セラレタリ此時ニ當リ國民タル者殊ニ法學又ハ法律ノ實務ニ從事スル者ニ大要務トシテ其法理ヲ攷究シ其適用ヲ誤ラザルコトヲ力メサルヘカラス然ルニ新法典ハ文簡ニシテ意深ク近世諸國ノ立法例及學說ヲ參考シテ其粹ヲ採リ專ラ指針トシテ大則ヲ掲ケテ各種ノ適用ニ涉ラス故ニ其效用ノ著大ナルト共ニ其研究ニ一層ノ困難ヲ加ヘ專門有識ノ士ニ非ザレバ正確ニ其法理ヲ説明スルニ難シトス君シ一朝ニ其解釋ヲ誤ルニ於テハ容易カラサル結果ヲ惹起スルコトヲ保セサルナリ弊補此ニ見ル所アリ方今有名ナル大家諸先生ニ請ヒ學理的ニ新法典各部ノ法理原則ヲ説明スル著書ヲ出版シ以テ漸次ニ完全ナル民法全書ヲ大成セントス其價值ニ至リテハ弊補ノ敢テ味カスルヲ俟タス苟モ國民トシテ其各自ノ利害ニ大關係アル法典ノ理義ヲ明カニセシムル欲スル者ハ一讀シテ其座右ニ欠クヘカラザル無比ノ良書タルコトヲ知ルヘシ

法典調査會起草委員 法科大學教授法學博士 穂積陳重先生著

- 第一編 總論
- 第二編 親族
- 第三編 債權
- 第四編 物權
- 第五編 訴訟

近刊 菊判全五册

右ハ古今各國ノ民法沿革ニ徴シテ民法進化ノ原理ヲ歴史的且ツ比較的ニ説明シ併セテ本邦新法典ノ編纂及ヒ其法理ノ大本ヲ論述センコトヲ目的トセル著書ナリ

民法全書

● 民法總論

法政學堂會館編 富井政章先生著

一冊 判例 凡金全 四拾錢冊

● 民法物權論

法政學堂會館編 熊野敏三先生著

一冊 判例 凡金全 四拾錢冊

● 民法物權論

法政學堂會館編 岸本辰雄先生著

一冊 判例 凡金全 四拾錢冊

● 民法物權論

法政學堂會館編 高木豐三先生著

一冊 判例 凡金全 四拾錢冊

● 民法債權總論

法政學堂會館編 河村讓三郎先生著

一冊 判例 凡金全 四拾錢冊

● 民法債權原因論

法政學堂會館編 土方寧先生著

一冊 判例 凡金全 四拾錢冊

● 民法賣買交換論

法政學堂會館編 梅謙次郎先生著

一冊 判例 凡金全 四拾錢冊

參謀本部編纂御編纂

臺灣誌

全一冊

正價金四拾錢

故文學博士中村敬宇先生譯

品論

全一冊

正價金六拾錢

山縣陸軍大將題字 伊東海軍中將序文

大日本外戰史

全一冊

正價金壹拾四錢

陸軍教授司馬亨太郎君著

野外要務令問答

全一冊

正價金四拾貳錢

陸軍經理學校試驗用書

簿記學原論

全一冊

正價金壹拾錢

大審院判事本多康直君

民事訴訟法註解

全一冊

正價金四拾錢

大審院判事高木豐三君著

民事訴訟法論綱

全二冊

正價金貳拾六錢

日本佛國法律學士櫻部四郎先生

民法辭解

全一冊

正價金壹圓貳拾錢

前大審院判事日本佛國法律學士岸本辰雄先生著

帝國憲法要領

全一冊

正價金六拾錢

帝國大學教授法政博士福井八末先生著

憲法大意

全一冊

正價金四拾錢

帝國大學法政學部博士福井八末先生著

何政法大意

全一冊

正價金壹圓貳拾錢

海關正稅君 宮地賢右君共編

結正鑑

全一冊

正價金六拾錢

帝國大學各指定學校

試驗問題全集

全一冊

正價金六拾錢

附現行試驗規則

大日本民法

全一冊

正價金八拾錢

右四號活字刷版大本印刷鮮明以備法家書入之便

內閣登記局記録課編纂

明治職官沿革錄

附歷年官等級及定員表
全三冊
價金一圓七十錢

本書、廿八年度、於、職官、沿革、錄、附、之、以、歷年官等級及定員表、以、之、

內閣法制局編纂

裁判法規提要

有皮堅固美觀大本
價金一圓七十錢

●豫約、金、二圓五十錢、●送付、先物、●下包、利便、

●送付、先物、●下包、利便、●送付、先物、●下包、利便、

東京市京橋區東區四丁目

八尾商店

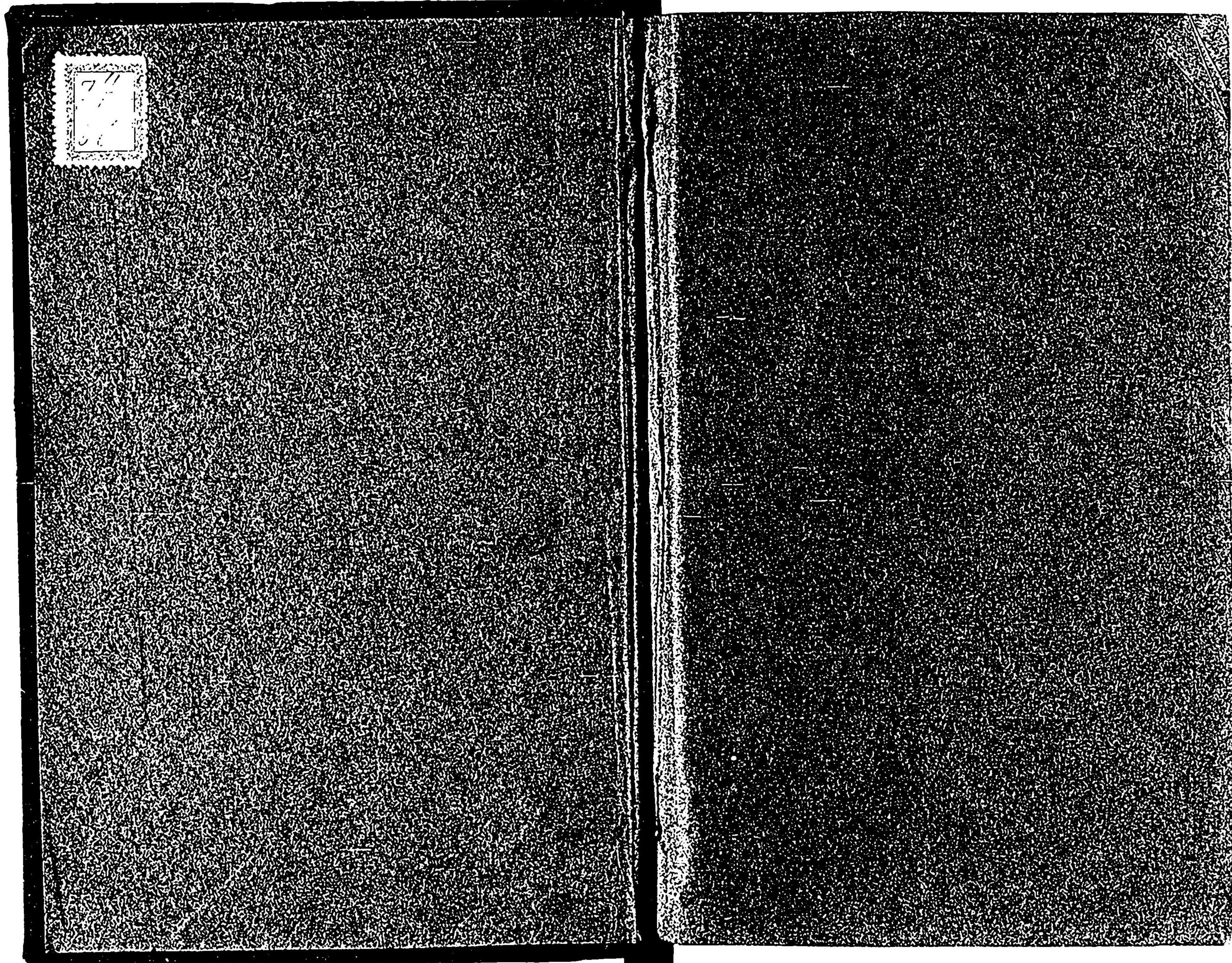
（電話一三三三）

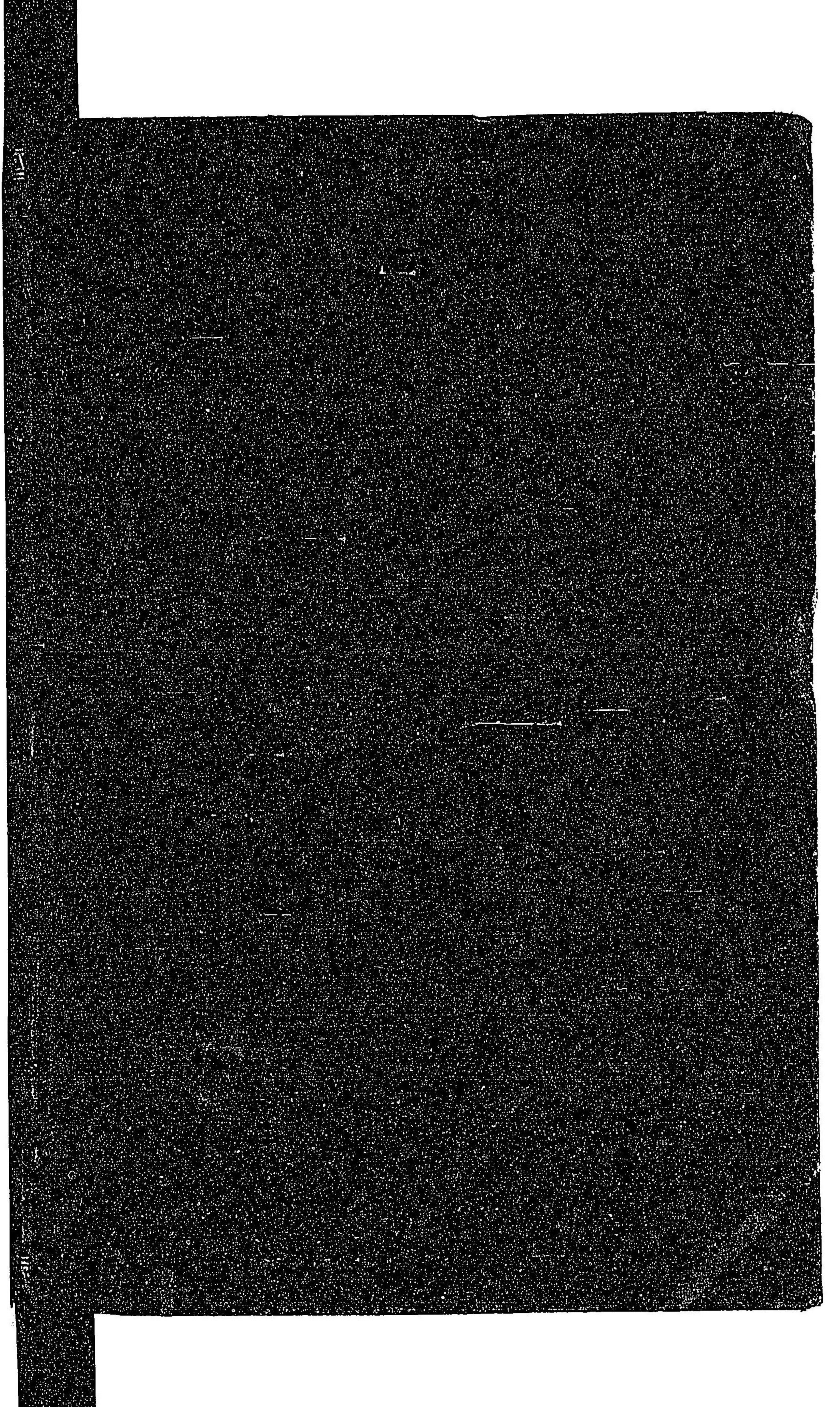
官報 職令全書 職員錄

（電話一三三三）

八尾書店

（電話五〇七）







032062-000-8

74-86

行政法大意

穂積 八束/著

M29

BBG-0085



